

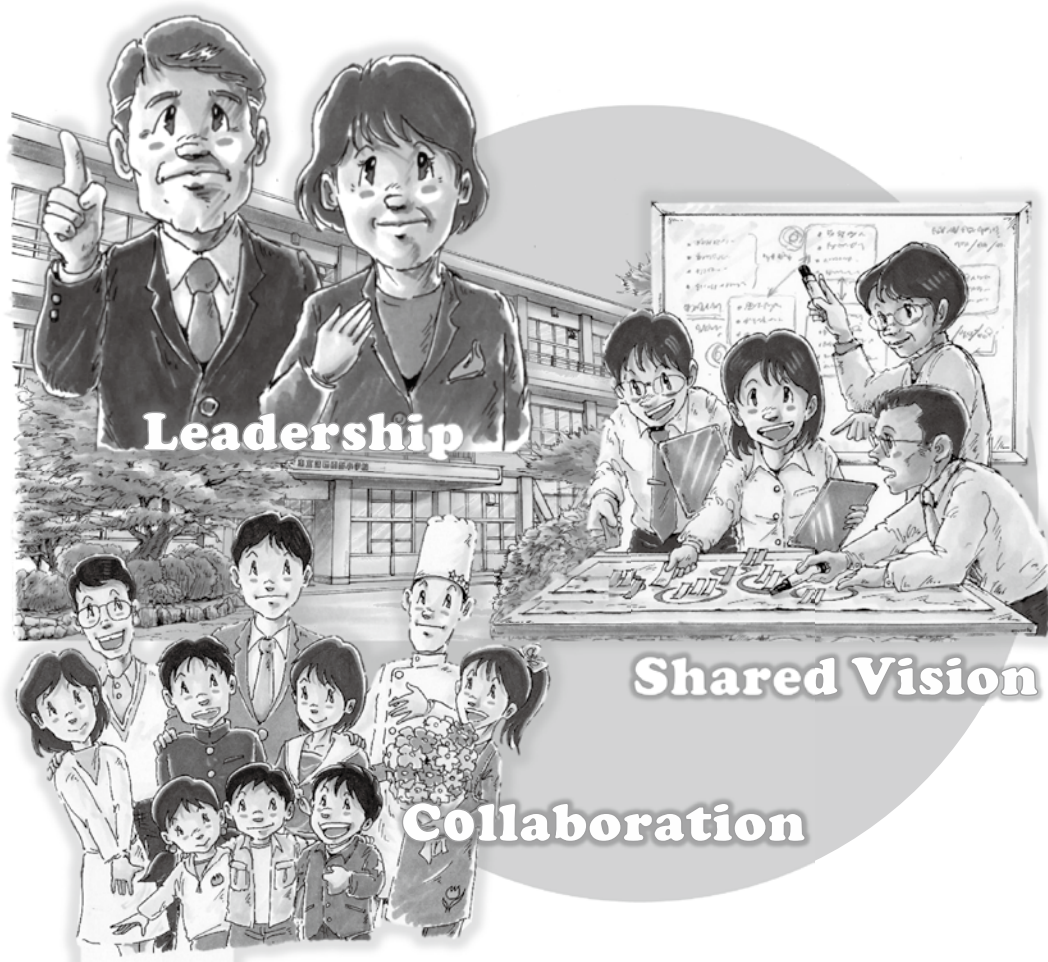
令和2年度

# 学校力を高める学校経営の在り方

—「つながり」で創る学校経営を目指す

各郡市の取組と課題—

<4年次 学校経営の実際>



三河小中学校長会  
学校力向上特別委員会

# 目 次

はじめに	1
<b>I 調査研究の基本方針と活動内容</b>	
1 本年度の研究主題と内容	2
2 学校力向上特別委員会の組織	4
3 活動経過	4
<b>II 本研究の概要</b>	
◇「つながり」で創る学校経営の在り方	
(1) 学校組織マネジメントを「つながり」という観点から再整理	5
(2) 「つながり」で創る学校経営を行う上で求められる校長の力量	6
<b>III 各郡市小学校の学校経営の実際</b>	
1 岡崎市立広幡小学校	8
2 碧南市立西端小学校	12
3 豊田市立浄水小学校	16
4 安城市立桜井小学校	20
5 西尾市立一色西部小学校	24
6 知立市立知立南小学校	28
7 高浜市立高取小学校	32
8 幸田町立荻谷小学校	36
9 豊川市立天王小学校	40
10 蒲郡市立蒲郡東部小学校	44
11 新城市立鳳来寺小学校	48
12 田原市立衣笠小学校	52
<b>IV 各郡市中学校の学校経営の実際</b>	
1 刈谷市立依佐美中学校	56
2 みよし市立三好中学校	60
3 豊橋市立吉田方中学校	64
4 設楽町立設楽中学校	68
<b>V 令和元年度本特別委員会報告書を活用した研修</b>	72
<b>【参考資料】</b>	
研修記録1「SDGsを達成するための地域特性を生かしたESD」	76
研修記録2「働き方改革時代の管理職に求められるタイムマネジメントスキル」	78
男女別年齢構成表（全三河小中学校）	80
三河小中学校長会特別委員会のあゆみ	81
おわりに	83
令和2年度 学校力向上特別委員会委員一覧	84

# はじめに

三河小中学校長会の特別委員会は、昭和57年度に「行事割愛検討特別委員会」としてスタートしました。以来39年、その時々における喫緊の課題について調査研究を行い、各会員の主体的な学校経営に多くの指針を与えるとともに、関係各方面に情報発信をしてきました。

平成11年度には「学校経営特別委員会」と名称変更し、校長としての主体的な学校経営の理念を明確にするための調査研究を行いました。さらに、平成23年度からは現在の「学校力向上特別委員会」と名称変更し、研究主題を「学校力を高める学校経営の在り方」として調査研究を継続しています。

平成23・24年度は校長研修の在り方、平成25・26・27年度は新任・若手教員の力量向上、ミドルリーダー育成、管理職等の力量向上と組織マネジメントに視点を当てた調査研究を進めました。そして、平成28年度は過去3年間をまとめ、更なる理解を深めるとともに、後輩につなぐために「Q&A化」を行いました。

それまでの調査結果から、組織マネジメントに視点を当てた取組がますます必要になってくること、あわせて、組織マネジメント論やリーダー論を学ぶ機会が十分でないことが課題として浮かび上がってきました。

そこで、平成29年度からの4年計画で、学校組織マネジメントの手法を「つながり」という観点から再整理し、学校内外がチームとして一体感をもち、つながって教育活動を実践していくための方途を探りたいと考えました。1年次は学校内のさまざまな活動をつなぐとともに、学校と地域をつなぐ役割を果たす「学校の共有ビジョンの形成と具現化」に視点を当てました。2年次はその共有ビジョンを実現するために必要な「協力体制と風土づくり」に視点を当てました。3年次は「チーム・ネットワークづくり」に視点を当て、諸資源を効果的・効率的に運用し、家庭・地域社会と協働・連携する取組と課題についてまとめました。そして、研究最終年次となる本年度は、これまでの研究成果を学校経営の実際として綴りました。

本年度も本書を基に、それぞれの郡市で取組の情報交換や計画的・組織的な研修等がなされ、次年度の更なる学校力の向上につながれば幸いです。

令和3年2月

学校力向上特別委員会委員長 野田 紀世子

# I 調査研究の基本方針と活動内容

## 1 本年度の研究主題と内容

平成29年3月、新学習指導要領が告示され、特筆すべき理念として「社会に開かれた教育課程」の実現が掲げられた。そこでは、児童生徒が「何ができるようになるか」、そのために「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を意識しながら教育内容を編成するカリキュラム・マネジメントを実施することが求められている。

したがって、校長のリーダーシップの下、着実にその準備を進め取り組んでいる。その一方で、学校の教育課題は、学力向上やいじめ・不登校、問題行動、特別支援教育への対応、更には学校の危機管理や保護者・地域対応など、多様かつ複雑なものになっている。これらは、個々の教員の対応に委ねておくだけでは解決が難しい課題である。また、学級担任の単なる総和として対応できるものでもない。それぞれの教員の力を学校という「組織」の力としてまとめ上げていく機能と仕組みづくりの中で対応していくことが必要である。

本特別委員会では、「学校組織マネジメント」の手法を「つながり」という観点から再整理し、具体的に実践していくための方途を探りたいと考え、平成29年度より、研究副主題を「『つながり』で創る学校経営を目指す各郡市の取組と課題」として4年計画での取組を始めた。学校組織マネジメントの目的は、学校教育目標という組織目標の達成に向け、組織の構成員が分業・協業しながら組織をうまく動かして、学校の組織力の向上を図ることである。では、具体的にどのように仕組みづくりをしていけばよいか。

研究1年次は、次ページの研究内容「教育活動の組織化のリーダー」の七つの基準のうち、基準1「学校の共有ビジョンの形成と具現化」に視点を当てた。2年次は、基準2「教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり」、基準3「教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり」に視点を当てた。3年次は、基準4「諸資源の効果的な活用と危機管理」、基準5「家庭・地域社会との協働・連携」に視点を当て、諸資源を効果的・効率的に運用し、家庭・地域社会と協働・連携する各郡市の取組と課題について調査研究を進めた。最終年次となる本年度は、これまで調査研究で取り上げてきた基準1から基準5の実践による学校経営の実際を各郡市の事例としてまとめる。

## ● 研究主題

### 学校力を高める学校経営の在り方

—「つながり」で創る学校経営を目指す各郡市の取組と課題—

- ◆ 1年次（H29年度） ①「学校の共有ビジョンの形成<sup>※1</sup>と具現化」
- ◆ 2年次（H30 // ） ②「協力体制と風土づくり」
- ◆ 3年次（R1 // ） ③「チーム・ネットワークづくり」
- ◆ 4年次（R2 // ） ④「①②③の実践による学校経営の実際」〈本年度〉

## ● 研究内容

「教育活動の組織化のリーダー」の七つの基準<sup>※2</sup>について

- ◆ 1年次 基準1 「学校の共有ビジョンの形成と具現化」に視点を当てる。
- ◆ 2年次 基準2 「教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり」、  
基準3 「教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり」に視  
点を当てる。
- ◆ 3年次 基準4 「諸資源の効果的な活用と危機管理」、基準5 「家庭・地  
域社会との協働・連携」に視点を当てる。
- ◆ 4年次 基準1 から基準5 の実践による学校経営の実際を事例としてまと  
める。〈本年度〉

(注) ※1 学校の共有ビジョンの形成

→ 学校の経営計画がビジョンである。ビジョンが、教職員、保護者、地域住民に  
受容され、理解と納得が得られたとき、学校の共有ビジョンが形成されている  
と言う。(P5 L29～P6 L5参照)

※2 「教育活動の組織化のリーダー」の七つの基準

→ 平成30年度本特別委員会報告書P9参照

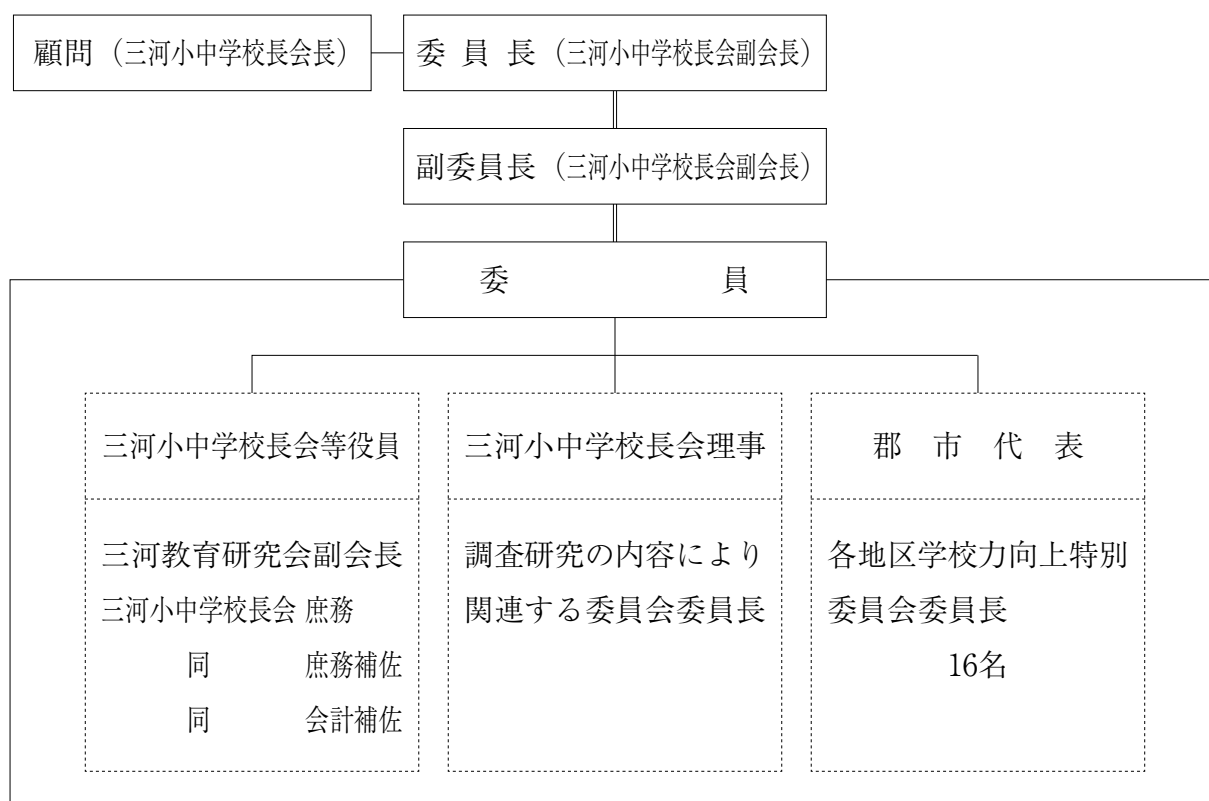
→ 令和元年度本特別委員会報告書P9参照

→ 日本教育経営学会

「校長の専門職基準 2009（一部修正版）

－求められる校長像とその力量－」参照

## 2 学校力向上特別委員会の組織



## 3 活動経過

時期	開催委員会	研究内容
5月	第1回委員会	基本方針・組織・研究推進の立案 報告書内容決定
6月		執筆者の選出・調整 執筆依頼文書送付
7～9月		原稿執筆
		原稿集約 原稿推敲
10月		原稿審議
11月	第2回委員会	研究のまとめ（初校原稿の校正）
1月		報告書完成 配付
2月		研究成果と今後の課題の検討

## Ⅱ 本研究の概要 (平成29年度版より再掲 ※波線部は本年度修正)

### ◇ 「つながり」で創る学校経営の在り方

#### (1) 学校組織マネジメントを「つながり」という観点から再整理

本研究は、平成27年度三河小中学校長会研修会で開催された国士舘大学教授北神正行氏による演題「これからの学校経営と学校マネジメント」の講演及び「『つながり』で創る学校経営」(北神正行編著(2011)天笠茂編集代表、ぎょうせい)を基にして進めている。学校組織マネジメントの目的は、学校教育目標という組織目標の達成に向け、組織の構成員が分業・協業しながら組織をうまく動かして、学校の組織力の向上を図ることである。

では、具体的にどのように仕組みづくりをしていけばよいか。

「つながり」という観点から、学校組織マネジメントによる学校改善の仕組みづくりを考えると以下四つの視点となる。

#### ① 運営組織体制の構築

フラット型、ピラミッド型などの体制の中から、効果的なものを選択する。特に、これからは「チーム活動」が鍵を握ることや、ミドルリーダーを活用した運営が必要であることに留意する。

#### ② 組織学習の場としての校内研修の設定

各学校の教育課程・経営課題を解決していくために必要な「学習」に、「組織」として取り組むことが必要である。

#### ③ 学校間連携のマネジメント

児童生徒の「学び」「成長」を核に学校を「つなぐ」という視点から、中学校区における小学校と中学校、小学校と小学校という縦と横のネットワークを形成する。

学校改善には、このような地域学校経営の発想も必要である。

#### ④ 学校・家庭・地域のネットワークマネジメント

学校の教育力は、家庭・地域とのつながりの中で存在している。そこで、学校情報を媒体として、学校と家庭・地域の協働・連携による新たな学校づくりを行う。

このように、「つながり」を核に、組織としての力を向上させていく。

学校組織マネジメントの要は、学校のビジョン形成である。創られたビジョンが、教職員、保護者、地域住民に受容され、理解と納得の得られるものであって初めて

学校のビジョンとなる。また、それによって組織メンバーの協働意欲と相互の仕事  
を結び付けていくことが可能になり、学校組織はその力を発揮することになる。こ  
のように、「共有ビジョン」が形成されているとき、組織目的の達成に向けて、個  
人の向上心は高まり、組織に活気をもたらす。共有ビジョンは、個人と組織を「つ  
なぐ」ビジョンである。

こうして策定された共有ビジョンを実現するためには、それを機能化させる検証  
と見直しのサイクルが必要である。つまり、そのサイクルが、共有ビジョンと実際  
の教育活動や経営活動をつなぐ。

「つながり」という観点から学校組織マネジメントを行う必要性は、ここにある  
と言える。

## (2) 「つながり」で創る学校経営を行う上で求められる校長の力量

「つながり」で創る学校経営を進める鍵は、校長の力量である。

2009年に日本教育経営学会が「校長の専門職基準 - 求められる校長像とその力  
量-」を作成し、今求められるべき校長像を以下とした。

今求められるべき校長像を「教育活動の組織化のリーダー」と捉えるべきだと考え  
る。それは、あらゆる児童生徒のための教育活動の質的改善を目指して、<sup>※1</sup>児童生徒、  
教職員、並びに保護者・地域の<sup>※2</sup>実態を踏まえながら各学校が今進むべき進路を明確  
にし、<sup>※3</sup>当該学校が擁するさまざまな資源・条件等を有効に活用することによって学  
校内外の組織化を<sup>※4</sup>リードすることである。

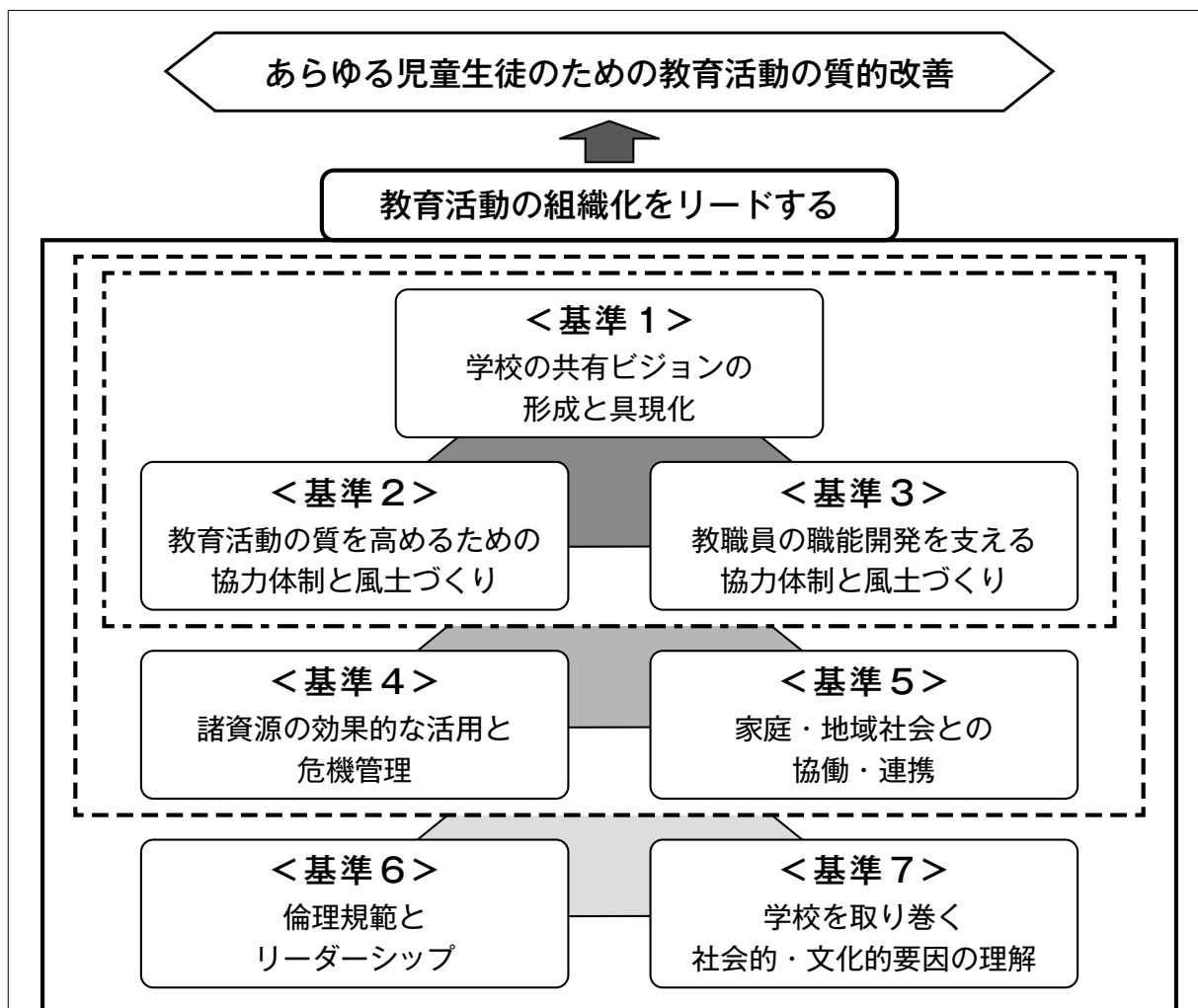
※1～4に注目したとき、日本教育経営学会の求める校長像は、実態を踏まえ、  
資源・条件を有効に活用し、「つながり」を核に学校内外の組織化をリードすると  
捉えることができ、本特別委員会が目指す「つながり」で創る学校経営と合致する。

日本教育経営学会は、「教育活動の組織化のリーダー」としての校長像はP7表  
1の七つの基準によって構成されたとした。本特別委員会では、七つの基準のうち  
1から5に視点を当てる。今後は七つの基準を五つの基準と読み替える。

本特別委員会では、1年次は基準1、2年次は基準2・3、3年次は基準4・5  
に視点を当てた。研究最終年次となる本年度は基準1から5の実践による学校経営  
の実際を取り上げる。



表1 「教育活動の組織化のリーダー」としての校長像七つの基準



**<基準1> 「学校の共有ビジョンの形成と具現化」**

校長は、学校の教職員、児童生徒、保護者、地域住民によって共有・支持されるような学校のビジョンを形成し、その具現化を図る。

**<基準2> 「教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり」**

校長は、学校にとって適切な教科指導及び生徒指導等を実現するためのカリキュラム開発を提唱・促進し、教職員が協力してそれを実施する体制づくりと風土醸成を行う。

**<基準3> 「教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり」**

校長は、全ての教職員が協力しながら自らの教育実践を省察し、職能成長を続けることを支援するための体制づくりと風土醸成を行う。

**<基準4> 「諸資源の効果的な活用と危機管理」**

校長は、効果的で安全な学習環境を確保するた

めに、学校組織の特徴を踏まえた上で、学校内外の人的・物的・財政的・情動的な資源を効果的・効率的に活用し運用する。

**<基準5> 「家庭・地域社会との協働・連携」**

校長は、家庭や地域社会のさまざまな関係者が抱く多様な関心やニーズを理解し、それらに応えながら協働・連携することを推進する。

**<基準6> 「倫理規範とリーダーシップ」**

校長は、学校の最高責任者として職業倫理の模範を示すとともに、教育の豊かな経験に裏付けられた高い見識をもってリーダーシップを発揮する。

**<基準7> 「学校を取り巻く社会的・文化的要因の理解」**

校長は、学校教育と社会とが相互に影響し合う存在であることを理解し、広い視野の下で公教育及び学校を取り巻く社会的・文化的要因を把握する。

## Ⅲ-1 各都市小学校の学校経営の実際 岡崎市立広幡小学校

### 1 はじめに

令和元年度末、新型コロナウイルス感染症の影響により全国一斉で臨時休業になった。長期間にわたり、感染症対策と児童の健やかな学びの保障の両立をしていくことが必要となった。本特別委員会で研究を進めている「学校力を高める学校経営の在り方」を本校ではどのように取り組んでいるかを報告させていただく。

### 2 本校の共有ビジョンの形成とその具現化【基準1】

#### (1) 情報の収集と現状の把握

学校の教職員、児童、保護者、地域住民によって共有・支持されるような学校のビジョンを形成し、その具現化を図るためには、情報の収集と現状の把握が大切である。次のような方法を試みた。

- ① 学校アンケート調査
- ② P T A総会での意見集約
- ③ 日頃、担任に寄せられる声の収集
- ④ 地域の会合での情報
- ⑤ 学校評議員会でのご意見
- ⑥ 学力調査、学級集団適応心理検査の実施と分析

#### (2) 学校のビジョンの形成

学校の実態と使命を踏まえ、学校ビジョンを構想した。そのビジョンが共有・支持されるように次の場で構想を示し、意見をいただき、見直し、学校年間計画として落とし込み、具体的な計画とした。

- ① 職員会…教職員との共有
- ② P T A役員会並びに総会…保護者との共有
- ③ 学校評議員会…地域の代表者との共有

#### (3) 共有ビジョンの検証と見直し

構想した学校ビジョンは、学校での教育活動を進めていく中で見直すべきことが出てくると思われる。そこで、次のような方法で検証し、見直し、次年度の学校グラウンドデザインの作成に生かしている。

- ① 教職員からの声の収集
- ② 担任に寄せられる児童や保護者からの声の収集
- ③ 行事等の事後アンケート
- ④ 学校アンケート調査の実施
- ⑤ P T A役員会において意見収集
- ⑥ 学校評議員会での意見
- ⑦ 地域住民の会合（総代会や社会教育委員会、福祉委員会等）での声の収集

### 3 本校の教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり【基準2】

#### (1) 担うべき責任の自覚

学校教育を受けることによって、あらゆる児童が成長・発達できるようにすることが学校の担うべき責任であるとして自覚し、学校新聞(地域に回覧)やウェブページ等により児童の様子や学校の考えを公開し、意見があれば耳を傾ける。

#### (2) 適切なカリキュラムの開発

岡崎市作成のカリキュラム資料を参考にして、本校の児童の実態と学習指導要領に基づいた適切なカリキュラムを教職員が連携して作成する。臨時休業等により、教育活動の実施時期や教材教具の見直しを行った。その際、岡



<カリマネくんによるカリキュラム作成>

崎市が作成したカリキュラム作成ソフト「カリマネくん」を利用することでカリキュラムのシミュレーションや変更が容易であり、大変有効であった。

#### (3) 児童が安心して高い意欲をもって学ぶことができる環境

想定していた教育環境の改善に加えて、コロナ禍となり、感染防止対策やICTの活用による全ての児童の学びを保障することが必要になった。また、熱中症対策



<タブレットの利用>

も急務な状況となり、教職員だけでは環境を整えることが難しく、岡崎市、PTA、地域から支援していただいている。地域の事業所や保護者からは、消毒液やマスクなどを寄贈していただけた。日頃からの連携が大切であることを実感している。現在、岡崎市がGIGAスクール構想を推進し、一人1台のタブレット端末を貸与できるように順次

進めている。これにより、感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての児童に学びを保障できた。

#### (4) 教職員の意欲向上に基づく教育研究体制

教職員が高い意欲をもって、より質の高い教育実践を協力して推進できるようにしたいと考えている。「教職員の主体性なくして児童の主体性なし」を共通理解し、教職員の思いや考え



< Teams を利用した教職員の意見交換 >

を取り入れるために通常の会議だけではなく、掲示板やコミュニケーションツールのTeamsやZoomを利用して研究を進め、研究が形骸化しないように努めている。

#### (5) 教職員が能力向上に取り組める風土醸成

より高い教育を実現するためには、教職員が絶えず新しい教授方法や教材開発に取り組む風土を醸成する必要がある。本校では、「要請訪問による授業研究」「互いの授業を公開し合う」「互いの教材を紹介」「ものごとを伝え合うことができる空気づくり」に努めている。そして、全教職員に見直しや改善を図るべきことを調査しその結果を学年や企画委員会・運営委員会・職員会議等で検討している。

### 4 本校の家庭・地域社会との協働・連携【基準5】

家庭や地域社会のさまざまな関係者が抱く多様な関心やニーズを理解し、それらに応えながら協働・連携をしていく必要がある。コロナ禍となり、更に家庭や地域との協働・連携の必要性を実感している。具体的に、次のようなことを行っている。

① オンライン朝の会…分散登校の際には、家庭の端末とネット環境を利用し、Zoomを利用した朝の会を実施

② 傘さし登下校…熱中症対策とコロナ対策を両立させるため、豊田市の実践校から情報提供いただき、参考にして、保護者はもちろん、回覧板等で地域の理解と協力を得て実施



<地域の協力で傘さし下校>

③ リアルとオンラインを併用した授業参観…学校において三密を避けるために来校できる保護者の人数を制限させていただく必要があった。そこで、保護者にご理解をいただき、Zoomを利用した家庭からの参観にご協力いただき実施

### 5 おわりに

コロナ禍となり、例年どおりに学校の教育活動を進めることができなくなった。そのような状況になったことで、「学校力向上特別委員会」が取り組んできた「学校力を高める学校経営の在り方」の研究の有効性を実感している。「教育活動の組織化のリーダー」としての校長像五つの基準に沿って、常に学校の現状を把握し、検証し、見直しながら学校運営を進めていくことが大切であろう。まだまだ未熟で不十分な取組ではあるが、本校の学校経営について紹介をさせていただいた。

# 岡崎市立広幡小学校

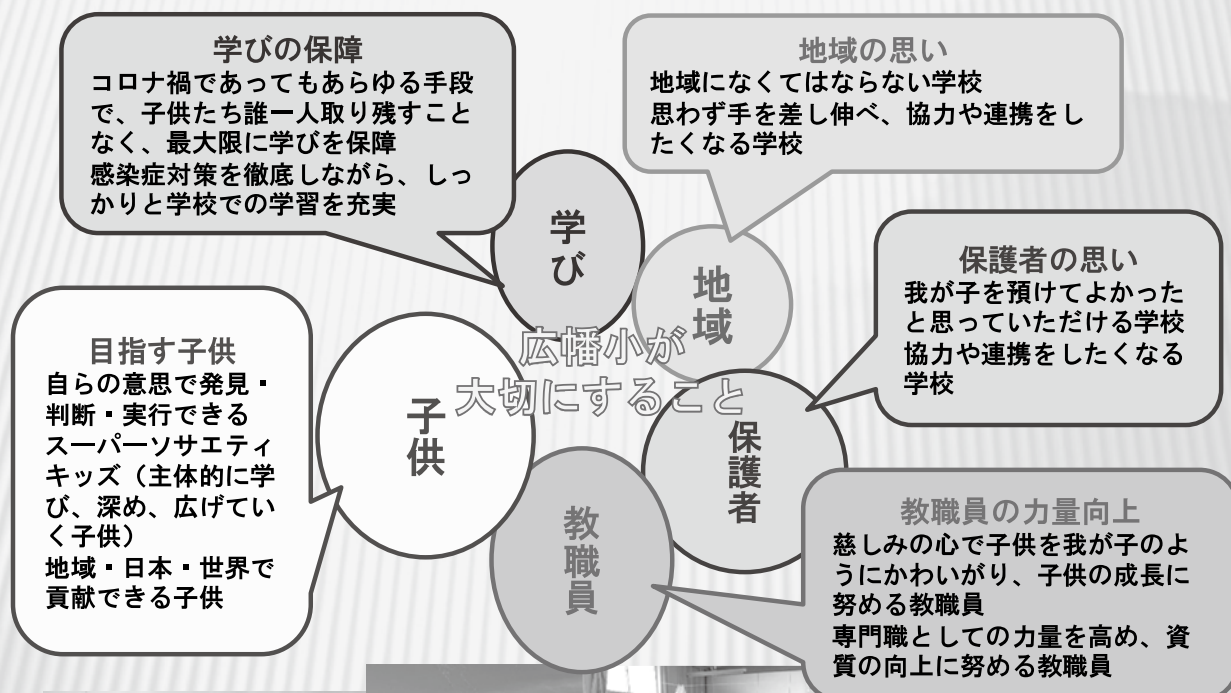


校訓「質実剛健」

目指す学校

「夢がいっぱい、  
笑顔がいっぱい、  
元気いっぱい」

- ・ 明治7年4月開校（令和2年度で創立146年目）
- ・ 校章は、桜の花びらを形どる
- ・ 三河武士の気風を受け、質実剛健の校風を樹立



地域と保護者による  
登下校の見守り



自らの意思で発見・判断・実行できる  
スーパーソサエティキッズを目指す教育

地域と保護者との連携による  
交通安全教室、自転車教室など



保護者の協力で実施できた  
オンライン朝の会や授業参観



保護者と地域の  
有志による  
読み聞かせ



中国西安市立長安第一小学校との  
国際交流

## Ⅲ-2 各都市小学校の学校経営の実際 碧南市立西端小学校

### 1 はじめに

本校は、明治5年に西端郷学校として、蓮如上人ゆかりの寺である応仁寺に開校された。その後の校名変更、校舎移転、規模拡大等、整備が進み、昭和30年の町村合併により、碧南市立西端小学校と改称された学校である。現在児童数は427名、学級数は通常学級13学級、特別支援学級5学級の碧南市内では小規模の学校である。

平成29年度から「学校力を高める学校経営の在り方」について、調査研究を行ってきた。「教育活動の組織化のリーダー」の五つの基準の中で、「共有ビジョンの形成とその具現化」【基準1】、「教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり」【基準3】、「家庭・地域社会との協働・連携」【基準5】について取り上げ、本校が実践した取組を紹介する。

### 2 本校の共有ビジョンの形成とその具現化【基準1】

共有ビジョンを形成し、具現化するために、学校として児童の学習や生活の状況、保護者や地域からの期待、地域社会の環境などの実態把握が大切である。本校では児童の実態を把握するために、学期ごとの個別面談や学力テスト、Q-Uテスト、いじめアンケートを実施して児童理解に努めている。また保護者の期待や要望については、家庭訪問や個別懇談会、学校評価を活用し、学校に期待している事項や要望事項の把握に努めている。学区では、月に1回地域懇話会を実施し、地域と学校の連携について話し合いがもたれており、そこで出された問題点や要望を参考にして、地域の実態を把握している。それらの要望や期待に応えるために、学校ビジョンを構成し、広報する手だてとして、PTA総会や学校公開日、ウェブページを活用して、学校の現状や重点的に取り組もうとしている事項や方法などを説明することで、理解や協力を得るようにしている。共有ビジョンの検証としては、学校行事後の保護者や教職員の反省、年2回の教職員との面談、児童・教職員・保護者の学校評価、PTA地区委員会での意見交換を通して行っている。その結果を受けてビジョンの検討を行い、継続すべき実践の内容と、新たに取り組む事項を明らかにし、共有ビジョンの形成を行っている。

### 3 本校の教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり【基準3】

学校の共有ビジョンを実現するためには教職員の指導力の向上が必要になる。教職員の授業力の向上のために、碧南市の学校教育課に所属する教員研修指導員に依頼して、例年約5名の若い教員が年間3回程度、継続的に授業の個別指導を受けている。

現職教育では指導案検討会を全教員で行い、指導過程、発問、板書計画等を話し合い、授業力の向上に努めている。授業反省会は、グループごとに、授業のよかった点や改善点を指導案に沿って話し合い、全体場で発表する形態をとっている。教職員一人一人が授業者としての視点に立って話し合うことで、授業力の向上に努めている。

生徒指導や児童理解の力を伸ばすために、毎月各学級の配慮を要する児童を担当が選び、現状や指導の方向性、具体的な対応について意見交換をし、全職員が共有するようにしている。ここでは、前年度の担任や兄弟姉妹の担任から、家庭状況や前年度どのように指導していたかなどのアドバイスがされ、担任の生徒指導力や児童理解力の向上に対して大きな役割を果たしている。

教師の主観だけで誤った児童理解をし、学級経営や個別の指導がなされないように、毎年QU検査を実施している。現職教育で講師を招き、QU検査の結果やグラフの読み取り方を学び、児童一人一人の学級組織に対する思いを数値化して、個々の児童をより深く理解し、学級経営に反映させることで、担任としての力量向上を図っている。

### 4 本校の家庭・地域社会との協働・連携【基準5】

児童の成長は学校生活が大きく関わっているが、学校だけでは成り立たない。校外の人たちと積極的に関わり、学校外で多くの経験をすることで児童は成長する。そのためには、家庭はもちろん、地域との連携は大きな要因となる。本校では、家庭や地域との協働・連携を重視して取り組んでいる。

家庭との連携では、PTA活動として児童が安全に登校できるように1年生の保護者に依頼して「交通事故死0の日」に集団登校の引率をお願いしている。教職員も学区の交差点に立ち、交通安全の呼びかけを行っている。引率した保護者には、感想用紙に問題点や集団登校の様子を記入してもらい、それを基にしてPTA地区

委員会で集団登校の改善点や通学路を検討する資料とし活用している。

地域との連携では、学区内にある環境保全会と協働・連携して、毎年2年生はタマネギ、3年生はジャガイモ、6年生は稲作の農業体験を行っている。学校から10分ほどの場所にある田畑を利用させてもらい、2年生、3年生は苗の植え付けと収穫、6年生は田植えと稲刈りを体験している。最新式の田植え機や稲刈り機の紹介もしてもらい、児童も関心や興味をもって参加できる行事になっている。また、2



年生の生活科で行うミニトマトの栽培では、ミニトマト農家に協力してもらい、苗の植え付け、芽かき、収穫の指導をお願いしている。1年生生活科の「昔のあそび」の授業では、地域の敬老会の方を講師として招き、昔の遊具の使い方や遊び方の指導を通して、児童はお年寄りとの交流を行っている。

市の事業で行われる学習では、海浜水族館のバックヤードの見学や学芸員の解説、藤井達吉美術館の見学など、学校の中では経験できない企画がある。また、福祉実践教室、交通安全教室、出前講座など、多くの課が学校を支援するための人材派遣や企画を行っている。

## 5 おわりに

これまで教職員・児童・保護者・地域と連携し、学校教育ビジョンの実現に向けて取り組んできた。さまざまな取組について、PDCAサイクルを活用し改善に努めてきた。しかし、働き方改革が叫ばれている中で、今後は「家庭」「学校」「地域」の役割を明確にして、三者が協働・連携しながら教育活動を見直していくことが課題である。



令和2年度西端小学校の教育

<p>＜めざす学校像＞</p> <p>明るく落ち着いた学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが安心して通える学校</li> <li>・親が安心して通わせられる学校</li> <li>・教師が安心して働ける学校</li> </ul>	<p>＜学校教育目標(校訓)＞</p> <p>自学 素直 気力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すすんで学ぶ子</li> <li>・すなおな子</li> <li>・じょうぶな子</li> <li>・がんばりぬく子</li> </ul>	<p>＜めざす教師像＞</p> <p>率先垂範</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ姿勢をもち、磨き合える教師</li> <li>・子どもを理解し合える教師</li> <li>・温かさとしなやかさをもつ教師</li> </ul>
--	---	--

<p>＜すすんで学ぶ子 がんばりぬく子＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に学習に取り組む子</li> <li>・基礎・基本を身につけ、自分らしく表現できる子</li> <li>・責任をもって自分の仕事に取り組む子</li> <li>・最後までがんばりぬく子</li> </ul>	<p>めざす子ども像</p> <p>＜すなおな子＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ありがとう」と言える子</li> <li>・「ありがとう」と言われる子</li> <li>・あいさつのできる子</li> </ul>	<p>＜じょうぶな子＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を休まない子</li> <li>・進んで運動する子</li> </ul>
---	---	--

笑顔いっぱい 西端小学校

<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の確実な定着</li> <li>・個別指導の充実 少人数指導・TT</li> <li>・NIE(新聞を活用した学習)</li> <li>・言語活動の充実</li> <li>・体験学習・地域学習の充実</li> <li>・児童会活動・委員会活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合える温かい学級づくり</li> <li>・感謝の心を通じた「思いやりの心」の育成</li> <li>・「西端思いやり宣言」の推進</li> <li>・あいさつ運動</li> <li>・チャイム着席</li> <li>・校内美化運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席0運動 不登校「0」の継続</li> <li>・基本的な生活習慣の確立</li> <li>・早寝・早起き・朝ご飯</li> <li>・運動習慣の確立(体力づくり)</li> <li>・健康・安全意識の育成</li> <li>・食に関する指導の充実</li> <li>・残滓0運動</li> </ul>
---	---	--

<p>信頼される学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事への積極的な参加</li> <li>・家庭・地域・幼稚園・保育園・中学校との連携</li> <li>・学校公開日</li> <li>・教職員の資質向上</li> </ul>	
--	--

### Ⅲ-3 各郡市小学校の学校経営の実際 豊田市立浄水小学校

#### 1 はじめに

本校は豊田市の小学校でも有数の大規模校である。平成26年度の分離、平成27年度に学区に新たな中学校が新設されたこともあり、二つの小学校と一つの中学校が連携する仕組みがつくられた。

地域連携をテーマにした研究発表を機に前校長がつくり上げた小・中連携、家庭・地域との連携する学校経営を継承し、更に今日的課題に向き合うために、今年度は「Reデザイン」をテーマに学校経営を行った。恵まれた資源を基に構築された学校経営を見直し、より効率的に効果を上げるものにバージョンアップさせていくことを全教職員と保護者、地域と意思疎通を図り、校長のリーダーシップの下で取り組んでいる。

#### 2 本校の共有ビジョンの形成とその具現化【基準1】

本校の共有ビジョンについては、教職員、保護者、地域に校長が説明する場をつくっている。赴任当初は保護者に直接話す機会がなく、校長が発行する学校だよりで説明していたが、令和2年度からPTA総会の折にビジョンを語る時間を計画しようとした。

残念ながら新型コロナウイルス感染症の蔓延により、総会自体がなくなってしまったが、PTA役員会、教育協議会、浄水地区コミュニティ会議等を利用し、保護者、地域の方に一年の学校経営の方針を話し、それに対する意見交流をしている。

令和元年度に学校行事削減により縦割り遠足を廃止したが、代わりに観劇会を保護者から提案され実現するよう企画できたのも連携のおかげであった。授業時間確保については理解するが、行事がど



<保護者へ学校経営を語る>

んどんなくなるのは、児童には楽しみがなくなるという意見の下、授業時間を確保しつつ、児童に本物の演劇を見せたいという学校と保護者の意見が合致し、令和2

年度に観劇会を計画することができた。

保護者から出てきた意見でもあったため、劇団との交渉や費用面でのサポートも受けることができ、学校としても計画実行に関わる手間が軽減できた（但し、再度の流行を受けて、話し合い、今年度は中止に決定）。

### 3 本校の教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり【基準3】

教務主任、現職教育主任を中心に年間を通して教職員の職能開発を進めている。

豊田市では人材育成プランに基づき、教職員一人一人が自分の経験年数により目指すべき能力を明確にし、一年間の研修の見通しをつける。それをサポートするために本校所属の教科領域指導員、対外的にも実績のある教科主任が、独自にOJTを推進する体制がとられている。外国語指導員による英語に親しむ「イン



<現職教育のワークショップを主催>

グリッシュカフェ」の取組や道徳推進教員による道徳研修会には、若手を先頭に中堅教員までもが積極的に参加し勉強している。

昨年度から、校長も現職教育に積極的に講師として参加し、「なぜ今授業改善が必要か？」というテーマでワークショップを行ったり、総合的な学習主任と夏休みに総合的な学習の改善プランを作成したりした。

また、年度末にタブレットパソコンの一人1台導入を見越して、校務主任と情報主任、若手教員が共同して「タブレットごっこ」と銘打ったOJTを複数回実施している。短い時間に明日の授業から使える指導技術が学べ、教員の技能を高めている。

### 4 本校の諸資源の効果的な活用と危機管理【基準4】

保護者と地域との連携は、コロナウイルス感染症の蔓延による危機的な状況に陥った学校において、大変心強いものであった。

地域の企業からのマスク、消毒アルコールの寄付、個人からの手作りマスクの寄贈をはじめ、物や労働力の協力が学校に提供された。

マスクを着用しての登下校が熱中症の観点から厳しい状況になったときに、傘さ

し登校を実施したが、雨傘では距離は取れるのでマスクを外すことができるものの、熱中症対策には効果が期待できない。

そこで日傘を全校児童分購入するという意見が出たが、問題はその費用である。学校をさまざまな面で支援してくれる一般社団法人まごころスクールや交通安全推進協会に相談したところ、購入費用を寄付で出していただけることになった。



<日傘を差して下校する>

また、トイレの掃除に児童が携われなくなり、教員で行うという指示が市教委から出たが、児童が下校した後に教室や施設の消毒作業もあり、大変な負担となっていた。そこで保護者にトイレ掃除ボランティアを募ったところ、15名を超える登録があり、毎日掃除を担当してくれることになった。

本校では学校経営上の危機において、相談するとお金や情報、労働力を結集できる環境とそれを有効に活用できる体制が構築されている。

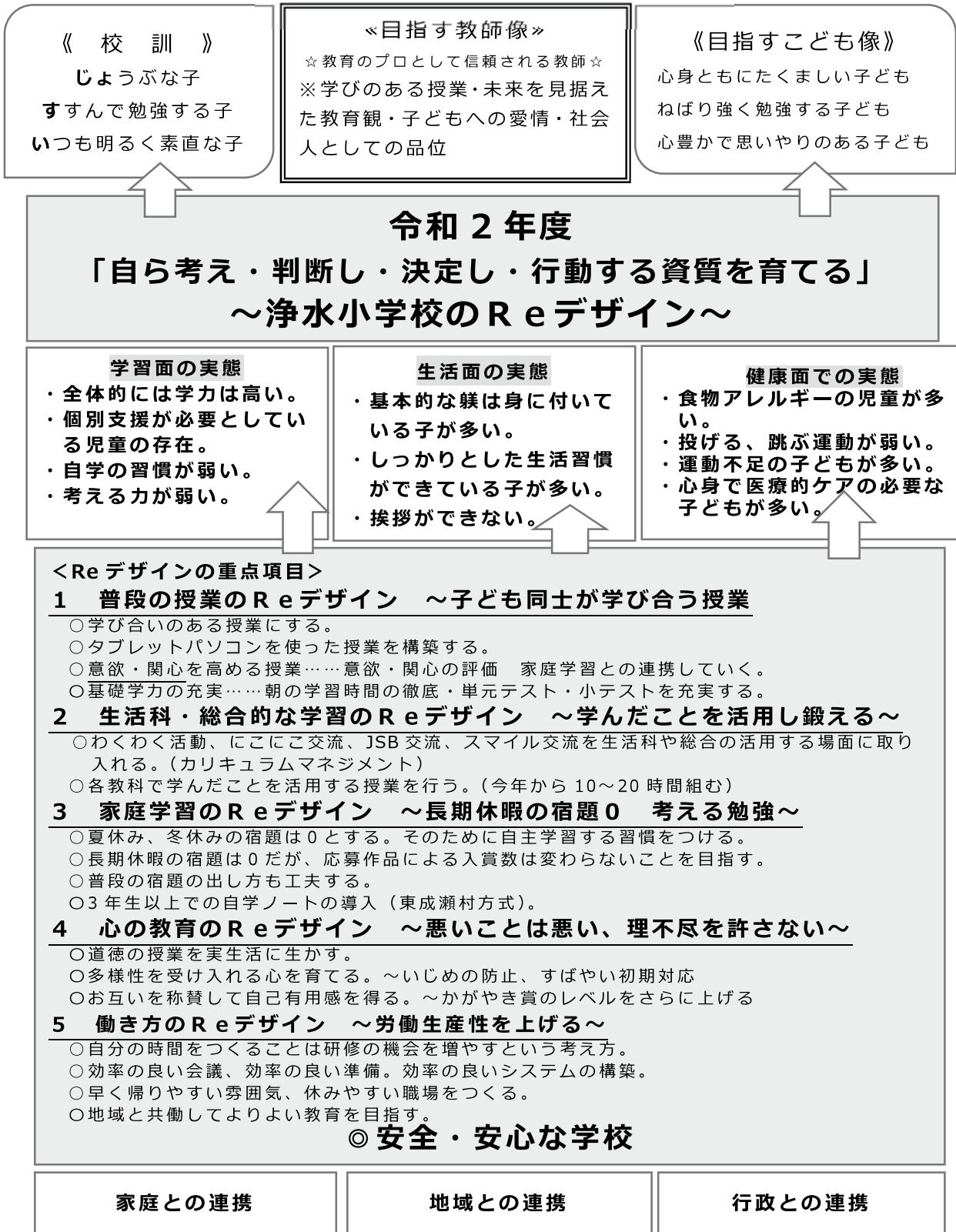
## 5 おわりに

コロナウイルス感染症の蔓延で3か月あまり学校が休校になり、その間、学校現場にさまざまな指示がなされ、混乱と不安が広がる事態であった。しかし、教職員、保護者、地域がその都度、もてる力を結集し、短時間で有効に対応できたことは誇らしい。

当初、主任級の教員でも細かい指示をしてくれないと私たちは動けないという姿勢であったが、方針を明確に示し、それに基づいて自ら考え、提案して実行する意識改革をすることで、それぞれが持ち味を発揮し、緊急事態が続く中、成果を出すことができた。

校長が何から何まで指示することは簡単だ。しかし、それでは主体的な活動が期待できず、いつかは考えることができない指示待ち組織になる。また、校長も新しい知識、考え方、情報収集等に基づくベストな判断、学校経営ができるわけではない。教職員の能力を結集し、常に変化し続けられる柔軟な組織運営が求められているのである。

# 豊田市立浄水小学校



## Ⅲ-4 各都市小学校の学校経営の実際 安城市立桜井小学校

### 1 はじめに

安城教育グランドデザインには、「夢や希望、しなやかで折れない心を持ち、一人一人が意欲的に学び続ける安城っ子」の育成を目指して、「学び合い」、「いのちの教育」、「個への支援」を三つの柱として指導方針が掲げられている。学校は、その指導方針に沿って具体的で実践的な方策を立て、児童生徒が明るく元気に、安全で安心な生活ができるように、家庭、地域社会との連携を深め、創意と活力に満ちた学校づくりに努めている。

### 2 本校の共有ビジョンの形成とその具現化【基準1】

本校は安城市南部に位置し、学区は、矢作川で岡崎市・西尾市に接する田園地域であった。矢作川流域には、古墳群が点在し、桜井凧のような伝統工芸も受け継がれている。また、近年は都市再生整備計画事業で名鉄桜井駅周辺を中心に大規模な整備や宅地開発が進み、人口増加がめざましい地域である。子ども会活動、PTA活動なども盛んで、学校行事への保護者や学区住民の積極的な参加や協力が得られ、児童は地域からの期待と愛情を受けて育っている。

その思いを受け、本校グランドデザイン冒頭には、地域とともに生き、地域で活躍できる児童の育成を目指して、スローガン「感動、感激、感謝いっぱい めざせ三感王！」を掲げた。そして「私たちの学校 私たちの町 大好き桜井！」と言える児童になってほしいと願い、教育活動を進めている。

### 3 本校の教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり【基準2】

本校グランドデザインに示した共有ビジョンを実現するために、地域の人・もの・こととのつながりを大切にして、地域の教育力をふんだんに生かした教育活動を推進した。

児童の安全・安心につながる活動では、登下校の見守り隊を募集している。PTA、町内会等へ呼びかけると、例年およそ70名の登録があり、通学班の登下校を見守ったり、交差点などで立ち番を行ったりしていただいている。学区の中学校が主催する地域合同あいさつ運動では、中学生が本校校門で挨拶を呼びかける活動を児童や

保護者、地域公職者と一緒に続けている。令和元年度には、学区の町内会が安城市の犯罪抑止モデル地区の指定を受け、本校5年生が中心となり防犯少年団を結成した。この活動が、防犯集会、防災・防犯フェスタなどカリキュラムにつながっている。

また伝統工芸品である「桜井凧」保存のために活動している凧保存会の方々の指導で、1・2年生はビニル凧、3・4年生は角凧、5年生は学級ごとに連凧、6年生は桜井凧を作っている。作った凧で、地域の凧揚げ大会に参加し、地域連携の機会となっている。

さらに、学区には自動車関連企業も多く、社会科での工場見学、エコトークセッションを行う環境学習、サイエンススクールの開催など、講師として支援を受けている。

#### 4 本校の家庭・地域社会との協働・連携【基準5】

##### (1) 見守り隊顔合わせ会・防犯集会

4月、新年度を迎え、一斉下校時に、見守り隊に登録いただいた地域の方々を招き、見守り隊との顔合わせ会を実施した。併せて防犯少年団結成を伝えるため、警察署の方々も招き、防犯集会も実施した。



<見守り隊との顔合わせ会>

見守り隊の皆様、いつもほくたちを見守ってくださり、本当にありがとうございます。晴れの日も雨の日も、温かく声をかけてくださったり、車や自転車が通るときに教えてくださったりする皆様のおかげで、ほくたちは安心して登下校できています。

今年度は、小川町内会が安城市から犯罪抑止モデル地区の指定を受けることになりました。ここ桜井学区でも、空き巣、盗難、詐欺の被害や不審者の目撃情報があると聞き、とても残念な気持ちになりました。そんな被害を少しでも減らし、誰も悲しい思いをしなくても済むように、見守り隊の皆様はじめ、地区の皆様と力を合わせて、この桜井学区を今まで以上に安心で安全で、みんなが笑顔で過ごせるような町にしたいです。 (児童代表の言葉 一部抜粋)

## (2) 防災・防犯フェスタ

児童の防災・防犯に対する意識を高め、危険を回避するために自分たちにできることを考えたり、いざというときに自分や周りの人の命を守ったりする力を身に付けることを目的として、防災・防犯フェスタを実施した。

3年生から6年生の全学級は、警察署、消防署、安城防災ネット、地域の企業などたくさんの方々の協力の下、それぞれ一つの発表ブースを設置し、前半後半に分かれて係の仕事を行った。発表ブースの中で、6年生は防災について、総合的な学習の時間に学んできたことを発表した。5年生は防犯少年団を結成し、防犯について学習してきた、その内容を発表した。それらの発表ブースを全校児童はスタンプラリー形式で回って学習を深めた。



<防災・防犯フェスタ>

## (3) 感謝の会

2月、本校を支えてくださっている方々に日々の感謝の気持ちを伝えるために、6年生が中心となって「感謝の会」を実施した。町内会長、見守り隊、風保存会など地域の方々が、たくさん参加してくださった。



<感謝の会>

児童が心をこめて作ったメダルや歌のプレゼントに、「子どもたちの歌には、心が打たれます。感動しました」と参加してくださった方々が喜んでくださった。その姿を目の当たりにした児童も喜ぶとともに、感謝の気持ちを伝えることができ、絆を深める機会となった。

## 5 おわりに

「小学校では、児童が感動、感激、感謝いっぱい 三感王を目指している。今日の大会も感動、感激、感謝いっぱいの大会にしてほしい」、地域のスポーツ大会で、主催者代表が挨拶された一部である。「つながり」で創る学校経営が少しずつだが広がり、深まっている表れであると感じている。

今後は、教育活動の質を更に高めるため、協力体制を絶えずチェックし、地域の人・もの・こととのつながりを大切にして、学校内外の組織化を更に有効に進めたいと考えている。



令和2年度 桜井小学校 グランドデザイン  
私たちの学校 私たちの町 大好き桜井！

教育目標	やさしく かしこく たくましく
めざす子どもの姿	心を結び、助け合い励まし合える子（徳） 自ら求め、学び合い伸びる子（知） 命を尊び、心と身体をきたえる子（体）

感動、感激、感謝いっぱい めざせ三感王！

大切にしたい **あ い う え お**

①明るいあいさつ ②命が一番大事 ③美しい心 美しい環境 ④笑顔いっぱい ⑤思いやりの輪



生き生きと学び 確かな学力を

身につける桜井っ子の育成

～一人残らず学び合える授業をめざして～

- 学び合いの土台づくりをする
  - ・一人一人を大切にしたいあたたかい学級集団
  - ・話しやすい、聴きやすい教室のレイアウト
- 学び合う授業をデザインする
  - ・子どもの「わからなさ」に寄り添う授業
  - ・子どもの「学び」に応じた柔軟な授業展開
  - ・「わかりそうでわからない」課題の設定
  - ・ICT機器を効果的に活用する授業
- 教師が学び合うプロになる
  - ・授業における教師の役割「聴く・つなぐ・もどす」を追究し、実践
  - ・子どもの学びの姿から省察・考察し、子どもの学びにもどす研究協議
  - ・学級の実態に合わせた学び合いを中心とする授業づくりの研究

今日が楽しく、明日が待たれる魅力ある授業

地域の教育力をふんだんに生かした

教育活動を推進

- 全校
  - 凧づくり（桜井凧保存会の支援）
  - 親子桜井めぐり－文化的・歴史的遺産見学－
- 1年 カミング30（学校歯科医の歯磨き指導）  
安全安心教室（ALSOKの支援）
- 2年 まち探検－桜井学区のお店訪問－
- 3年 まち探検－桜井学区のいいところ－  
そろばん教室（珠算塾講師の指導）
- 4年 エコアクション2020  
エコトークセッション  
（アイシンAW、アスクネットの支援）
- 5年 デンソーサイエンススクール  
タイピング学習（安城南高校との交流）
- 6年 薬物乱用防止教室  
（安城南ライオンズクラブの支援）  
租税教室（税理士の指導）

地域の「ひと・もの・こと」とかかわる中で、  
心を耕す活動

地域に根ざした学校づくり

～家庭・地域とのつながりの中で、支えられ、育てられる～

- PTA活動 …………… あいさつ運動、プール監視支援、マラソン立ち番補助等
- 見守り隊 …………… 登下校の安全補助・見守り
- ボランティア …………… 図書室・読み聞かせ・プール監視
- 地域行事への参加 …… 矢作川下り、安城凧あげ大会、子ども会行事等



## Ⅲ-5 各都市小学校の学校経営の実際 西尾市立一色西部小学校

### 1 はじめに

本校は、西尾市の南西部にある田園地帯に位置し、人の出入りが少ない比較的落ち着いた地域にある。全校292名の児童たちは、素直な反面、自分の思いや考えを十分表現できない傾向が見られる。地域の方の多くは本校の卒業生であることから、セーフティーボランティアへの参加など、さまざまな場面で本校の教育活動に協力的に関わっていただいている。校長として、学校内外のよさや利点、課題や問題点を把握し、目指す子ども像の実現のため学校経営に取り組んでいる。

### 2 本校の共有ビジョンの形成とその具現化【基準1】

#### (1) 情報の収集と現状の把握

- ・毎年4月スタート時に学校経営方針を教職員に示す。
- ・6月中に全ての学級の授業を参観し、各教員の授業力や学級経営の状況を把握する。また、毎日教室巡回を行うことにより、児童の現状を学級担任と共有する。
- ・毎日、登校指導及び挨拶運動を行う中で、保護者や地域住民ともつながりを深め、情報交換を行う。
- ・1学期の情報の収集と現状の把握を基に、9月に学校経営方針に基づく、重点努力目標を一部修正する。

#### (2) 校長としての共有ビジョンの作成

##### ア 共有ビジョンの形成に当たって考えたこと

- ・校訓「正しく 仲よく 元気に」(知育・徳育・体育を通して、調和のとれた人間形成を目指し、心豊かで想像力をもち助け合い、やりぬく子)をかみ砕いた分かりやすいキャッチフレーズにする。
- ・キャッチフレーズとともに三つの目指す姿を示し、ビジョンの共有化を図る。
- ・共有ビジョンを達成するための六つの重点努力目標を設定し、それを評価指標につなぐことにより学校評価を推進し、共有ビジョンの検証と見直しを実施する。

##### イ 共有ビジョンの実際

- ・学校経営のキャッチフレーズを「元気なあいさつ 楽しい学校」とした。
- ・目指す姿を、「目指す学校像」「目指す子ども像」「目指す教師像」として、具体

的な姿を明確にした。

### **(3) 共有ビジョンの具現化**

共有ビジョンを具現化するために、次の六つの重点努力目標を設定した。

- ・「知の教育の充実」「心の教育の充実」「体の教育の充実」「生活・学習習慣の定着」
- 「地域との連携」「組織力のある教職員集団」

## **3 本校の教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり【基準3】**

学校の共有ビジョンと各教職員の目指す教師像を明確にし、それを絶えず意識させることは、教職員の職能開発と力量向上、更には学校力の向上へとつながると考える。

### **(1) 共有ビジョン実現のための教職員のリード**

会議や打ち合わせを精選する中で、校長の願いを発信する機会は限られ、共有ビジョンに対する各教職員の意識を高く保つことは難しくなっている。そこで、本校では、各教職員の週案簿に書かれる週ごとの振り返りへの朱書きを、その機会として重要視している。振り返りに書かれた各教職員のもつ課題や悩みに対する朱書きを、単なる助言や問いかけで終わらせず、共有ビジョンに対する校長の願いとして伝えられるよう心がけている。

### **(2) 教職員の理解と支援**

本校では、4月1日の職員会議で「愛知県教員育成指標」を配付した。現在、自分がどのステージに位置し、何を求められているかを知ること、自らが目指す教師像を明確にするためである。また、年度始めの校長との面談では、各教職員のキャリアに合わせ、学校を経営する上で校長が期待する姿を伝えた。それらを踏まえ見えてきた課題を基に教職員評価の自己申告・評価シートを目標を設定させ、定期的に行う校長との面談で、その視点を意識しながら振り返りを行っている。

### **(3) 教職員間の風土醸成**

「チーム一西小」の概念の下、教職員同士で協働、信頼、公正、公平の意識を定着させるようにしている。できる限り教職員の経験や特性を生かした校務分掌の作成に努め、一つの分掌を担当教職員のみができるということにはせず、他の教職員がその分掌をバックアップできるようにすることで、チームとして取り組むという風土を醸成している。

## 4 本校の家庭・地域社会との協働・連携【基準5】

### (1) 学校に対する関心・期待の把握

#### ア 保護者向けのアンケートの活用

家庭から学校への関心・期待の内容については、主に保護者向けの生活アンケートや学校評価アンケートを活用して把握している。アンケートの結果を全教職員で共有することで、教育活動全般を見直すきっかけとしている。

#### イ 学校評議員会

学校評議員会は地域の公職経験者や有識者などにより組織している。学校の様子や保護者向けのアンケートの結果を伝えるとともに、学校に対し多方面からさまざまな意見をいただいている。出された意見や課題を教職員に伝え、よりよい教育活動を進められるよう改善策を考えている。

#### ウ 地域コミュニティとの連携

自主防災訓練や環境整備などの行事はコミュニティと協力して行っている。また、地域学習の指導者として地域の方から協力を得ている。これらの運営には、多くの教職員が関わり、打ち合わせの場は地域からの声を聞くよい機会となっている。

### (2) 学校の共有ビジョン・実態の発信と協働・連携意識の獲得

情報の発信については、学校だよりやブログ、メール、ウェブページで行っている。また、共有ビジョンを掲載した学校紹介リーフレットについては、年度始めのPTA総会やコミュニティ総会で配付した。行事の様子や職員の写真を載せるなど、保護者や地域の方が見やすく、親しみやすい内容を心がけている。児童を学校と家庭、地域がともに手を取り合って育てていくという意識を高めるために、学校生活の様子、家庭・地域からの意見、学校からの依頼事項を積極的に発信している。

## 5 おわりに

目指す子ども像の実現を目標に、学校経営ビジョンを実現するためには、教職員や保護者、地域の教育資源、また、行政の力を連携させながら活用することが必要であると実感している。そのために校長は、学校を常に観察し、教職員との連携から情報収集を図り、常にPDCAサイクルで見直しながらチーム学校として運営していくことが求められる。限られた時間の中で、計画的かつ効果的に学校運営していくことが課題ではあるが、歩みを止めずに一歩ずつ着実に取り組んでいきたい。

校訓 正しく 仲よく 元気に

知育・徳育・体育を通して、調和のとれた人間形成を目指し、心豊かで創造力を持ち助け合い、やりぬくことができる西部っ子を育成する。



学校経営方針



キャッチフレーズ  
「元気なあいさつ 楽しい学校」を目指して

目指す学校像

- 全ての児童が大好きと言える学校「行きたくなる」
- 保護者が安心して児童を通わせたい学校「行かせてよかった」
- 教職員がやる気に満ちた学校「勤めてよかった」

目指す子ども像

- 確かな学力と豊かな情操を身に付けた子 (知育)
- 思いやりの心を持ち、言動に表せる子 (徳育)
- 健康な身体と安全な生活習慣を身に付けた子 (体育)

目指す教師像

- 児童に寄り添い、児童から信頼される教師
- 授業を大切に、自己研鑽を積む教師
- 教育愛に富み、教師としての使命を果たす教師

本年度の重点努力目標

- 知の教育の充実 ～確かな学力・豊かな情操～
  - ・国語、算数を中心に、分かる授業、ドリルタイム、努力賞テスト、習熟度別少人数指導授業などを充実し、基礎・基本の定着を図る。
  - ・全教科を通して、思いを表現する活動とつなげる発言を重視し、言語活動を充実する。
  - ・課題解決に向けた主体的・対話的で深い学びを推進する。
  - ・感動体験の充実とリレーション活動を取り入れた授業による、感性・探究心・意欲の育成を図り、情操教育を推進する。
- 心の教育の充実 ～思いやりの心を育む～
  - ・「元気な挨拶」「はいという返事」「はきものを揃える」しつけ三原則を徹底する。
  - ・道徳教育の充実と異学年交流を推進し、お互いを認め合う人間関係づくりを構築する。
- 体の教育の充実 ～健康で安全な生活習慣の定着～
  - ・体育授業、体育的行事、外遊び（全校遊びなど）を充実し、体力の向上を図る。
  - ・保健指導、安全教育の推進、早寝・早起き・朝ご飯を通して、健康的で安全な生活習慣をつくる。
  - ・食に関する正しい知識と望ましい食習慣で、食を通して健康指導を行う。
- 生活・学習習慣の定着 ～「しあわせ運動」の推進～
  - ・児童会と連携した「しあわせ運動」を推進する。（「し」姿勢を正しく「あ」挨拶の習慣づくり「わ」分かるまでできるまで「せ」整理整頓）
- 地域との連携
  - ・登下校指導、クラブ活動、稲作体験、鰻体験などの地域の教育力を活用する。
- 組織力のある教職員集団
  - ・現職教育を充実し、指導力を向上させ、児童を鍛える教師集団をつくる。
  - ・学年、指導部での協力体制の強化と全職員の同僚性を深める親睦会を実施する。
  - ・水曜日にフロッグデー（早く帰る日）を設定し、ゆとりのもてるワークライフバランスを図る。

## Ⅲ-6 各都市小学校の学校経営の実際 知立市立知立南小学校

### 1 はじめに

本校は、開校から40年を過ぎた。開校当初、学校の周りは田畑が多く、児童数553人の14学級であった。その後、児童数が800人を超える時期もあり、現在は児童数708人で27学級、学校周辺はほぼ宅地と化した。学区を南東より斜めに貫く東海道新幹線もかつては遠くより眺められたが、今では建物で垣間見るのみとなった。学区は、二本の川に挟まれた中に3町があり、市内では比較的自然の多い学区と言え、川が合流するあたりには、石器時代から縄文、弥生、古墳時代の遺跡も存在する。

### 2 本校の共有ビジョンの形成とその具現化【基準1】

宅地化されたとは言え、田畑や池、川、神社、そして牧場などの環境が残るため、それらに棲む生物は諸資源であり、それを教材としながら、命について考える教育ができるのが本校のよさである。さまざまな生き物の能力や特性、他の生物との関わりに気づき、生物の多様性と共生の必要性を感じ取ることができ、「命の大切さ」の精神を育むことができる。多様性と共生を重んじる精神は、そのまま人と人との関係にも当てはめて考え、自分の能力や特性を生き物になぞらえ、「よさ」ととらえることで「自己有用感」を育むことができる。自己有用感とは、自分の特性、能力などを知り、生かそうとする意欲であり、自分自身の命を大切にすることでもある。自分のよさを知ることは、全ての生き物を含めた他者のよさを知った上で育まれるものであり、全ての命を大切に考えることである。「命を大切に」することと、「自己有用感」を得ることは同等で重なることであり、同時に育まれるものである。開校以来の風土において本校で育むことができる教育をこのように捉え、目標とした。(P31参照)

命を大切にし、自己有用感をもつ児童を育むためには、児童の特性が出る「思いや願い」を引き出し、あらゆる教育の場の出発点にしなければならない。教師は、その「思いや願い」をその子なりに達成できるよう支援を工夫し、その子なりの「考え」にまで引き上げる。「考え」をもつことで主体的・自主的に行動するようになるはずである。一人では行動にできない子もいるかもしれない。そこで仲間たる学級や学年集団の意味が出てくる。互いの考えをぶつけ合い、試行錯誤しながら、結

果を出させることで達成感が生まれるだろう。そのスパイラルの中で、自己有用感を育むことができる。

スパイラルの中で、教師は、「思いや願い」を引き出し、「考え」まで発展させる支援を続けるわけである。しかし、学校を取り巻く環境を地域の資源として活用するためには、家庭だけでなく地域との連携・協働が不可欠である。これを個々の教師の力量だけで期待するのではなく、学校の体制として確立することで、より強力に推し進めることができると考えるようになった。

### **3 本校の教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり【基準2】**

体制をつくる前に、思いや願いを自分の考えに発展させ、自信と自主性をつけていくスパイラルな過程で、どのような力が必要かを明確にしなければならない。それを、風土がら環境教育を進めてきた本校には、更に発展していくためにESDの考え方が合っていると考えた。ESDが目指す育みたい力を参考に、前述した本校の目標に合った育みたい力を明確にした。そして、児童が示すさまざまな思いや願いに対応するためにも、ユネスコスクールがもつネットワークが必ず有効になると考え、ユネスコスクール登録を目指した。

以上を学校の研究主題として進めつつ、地域との連携・協働の体制づくりを模索した。学校の体制として、地域との連携・協働を進めるためには、やはり国が提唱するコミュニティ・スクールの形がしっくりくる。ユネスコスクール同様、児童の思いや願いを地域で強力に支えることで、自信をもった「考え」へと発展していく。そんな体制があれば、児童の主体性が高まると同時に、地域への愛着も高まっていくだろう。

### **4 本校の諸資源の効果的な活用と危機管理【基準4】**

コミュニティ・スクールを学校の体制とする場合、その中心となる「学校運営協議会」が必要となってくる。そこで目をつけたのが、「知立南小地区青少年健全育成協議会」という組織であった。本校では、「3世代輪投げ大会」というのを3町合同で年1回行っており、この組織は、この大会のためだけの組織である。会長は現PTA会長で、3町の区長や子ども会役員などがメンバーに含まれる。この組織がその活動を受け継ぎながら改編し、コミュニティ・スクールの中心となる組織と

することで、組織を新たに増やすのではなく、活性化しながら本校独自の新たな体制づくりができる考えた。

この案を、かつてPTAにも携わったことがある学区内の市議会議員の方々にまず相談した。各町の実情なども精通しているのも、はたして本校学区で可能かどうか、校長よりこれからの学校づくりについても説明した上で提案した。会長も現PTA会長ではない人材で、数年間は継続して取り組むことが可能な方を紹介していただいた。そして、各町の問題事案も、学校を交えた3町で力を合わせた新たな解決策の可能性も見だし、賛成をしていただくことができた。また、5年前にできた「南小とーちゃんの会」も、これまでにさまざまな形で学校に力を貸してくれていたのも、組織に参画する方向で話が進んでいった。

## 5 本校の家庭・地域社会との協働・連携【基準5】

協議会の組織や運営の仕方などは、校長会の研修で召喚した三重県鈴鹿市の学校でのコミュニティ・スクールの取組を参考にすることができた。組織のメンバーは、まず3町から1名ずつ代表を出していただき、会長と副会長で3名（会長は互選）とした。地域連携コーディネーター3名は、組織の運営役であり、教頭が協力して会を仕切っていく。現PTA会長は、一委員、顧問として校長と前PTA会長、更にスクールガード、とーちゃんの会、学区子ども会ブロック長を委員として組織を構成することにした。こうして、先の協議会は、通称「みなみ育成会」、愛称「みな丸会」として生まれ変わった。

年間6回の会議を設け、今まで学校が行っていたボランティア招集を協議会として募集をするようにした。初回の会議で早速取り組んだのは、今までスクールガードの会やとーちゃんの会、PTAがそれぞれで取り組んでいた草取りの統一である。学校の保護者だけでなく、地域の方にも広報したところ、多くの方に参加いただいた。本校の教育も、さまざまな力を結集して発展することを確信した。

## 6 おわりに

児童の「思いや願い」を、地域を巻き込みながらみんなで膨らませる。他と関わり合いながら自信のある「考え」をもった児童をみんなで支えられる学校と地域、そんな楽しい学校ならば、児童の夢は、世界まで広がっていく。今後、それが実現できる体制が充実していくと信じている。



# 楽しい学校

校訓

つよい  
かしこい  
なかのいい みなみっ子



子どもたちの夢・こんな学校にしたいという思いや願いを実現  
令和2年度 南小をこんな学校に（みなみっ子の思い・願い）

けんかやいじめのない、仲のいいやさしさいっぱい  
あいさつができ、明るく元気で笑顔いっぱい  
協力し助け合う、思いやりでいっぱい



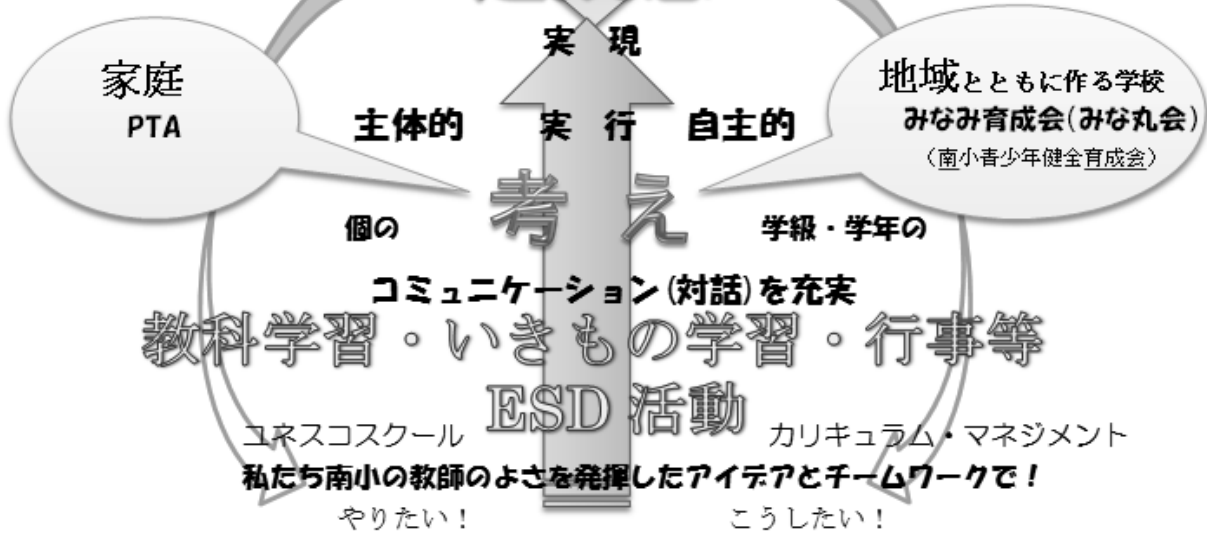
自分で課題（問題）を見つけたり疑問を感じたりできる子  
自他を認め合い、つながりを大切にし、共に学び合おうとする子  
課題（問題）の解決に向けて粘り強く考え行動できる子

## いきいきと

思いや願いの実現のために自らの課題をもち、共に考え、粘り強く学び合う  
できた！ わかった！  
〇〇さん、すごい！

大成功！ がんばった！  
〇〇さん、ありがとう！

## 達成感



子ども一人一人の **思いや願い** を大切にして

## Ⅲ-7 各都市小学校の学校経営の実際 高浜市立高取小学校

### 1 はじめに

本市は、小学校5校、中学校2校と大変小さな市である。ここに紹介する小学校は、田や畑の多い田園地域の学校で、児童は落ち着いている。校長は家庭や地域の協力を得ながら、児童・保護者の願い、地域の願いや特質を十分に把握し、児童の健全な成長に向け、よりよいビジョンを形成する取組を行っている。

### 2 本校の共有ビジョンの形成とその具現化【基準1】

#### (1) 情報の収集と現状の把握

##### ア 多様なメンバーの学校関係者評価委員会からビジョンの情報をつかむ

本会は、実際に見た学校生活の児童の様子や休日や放課後の家庭や地域の児童の様子から、学校や児童がよりよくなる意見や提言をいただくとともに、現状を評価していただく組織である。多面的・多角的な視点から意見をいただき、教育ビジョンに生かすため、さまざまな立場の方に参加をお願いしている。こども園園長と園保護者、中学校教諭、学区の児童委員、公民館長、地域団体代表、PTA関係者、教育の専門の大学准教授をメンバーとしている。当准教授は、11年間継続して当校の教育に携わっていただいている。そのため、当校が抱えている課題を克服するための研修会の講師としても来ていただき、指導をビジョン形成に生かしている。

##### イ PTA理事会の自由討議からビジョンの情報をつかむ

PTA理事会を、本校は年間7回開催している。議題はPTA行事の準備やPTA各委員会からの報告が主であるが、本年度から自由討議の時間を設けていただいた。参加していただいている保護者にさまざまな情報や意見を話していただいている。この会には校長、教頭、教務主任、PTA委員会担当教諭が参加しているため学校への意見や要望も多い。その意見等には、教育ビジョンをつくる上で参考にすべき内容のものも多い。保護者の願いや期待、学校の課題をつかむ大切な時間である。

#### (2) 学校のビジョンの形成と職員への周知

校長は、教育基本法等の法律や学校教育目標、児童や保護者の願いや実態、地域の実情等を考慮し、「目指す子ども像」「該当年度教育重点目標」を決める。

##### ア 目指す子ども像 「夢をもち、将来を豊かにたくましく拓く子」

## イ 令和2年度 教育重点目標

- (ア) 学ぶ力・学力を向上させる
- (イ) 豊かでたくましい心を培う
- (ウ) 体力・健康・安全について考える力、実践意欲を高める
- (エ) 家庭・地域との連携

上のア・イと具体策、学校経営方針・評価計画を年度始めの職員会議で全職員に示した。

## 3 本校の教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり【基準2】

### (1) 全ての児童の成長・発達を保障する

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月と5月が休校になった。この間、学校は家庭訪問や半数登校日等を設定し、児童の学力や心を支えた。しかし、初めて経験する先の見えない長い休校や十分に解明されていない新型コロナウイルスへの心配等は児童にさまざまな影響を与えた。本校でも、登校を渋る児童がでてきた。そのため、不登校対策委員会をもち、実際の支援・対応について話し合った。支援策の検討は登校渋りの児童を担当していない教員にも考える機会・力量向上の機会になった。また、「みんなでみる」という意識が高まった。最後に、校長は「児童に寄り添った対応」「チームとしての対応」を指示した。

#### ア 児童に寄り添った対応

保健室等（別室）登校、夕方登校等、本人の実態を踏まえ、がんばれるところからスタートする対応を行うよう指導している。

#### イ チームとしての対応

登校渋りの情報が入ると、校長は教頭に指示し、関係する教員を集める。会では、指導・支援の方針・具体策を共有する。担任外の教員が家庭訪問したり、保護者の相談を受けたりすることもある。また、不登校が続く児童をスクールカウンセラーや市の家庭教育相談員につなげることもある。報告された情報は、関係する職員で文書回覧したり、会をもったりして共有し、事後の指導に生かしている。

### (2) 主題研究で教育活動の質を高める

本校は算数科で研究に取り組んでいる。算数を主題研究に選んだのは児童の実態から校長が適切と強く感じたからである。そして、昨年度は岡崎市の連尺小学校で

研究に取り組んだ先生を講師として招き、研修を行った。夏休みと平日の授業研究である。どちらも全員参加で事後の感想には「自分も取り組んでみたい」「おもしろかった。取り組めることからやってみよう」との記述があり、教員の実践に向けた意欲が高まった。講師を受け



<授業研究で教育の質を高める>

てくださった先生は、校長が西三河教育事務所と関わりのある方を通してお願いした。研究の環境を整え、教育の質を高めることも校長の役割である。

#### 4 本校の家庭・地域社会との協働・連携【基準5】

##### (1) リーフレット・PTA総会の校長挨拶で共有ビジョンにする

毎年4月のPTA総会の校長挨拶（15分程度）でその年度の教育ビジョンを説明する。そのときの資料としてリーフレットを作っている。また、リーフレットだけでは十分に説明できないため、パワーポイントを用いる。本年度はPTA総会が中止されたために6月1日に家庭にリーフレットを配付した。なお、年間活用されるように、リーフレットには年間行事計画等も入れた。

##### (2) 学校だより「三本桜」で共有ビジョンにする

学校だより「三本桜」は毎週、保護者に学校の教育活動や児童の様子を知らせるために発行している（令和元年度は41号発行）。この学校だよりは保護者だけでなく、公民館・学区のこども園にも届けている。公民館に届けられたものは地域の人に読まれ、学校理解の一つの手だてになっている。こども園の先生方にも、学校だよりによって小学校の取組やビジョンをより理解していただいている。これにより、園と義務教育の12年の学びがより有効に行われるようになった。

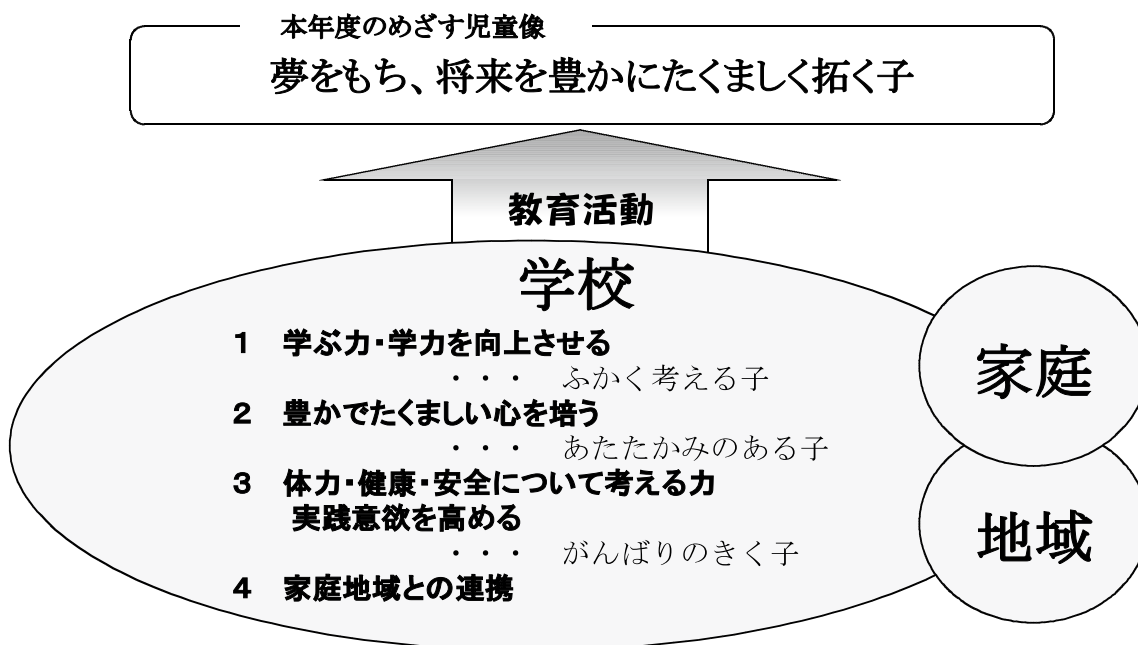
#### 5 おわりに

高浜市においても他市同様、定年退職に伴う初任者の配置が多い状況にある。そのため、毎年、校長の経営ビジョンを教職員に周知することは大変重要である。また、今後、児童生徒が地域に出て学習する機会も増えていく。学校の教育ビジョンが学校だけでなく、家庭や地域と共有することがますます求められる。

## 令和2年度 高浜市立高取小学校 本校の教育目標

心豊かで、たくましく、実践力のある子どもを育てる

— ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子 —



### <組織化をリードする7つの基準の具体的な取組>

#### 1 学校の共有ビジョンの形成と具現化

- ・学校関係者評価委員会・PTA理事会等により、児童や保護者、地域情報を集める。
- ・法規や教育情報、児童・地域の情報、自身の見識等に基づいて教育ビジョンをつくる。
- ・PTA総会で教育ビジョンを保護者に説明し、学校・家庭・地域の共有のビジョンにする。

#### 2 教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり

- ・公開授業を見合うことや協議会により、自己の力量を向上させようとする意識を高める。
- ・年3回（本年度は2回）の「がんばりテスト」の指導を通して、子どもたちの自己肯定感を育てようとする教職員の意識を高める。

#### 3 教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり

- ・自己評価シートをもとに校長が職員と面談し、それぞれに期待する姿を伝える。

#### 4 諸資源の効果的な活用と危機管理

- ・総合的な学習の時間「ひえ田川となかよくなるう」の講師として地域の方をお願いする。
- ・危機管理マニュアルを避難訓練等の実施時と年度末に見直す。（P D C Aサイクルを回す）

#### 5 家庭・地域社会との協働・連携

- ・毎週発行する学校だより「三本桜」やブログによって、学校の教育活動への理解を促す。
- ・公民館運動会・文化祭への協力（児童の作品展示）、夏祭りへ吹奏楽部を参加させる。
- ・高浜市の防災訓練に参加し、緊急時の避難所機能と学校再開について見通しをもつ。

#### 6 倫理規範とリーダーシップ

#### 7 学校をとりまく社会的・文化的要因の理解

## Ⅲ-8 各都市小学校の学校経営の実際 幸田町立荻谷小学校

### 1 はじめに

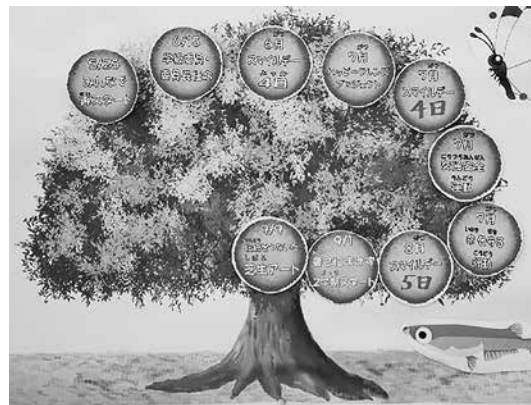
本校は、幸田町のほぼ中央に位置し、駅を中心にした商業地域、水田やイチゴハウスが広がる田園地域、新たに造成された住宅地域が混在する学区をもっている。児童は、その多様な生活の舞台に多くのことを学び、地域の方々もそれに対する応援を惜しまない。本年度から全面実施となった学習指導要領で示された理念に「地域に開かれた教育課程」がある。これを受け、本年度の重点努力目標として「荻谷を知り、荻谷でともに生きるための学び＝荻谷学」の推進を掲げた。ここには、本校がもつ強みを生かし、地域の教育力を活用しながら、近年増加している若手教員を含めて、全ての教員、児童がともに成長できる基盤をつくりたいという願いもこめている。具体的な取組について以下に述べたい。

### 2 本校の共有ビジョンの形成とその具現化【基準1】

本町では1年次の調査研究の中で、①児童の実態や思いを踏まえたビジョン ②伝わりやすさを意識したビジョン ③関係者を巻き込んだビジョンという三つの視点で各校の学校ビジョンを分類している。これを受けて、本校では、学校づくりスローガンを「お・ぎ・や 笑学校（おもいやり・きょうりよく・やりぬく心）」とし、子どもたちに育てたい資質・能力を明確化するとともに、保護者、地域と共有することに努めてきた。また、「特別の教科 道徳」の先行実施に当たっては、この三つの道徳的価値を、本校の重点内容項目として、全体計画別葉を作成した。

本年度は新学習指導要領で授業改善の視点とされている「主体的、対話的で、深い学び」を重点として付け加え、「おぎやまもも＝お・ぎ・や + まなびあい もっともも」とし、経営方針の柱として示した。ここには、本校が研究テーマとしている「協同の学び」を更に高めたいという願いと、校名と学校のシンボルツリーである「やまもも」をつなぐことで、児童にとっても、また保護者、地域の方々にとっても親しみやすいものになるようにとの思いをこめている。なお、保護者・地域へはランドデザインとしてウェブページを通して周知するとともに、学校評議員会、コミュニティ役員会等でも話題として、外部からのご意見もいただきながら見直しを図れるようにしている。

児童には、学習や活動の成果としての果実を貼り付けていくことで、がんばりを見える化するとともに意識の継続を図るよう心掛けた。



<「おぎやまも」掲示>

### 3 本校の教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり【基準3】

本校は、学校経営方針を受け、現職教育のテーマを「協同して問題解決に向かい、学ぶ喜びを感じる子どもの育成」とし、児童と教師がともに成長できる学校づくりを目指している。情報化社会の進展の中、今こそ学校でしかできない学びをつくらうという共通理解の下、教師自身が主体的に研究に取り組めるよう体制づくりを進めた。

その一つが研究授業後の事後検討会でグループに分かれて話し合うことである。進行役（ファシリテーター）は、必ず若手教員が務め、話し合いのテーマ設定やグループで出された意見の全体への報告を行う。これにより、ベテラン、中堅教員から出されるさまざまな意見を聞き、児童の発言のつながりや教師の出の適切さ等をより深く考えることができる。こうした研究の積み重ねが、教師個々の授業洞察力を高め、児童同士が学び合い、高め合う授業づくりに生かされるものとする。

二つ目が研究部会の編成と運営である。本年度は、①荻谷学 ②自立的な学び ③心の教育の三つの部会をつくり、それぞれから提案される実践を全体に広げるようにした。①は地域教材の整理、活用を進めるとともに、6年間で系統的に学ぶことで、地域の一員としての自覚をより強くもち、自分から地域に働きかけていけるような児童の育成を目指している。②は、自らの学習を振り返り、自分で新たな目標や課題を設定していく力をつけるため、主に家庭学習の在り方を研究している。③は人間関係づくりを学び、折れない心を育てる場としてのエンカウターの取組や、個のつまずきに寄り添った学習支援であるMIMや認知トレーニングの積極的な活用を進めている。

こうした教育活動の土台となる児童理解を深める場として、毎月1回の情報交換会、特別支援校内委員会、いじめ・不登校対策委員会といった定例会の他に、授業後の職員室での会話（「ふわっと会議」と呼んでいる）を大切にしている。問題を担任一人で抱えるのではなく、そこに関わる複数の教員、場合によっては校長、教頭

が参加することで、児童の心理を多面的に読み取り、学校として同じ方向性をもって指導に当たることができている。

#### 4 本校の家庭・地域社会との協働・連携【基準5】

本町では、3年次の調査研究において、どの学校でも右に示すような地域人材を積極的に活用している。特に、地域の特産物であるなすやいちごの栽培は、地元の生産者を講師に迎え、年間を通して関わりをもつことで感謝の気持ちと郷土に対する誇りを

##### 地域人材の活用例

- ・野菜栽培、米作り
- ・文化を継承するクラブ活動
- ・地域交流活動
- ・先輩に学ぶ会
- ・俳句教室

高めるよい機会となっている。本校では、独自の活動である親子学級「わくわくワーク」において、和風づくり、ユニバーサルホッケー教室など、十数講座の講師を地域の方をお願いしている。保護者は、児童とともに参加し、加えてPTA役員が講座運営を行うため、まさしく学校・家庭・地域が一体となった活動となっている。

地域の様子や学校に対する期待を把握する上で、コミュニティ役員会、児童民生委員学校訪問、学校評議員会などが貴重な場となっている。各役員、委員には学校行事にも来ていただくことで、顔の見える関係づくりに努め、学校への関心を高めていただくようにしている。学校からもPTA新聞やホームページでの発信に加え、児童自身が地域行事の手伝いをするなど、児童を地域全体で育てようという意識をもって活動できている。

#### 5 おわりに

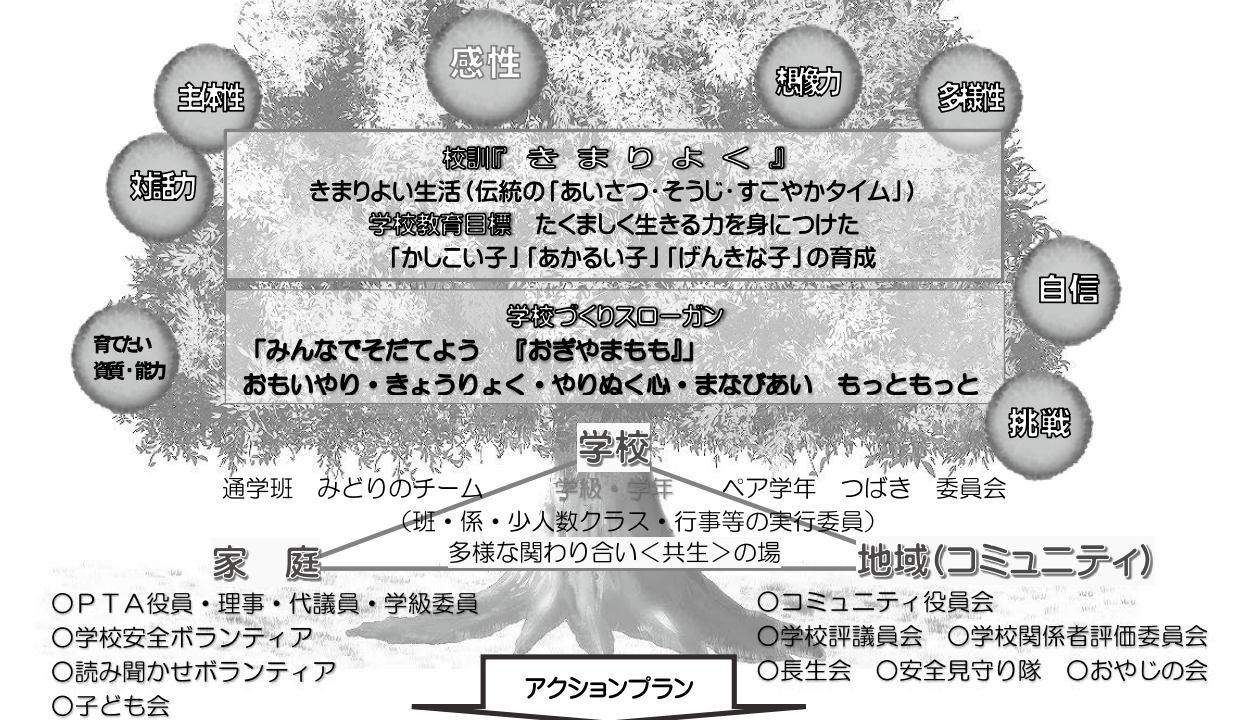
チーム学校の推進に伴い、専門機関との連携を強めながら児童理解や適切な支援を図る必要がある。また、地域人材の活用も増えており、今後、いっそう学校のビジョンを明確にし、共有していくことが重要である。これらの課題に取り組んでいくために、教職員一人一人がビジョンづくりに参画し、学校づくりに対する責任の自覚と意欲を高めるような方策を模索していきたい。

本町は9小・中学校という特質を生かし、年度当初より各校の教育ビジョンや一年の振り返りを情報交換する場を設けている。これは、互いの学校経営上の悩みを共有したり、新しい考えに触れたりする貴重な機会になっており、本町の規模や地域性を生かした特色あるスタイルであると言える。また、校長が主体的に研修に参加し、自らの実践を振り返る有意義な機会とし、更に推進に努めたい。



# 2020みんなで育てよう 『おぎやまもも』

～令和2年度 荻谷小学校のグラントデザイン～



**あかるい子(徳)**  
 ・明るく思いやりのある心豊かな児童  
**集団づくり**  
 ○特別活動  
 ⇒学級会の自治的な運営  
 ⇒行事(スローガン・実行委員会)  
**心の教育**  
 ○道徳教育を核として  
 ⇒重点内容項目は**お・ぎ・や**  
 +**ありがとう**  
 ○特別な教科 道徳  
 ⇒荻谷スタンダード<自己内対話>  
**個別の支援(特別支援教育)**  
 ○その子らしさを支える  
 ⇒傾聴  
 ⇒認知能力向上(コグトレ)

**かしこい子(知)**  
 ・主体的に学びに向かい、共に学び合う喜びを感じる児童  
**学び合い高め合う授業**  
 ○感性と問題意識を高める体験活動  
 ・気づきの目 ・感動する心 ・問い生む  
 ○直に関わり合う授業スタイル  
 ・板書 ・共同制作 ・ペア、グループ対話  
 ・相互指名、自由発言  
 ○ねらいと振り返り<メタ認知>  
 ⇒子どもに寄り添った単元構想と授業展開  
 ○結果より経過を評価  
 ○国語力  
 ⇒読書 音読・群読 MIM αドリル  
**自立的な家庭学習**  
 ○自分で決めて自分で取り組む  
 ⇒**けてぶれノート**(計画・テスト・分析・練習)

**げんきな子(体)**  
 ・よき生活習慣を身に付けた、健康でたくましい児童  
**すこやかタイム**  
 ・自分のために走る  
**外遊び**  
 ・全校レク ・自由遊び  
**健康教育**  
 ・基本的な生活習慣(歯磨き 質のよい睡眠)  
 ・心身の健康(レジリエンスの向上)  
 ・学校保健委員会の充実  
**食育**  
 ・食習慣の改善(給食⇄家庭)  
**安全・防災教育**  
 ・より実践的な避難訓練

**社会に開かれた教育課程**  
 ○総合的な学習(とぼね学習)を核として ⇒『荻谷学』  
 ・人々のくらし 自然 環境 歴史 防災  
 ○キャリア教育 ⇒オリンピック・パラリンピックにつなげて  
 ○新たな取り組み ⇒外国語 プログラミング学習 SDGs

**学び続ける教師**  
 ○信念と柔軟性(変化に対応できる)  
 ○授業洞察力(授業分析)  
 ○行事の見直し(PDCA)業務改善⇒働き方改革

**専門機関との連携**  
 ・学校医 ・SC ・町教育相談室  
**外部講師招聘**  
 ・つばき(金管・和太鼓)・米作り・いちご栽培・わくわくワーク  
**幼保小中高連携**  
 ・㊤就学時健診・体験入学・相互交流  
 ・㊤防災訓練  
 ・㊤陸上・金管・カンボジア支援

## Ⅲ-9 各都市小学校の学校経営の実際 豊川市立天王小学校

### 1 はじめに

本校は、昭和49年4月3日に開設された小学校である。豊川市の南東部に位置し、学校のすぐ北側を中央構造線が走っている。中央構造線より北側には住宅地や商業施設が、南側には田園地帯が広がっている。令和2年4月現在、児童数263人、1年から3年各2学級、4年から6年各1学級、特別支援学級3学級という学校規模である。本校の教育目標は、「豊かな人間性を培い、未来をたくましく生きぬく子どもを育成する」である。この教育目標と目指す子ども像を実現するために、五つの経営方針と月毎の重点努力目標を全教職員に分かりやすく提案し、共通理解が図れるように努めている。

### 2 本校の共有ビジョンの形成とその具現化【基準1】

天王小といえば「米作り活動」と言われている。開校3年目の昭和51年から現在まで続く、天王小学校の伝統行事である。この活動は、五つの経営方針のうちの三つと大きく関わっている。その経営方針とは、「『命輝き、笑顔あふれる学校』を教職員が一丸となって目指す」、「最後までねばり強く取り組めるように個に応じた指導をし、できる喜びを存分に味わわせる」、「家庭、地域の教育力の活用を図りながら、ふるさとを愛する感性を育む」である。本校の共有ビジョンの形成に、この「米作り活動」は大きな意味のある活動と言える。この活動は、実習田活動から「天王まつり」の行事につながっている。同時に、経営計画の中で大切にしている1年生から6年生までの縦割り班活動である「わくわく班」とも関連している。



<「わくわく班」で行う稲刈り>

実習田活動は、田んぼ名人の指導の下、毎年5年生が中心となって総合的な学習の時間である「ましみずの時間」を使って、次の①から⑦の活動を進めている。① 籾から苗を育てる苗作り ② 自分たちで進める水の管理 ③ 手分けして行う肥料まき ④ 田んぼを機械でならず代かきの見学 ⑤ わくわく班で行う田植え ⑥ わくわ

く班で行う稲刈り ⑦乾いた稲から粃を取る脱穀。この中でわくわく班で取り組む田植えは、高学年から低学年へ米作りの伝統を引き継ぐ重要な時間となっている。また、稲刈りでは高学年の指導の下、低学年が稲を刈り、高学年が稲束にして、昔ながらのはぎに干していく。全校児童が笑顔で収穫の秋を実感できる時間となっている。この他にも5年生は、地域の方に正月飾りのしめ縄づくりを教えていただいている。お米だけでなく、藁も大切に使う先人の知恵や工夫を知る機会にもなっている。

学校とPTAが共同で運営している「天王まつり」は、稲作の収穫を祝い、できたお米でお餅をつき、全校で会食する感謝祭である。この行事も昭和51年から続く天王小ならではの行事である。現在は、お米の収穫を祝うだけではなく、本校を多方面から支えてくださっている地域の方々に対する感謝の会として行う第1部と、児童・PTA・地域の方々で収穫を祝い、天王米を使って餅つきと会食を行う第2部の構成で盛大に行っている。

実習田活動から「天王まつり」へとつながる活動を通して、児童はやり遂げた喜びを存分に味わうとともに、この地域ならではの温かさを体感している。また、「天王まつり」は、学校の経営方針を児童の姿や言葉を通して、保護者や地域の方々にも理解していただく場にもなっている。

### 3 本校の教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり【基準3】

本校の伝統をつないでいく上でも大変重要な米作り活動である。その米作りの技術的な指導は田んぼ名人から学ぶことができるが、問題点も抱えている。農業経験をほとんどしたことがない教員にとって1反の田んぼの責任者となって世話をしていく負担はかなり大きい。また、5年担任は、通常の業務以外にも、児童会・委員会の中心となって学校全体を動かすことや2泊3日の野外教育活動など担当すべき分掌が多い。そこで、5年担任は、特別支援学級担任と学年を組織することと、関係する校務分掌の複数配置や主担当の振り分けを明確にすることで仕事の負担を少しでも軽減するように配慮している。米作り活動に関して言えば、職員会議の提案と米作り会計は特別支援学級担任が行い、田んぼ名人の任用関係や連絡と調整、脱穀・精米の手配は教頭が行っている。そして縦割り班活動を機能させて全校で行う田植えや稲刈りは、全職員の協働の協力体制で進めている。

## 4 本校の諸資源の効果的な活用と危機管理【基準4】

本校には、田んぼ名人以外にも草木の剪定や図書館ボランティアの活動を行う学校サポーターの方々、定期的に朝と昼に情操教育として読み聞かせを行う読むぞうの会、朝と帰りの交通指導を行う交通指導員と防犯会、しめ縄づくりの講師やクラブ活動の指導を務める寿会・壮年クラブ、土曜日のふれあい教室や挨拶運動を推進する青少年健全育成推進協議会など、各種の学校応援団的な組織がある。学校は、これらの地域の方々と定期的に情報交換をし、学校のビジョンを共有していくとともに、協力していただける人的・物的な資源の把握に努めている。また、田んぼ名人の方々は、豊川市の非常勤講師として登録し財政的に支援するシステムも整えている。

地域との関係が密接な本校では、校区と合同で運動会を実施している。学校側にとっては、準備や片付け、進行補助に校区やPTAの人的資源を活用できている。学校と校区体育振興会とが協議しながら運営するシステムが着実に機能しており、地域全体で児童を育てていることが実感できる場となっている。その一方で課題が一つ存在する。校区との連絡や会議は勤務時間内で行えるものがなく、一部の教員の負担が大きいことである。

## 5 おわりに

米作り活動は毎年、6年生が5年生に伝統を引き継ぐところからスタートする。「次は私たちの番だ」というやる気と「お米はたくさん収穫できるかな」という不安感をもちながら5年生の追究が始まる。一人調べをしたり、全校に発信するために集会や劇を企画したりしている。これらの学習に取り組むことで、伝統は更に意識され受け継がれていく。また、教職員にとっても地域の教育力を実感し、協働の意識を高めて取り組んでいかななくてはと思える活動になっている。

また、「天王まつり」では多くの学校応援団的な組織の方々から、「感謝の気持ちのこもったお礼の手紙や天王米を渡してもらい励みになっている」という声をいただいた。だが一方で、各組織とも発足からの時間も長く経過し、メンバーの高齢化と後継者不足は否めない。広報活動や条件整備を更に進め、新規メンバーの獲得に努める必要がある。

# 天王小学校グランドデザイン

## <教育目標>

豊かな人間性を培い、未来をたくましく生きぬく子どもを育成する。

# 天

〔校章〕

### 〔校章の由来〕

天王っ子が、天に向かって力いっぱい両手を伸ばすと同時に、足を大地に踏ん張って力強く立ち上がった姿を表している。



## <目指す子ども像>

### 【自ら学ぶ子】

生き生きと学習に取り組  
み、じっくり考える子

### 【思いやりのある子】

他者を思いやり、自然や  
美しいものに感動する子

### 【たくましい子】

心身ともに健康で、ねば  
り強く努力できる子

## 経営方針

- ・「命輝き、笑顔あふれる学校」を教職員が一丸となって目指す。
- ・子どもの小さな変化を見届けられる教師集団を目指し、全校体制で子どもを育てる。
- ・最後までねばり強く取り組めるように個に応じた指導をし、できる喜びを存分に味わわせる。
- ・家庭、地域の教育力の活用を図りながら、ふるさとを愛する感性を育む。
- ・家庭、地域との連携を密にして子ども理解を図り、温かい人間関係に基づいた学級、学校づくりに努める。

## PDCAサイクルによる学校経営の見直し

### 学びづくり

- ・現職教育の充実  
「認め合い 高め合う天王っ子  
～考えや思いをつなぐ～」
- ・「主体的・対話的で深い学  
び」の視点からの授業改善
- ・命の教育・人権教育の充実
- ・「米作り活動」の学び

### 心づくり

- ・「あ・は・ハ」運動
- ・わくわく班活動
- ・米作り活動
- ・黙々清掃
- ・読書活動推進



### 体づくり

- ・校区民合同運動会
- ・器械運動月間 他
- ・校内持久走大会
- ・防災・安全教育の充実
- ・「ひばり生活」の取組

### ふれ合いづくり

- <地域への発信> 開かれた学校(授業・行事の公開、学校運営協議会)、学校HP等の情報発信
- <地域との連携・協働> 学校サポーター(田んぼ名人、草木の剪定、図書館ボランティア)、  
読むぞうの会、交通指導員・防犯会、寿会・壮年クラブ、青少年健全育成推進協議会



## Ⅲ-10 各郡市小学校の学校経営の実際 蒲郡市立蒲郡東部小学校

### 1 はじめに

蒲郡市では、入学式・卒業式など、行事のはじめに、市民憲章の唱和をしている。以下、市民憲章を記述する。

#### 蒲郡市民憲章 三つの誓い

(昭和47年11月3日制定)

- (1) 「はい」「ありがとう」「すみません」、愛のことばでひとつづくり
- (2) 心と体をすこやかに、笑顔で働きいえづくり
- (3) 海と空を美しく、みんなの力でまちづくり

小学生からお年寄りまで、誰もが暗唱しており、市全体で同じ目標に向かって取り組んでいる。同じことを繰り返し指導し、じわじわ浸透するまさに涵養の教育である。

### 2 本校の共有ビジョンの形成とその具現化【基準1】

#### (1) 地域へ広げる「あいさつ」指導で意識の共有

蒲郡東部小学校の涵養の教育として挙げられるものは「あいさつ」指導である。挨拶指導に特化して3年目を迎える。まだまだのところも多くあるが全職員・全児童で同じ目標に向かって取り組んでいる。そして、がんばった児童には、「あいさつ名人」の缶バッチをプレゼントしている。1年目は児童会から、2年目は児童会・教師から、3年目の今年度は、学校関係のみならず、地域の方の協力を得て缶バッチをプレゼントしている。学校・家庭・地域で児童を育てることに心がけている。



「あいさつ名人」缶バッチ

#### (2) 地域とともに歩み続ける学校体制づくり

本校では、学校リーフレット（学校便覧）を毎年作成している。「校訓」「教育目標」「経営方針」「本年度の重点目標」「学校組織」「学校行事」「育てたい子」などを掲載し、教職員・保護者・地域の方に配付をしている。特に、「育てたい子」は、挨拶関係の事柄を掲載しているが、毎年内容を少しずつ変えている。令和2年度は「おはようございます」と笑顔で挨拶のできる子として、学校・家庭・地域の方の

協力で、挨拶の意識を高めている。

このようなスタイルで、本年度の校長の思いをリーフレットにまとめ、全職員に共通理解を図るとともに、全児童・保護者・地域の方々にも同一のリーフレットを活用し、意思統一を図りながら、学校経営をしている。教職員・児童・保護者も地域から学ぶ機会を取り入れていき、地域とともに歩み続ける学校の体制づくりをしていきたい。

### 3 本校の教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり【基準2】

地域の題材を授業で取り上げ、学校全体で地域教材を探り、学校・家庭・地域が協力して、地元を愛する子の育成に努めている。

具体的な例として、総合的な学習の時間において、「郷土で輝く人々」を調べ、学芸会でその内容を劇として発表し、地域の方々にも知ってもらう活動をしている。つまり、地域から学んだことを地域へ発信している。その人物を二人、紹介する。金沢嘉市氏（資料①）と大場栄氏（資料②）、二人とも「人とのつながり」「戦争の悲惨さ」「人としての生き方」を学ぶことのできる本校出身の先輩である。

**金沢嘉市氏 本校卒業生** 「一まいの卒業証書」昭和52年書籍発行の教育者

この本は、終戦後の東京で、両親を亡くし、働きながら小学校に通う山本少年と金沢先生とその同級生の生きざまを描いた実話である。うまくいっていた学校生活だったが、ある夜、山本少年が行方不明になってしまう。金沢先生をはじめ、同級生は懸命に探すか、消息は分からないままとなり、「みな一緒に卒業したい」という望みは叶えられずに今も一まいの卒業証書が残って、山本少年を待ち続けている内容。

資料①

**大場 栄氏 本校卒業生** 映画 太平洋の奇跡 ～フォックスと呼ばれた男～  
劇場公開2011年作品のモデル

この映画は、太平洋戦争末期のサイパン島で、たった47人の兵を率いて4万5000人もアメリカ軍に立ち向かい、アメリカ兵から“フォックス”と呼ばれて恐れられた陸軍大尉の大場栄氏をモデルとした竹野内豊主演の作品である。原作は、ドン・ジョーンズの「タッポーチョ『敵ながら天晴』大場隊の勇戦 512日」。

資料②

## 4 本校の家庭・地域社会との協働・連携【基準5】

まず、地域との交流では、「東部地区体育祭」が挙げられる。これは、学校で実施する運動会とは別に、公民館が中心となり、老いも若きも地域の方々が本校に集まり、笑顔いっぱいになる地域の運動会である。

学校が中心となって行う行事には、「おしえて！むかしあそびめいじん」がある。地域のお年寄りの方から昔の遊びの「竹とんぼ」「紙鉄砲」「竹馬」「木製ゴマ」「地球ゴマ」「お手玉」「あやとり」などを教えていただく1年生の生活科の授業として実施している。遊び道具を通して、自然に友人関係をつくっていく体験活動となっている。

更に、世代を超えた地域との連携行事として定着してきた。今後も地域のお年寄りから学ぶ風土醸成を行っていききたい。



## 5 おわりに

地域教材を活用して、各学年とも何らかの形で、地域に学び、地域に発信・貢献する活動となっている。また、金沢嘉市氏の「一まいの卒業証書」を学芸会で発表しなかった年は、卒業直前の6年生を対象に図書ボランティアによる読み聞かせ（紙芝居）を実施している。



<「一まいの卒業証書」の読み聞かせ 令和2年2月>

しかし、地域と教職員、地域と児童は、年々希薄になっていると感じる。コミュニティ・スクールの早期確立を目指し、家庭や地域のニーズを理解し、地域とともに歩み続ける学校づくりに努力していきたい。



令和2年度

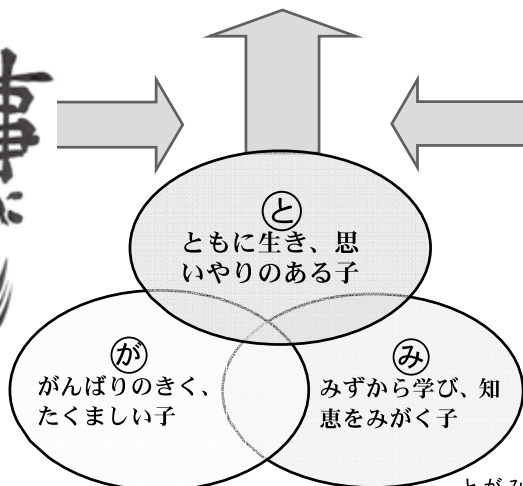
# 蒲郡東部小学校

リーフレットより

## 1 本校の教育目標

あたたかく（徳）、たくましく（体）、かしこく（知）。  
未来を心豊かに生きる「とがみっ子」の育成。

校訓



令和2年度 育てたい子



「おはようございます」と  
笑顔であいさつのできる子

とがみ→学校から見える砥神山より

## 2 経営方針

校訓「事に魂をこめよ」の姿勢を基本に、目の前にある課題に対し、心をこめ、ていねいに取り組む。

- (1) 全職員の共通理解と相互信頼を基盤に、教育目標の具現化に努める。
- (2) 児童理解を深め、一人一人の良さから個性を伸ばし、自己有用感、自己肯定感をもてる教育活動を展開する。
- (3) 児童が生きる授業の創造を合言葉に、喜びや充実感のある学校づくりに努める。
- (4) 学校・保護者・地域が手を携えて教育できる学校づくりに努める。

## 3 本年度の重点努力目標

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」となる授業を工夫し、確かな学力を育成する。
- (2) 子どもたちの「できた喜び」「わかる喜び」を大切に、基礎的・基本的な知識・技能の着実な習得を図るとともに「豊かな心をもつ子」を育成する。
- (3) 他人を思いやる心、自他の生命の大切さを身に付けることのできる道徳指導を充実する。
- (4) 子どもたちが「生きる夢」や「目標」をもつことのできるキャリア教育を推進する。
- (5) 読書の楽しさを実感できる読書指導を朝の読書タイムなどを通して推進する。
- (6) コンピュータ等のICT機器の有効活用をするとともに、プログラミング教育・情報モラル教育に関わる指導を進める。
- (7) 学校づくり、学級づくり、授業づくりや保護者との連携協力を通して積極的・事前的な支援の充実を図る特別支援教育を展開する。
- (8) 「おはよう」「ありがとう」など、基本的な生活習慣や集団生活のあり方を、児童を前面に出した活動を通して身に付けさせる。
- (9) 「とがみっ子集会」を中心とした児童会活動を全職員で支援し、子どもたちの心の豊かさやたくましさを育てる。
- (10) 命を大切にする指導および自ら考え行動できる安全指導の充実を図るとともに、安全で安心な学校づくりに努める。
- (11) 家庭や地域に積極的に情報を公開するなどして働きかけ、連携を深めて地域の教育力の活用を図り、開かれた学校づくりを進める。
- (12) 働き方改革・学校業務見直し推進プランをもとに、教職員の多忙化解消に努める。



金沢嘉市先生 顕彰記念碑  
「だれにもピカリと光る何かがある」

# Ⅲ-11 各郡市小学校の学校経営の実際 新城市立鳳来寺小学校

## 1 はじめに

本校は、新城市の鳳来地区北西部に位置し、5年前に4校が統合してできた新しい学校である。4校が統合したとは言え、全て複式学級の学校だったため、現在でも単式の小規模校である。

統合時の再編検討委員会の願いは、「地域の力で充実した学校づくり」を目指し、旧小学校区のよさを受け継いでほしいというものであった。そのため、地域の豊かな自然、歴史・文化、人を学びの中心に据え、地域とのつながりを深めた「地域とともにある学校」を目指している。

## 2 本校の共有ビジョンの形成とその具現化【基準1】

新しい小学校が誕生し、旧学区同士をつなぎ一つのまとまりとするための中心的役割を本校は担っている。また、旧小学校区の伝統・文化を地域とともに守っていくことが求められた。その中心的役割を果たしていくのは、児童である。児童の活動が地域をつなぎ、地域ごとのよさを再構築していくと考えた。

そこで、地域の再編検討委員会から発展的に移行した「鳳来寺小学校区地域連携協議会」を生かし、地域・保護者・児童等の実態や願いをつかむようにしている。また、地域協議会等の連携を深め、地域とともに教育を進めている。

本校の経営方針を「みんながつなぐ学校づくり」とし、その実現のために次の五つの柱を設定した。

- ① ふるさと学習での社会参画推進
- ② 地域を知り、みんなとつながる活動
- ③ 主体的に生活し、子どもが創造する活動
- ④ 主体的で協働的な授業力の向上へ
- ⑤ 共育ふれあい活動の充実

これら五つの柱を実現させるため、教職員評価制度の自己申告・評価シートを活用し、学校力向上を図ろうと考えた。校長が4月当初に示した重点努力目標を基に、各教職員が目標を設定していく。まず、教頭、教務等の主任が設定した各目標

**学校力向上のためのチャレンジ  
～みんなをつなぐ学校へ～**

**主体的に生活し、子どもが創造する学校 ～主体性による個の発揮～**

<子どもの自発的活動のために>

- 委員会活動→活字機会の確保 挨拶(朝 給食 帰り)
- 生活・図書委員会「生活リズムを整えよう!」 体育・環境委員会「元気もりもり!」
- 保健・給食委員会「背筋ヒーロー!」
- なかよし第一→活動の活性化 時間と機会の確保 達成感と視感
- 各学年の成長 読学年→集団活動の中心 中学年→動きを学ぶ 低学年→集団意識

<自律的な生活を創るために>

- 体力づくり→バス通学者の徒歩区間設定 遊具環境の工夫 豊富な運動経験 朝の活動改善
- 自分の体形や姿勢に気を付け 高度肥満0(ゼロ) 肥満率12%以下へ 正しい姿勢へ
- 感染症対策→適切な感染対策で予防対策 消毒 欠席→発生状況の共有 抱病の工夫 保健だまりの発行
- 家庭・地域連携→学校保健委員会(協議会形式の実施) 保護者との情報交換 バス運転手との連携
- 家庭学習→eライブラリの効果的な利用

**主体的で協働的な授業力の向上へ ～主体的に学びを創る子へ～**

- 理解力の向上(基礎力)の授業を創る→3つのステップ→読み取る力 比較・検討する力 判断する力
- 学習時間の活用→言葉(論理力・表現力)の学習
- 道徳教育の推進→別表の作成と実施
- 外国語活動の充実→講師等の人材確保 教材の充実 時間の確保
- 全教職員で子どもを見守る
- スタートカリキュラムの全校体制 全校で一人一人を見守る 発達段階、こども園と中学校の連携
- 授業の交換、合同授業、なかよし課
- 読書教育→学習21の個人目標数値の設定 図書の充実 本が大好き2weeks
- 情報教育→コラボノートの活用

**子どもを育てる安全・安心環境づくり**

- 予算管理→効率的、効果的な運用 徴収金管理(現金×)
- 空調設備管理→使用方法の提案とマニュアル作成 扇風機、ストーブ等の併用
- 登下校の安全確保→スクールバスでの下校体制確立 児童の動向把握の徹底
- ふれあいの森整備→10年後の森へ 地産連携(森林技能習得 鳳来山山自然科学博物館 キョコリーの「む〜ちゃん」の森

**地域とつながる共育推進**

- 共育ふれあい活動→地域講師の人材確保・充実 地域の活性化
- 放課後の居場所づくり→ふっぴー荘との連携 他団体との連携

**元気な職員であるために ※働き方の意識改革(多忙化解消)**

- 在校時間(時間外)→1月時点で月間時間外勤務平均3時間以内 19時退校の呼びかけ・共有・徹底
- 定時退校日の設定

を公開し、説明する場を設定した。それを踏まえて各担任等が目標を設定し、管理職との面談を通して、具体的な目標を設定するようにした。さらに、各目標を今年度の達成目標一覧としてまとめ、掲示することで、目標の共有と組織の力で学校力を向上させていくことを考え、実行している。

### 3 本校の教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり【基準2】

本校の教職員の共通の土台として、4月当初に「行動目標」を職員全体で話し合い、策定している。そして、学校運営協議会やPTA総会などで内容を示し、学校に関係している人々の理解を得て、実行に移している。そうすることで、若手も安心して行動でき、主任やメンターの指導の基準となっている。

この行動目標により、児童は、どの教師も同じように接してもらえらるため安心感が生まれる。その上で、中・高学年は、担任同士が授業交換等を行い、各教師が自信をもっている専門教科の担当時間を多くとるようにしている。さらに、担任をもっていない教務主任等が多学年の授業を分担することで、高学年は半分以上、中学年は3分の1以上を担任ではない教師が授業を受けもつようにしている。また、教職員が全校児童に関わりをもてるように、校務分掌等を工夫し、全校一人一人を全職員で見守る体制を築いた。それによって把握した児童の様子については、校務支援システムの児童欄に気付いたことを書き込むことで情報共有を行っている。

令和2年度 鳳来寺小学校 行動目標

**信頼・安心・笑顔で  
みんなをつなぐ学校！**

- 子どもをつなぐために ～安心と笑顔でつなぐ～
  - ・どの子ども笑顔で過ごせる学校として、自分の現場所がある。
  - ・教師から「おはようございます!さようなら」等の**笑顔のあいさつ**をみせる。
  - ・チャイムで授業を始め、チャイムで終え、放課の遊びを確保する。
  - ・全校児童の担任のつもりで、児童に接する。
  - ・いつも笑顔で子どもと接し、子どものよいところ目を向ける。
  - ・子どもを一人の人間として、**ていねいな言葉**で接し、子どもに対して「ありがとう」と言える。
  - ・多様な集団で過ごせるように、工夫し**充実させる**。
  - ・がんばっていることを見過きずに認め、抱擁していることには寄り添う。
  - ・子どもの元気な大きな声が校内に響くようにする。
  - ・子どもの話を最後まで聴く。
  - ・子どもを理解しようとする姿勢を大切にす。…顔に着目 記録に残す
- 家庭（保護者）をつなぐために ～信頼でつなぐ～
  - ・まず、会ったら必ず、さわやかな「あいさつ十一音」を心がける。
  - ・保護者と子どもを見守り、子どもの成長を共に喜び合える。
  - ・どんなことでも相談できるように、**声のかけやすい雰囲気**をつくる。
  - ・家庭との情報交換を密にする。…欠席、行か、けんか等については**必ず連絡**
  - ・悪いことだけでなく、よいことも積極的に連絡する。
  - ・保護者にとっては「我が子一人」を理解し、保護者と向き合い、寄り添う。
  - ・要望等は課題に連んで受け止め、すみやかに対応し、その経過や結果を共有する。
- 地域をつなぐために ～地域と学校の往復の関係をつくる～
  - ・原則1日1回ホームページを更新し、学校のことを地域へ発信する。
  - ・地域から学校のために協力して下さることに感謝して接する。
  - ・地域学習等の機会では、知らない方でもまずあいさつ一語話しかける。
  - ・地域に出かけてお世話になった方が、次は**学校へ足を運んでくれる**ようにする。
  - ・地域講師等でお世話になった方には、**次の見直しや約束**をしておく。
- 教師（同僚・仲間）をつなぐために ～連絡と相談の気配り・心配りでつなぐ～
  - ・同僚同士の笑顔であいさつやていねいな**言葉**を心がける。
  - ・座すを歩くときは、進んだクラスの様子を見る。…**自由に授業を参観、チームで見守る**
  - ・困ったときも頼りなときも、職員室で話せる職場にする。…**情報交換と技術の伝取**
  - ・お互い、未熟な点や不得意な点はカバーし合う。できることは、**主体的に前向き**でやる。
  - ・重点努力目標を頭に入れ、実現のための**学校力向上**に努める。
  - ・自分の仕事ではなくても、気づいたことは口を出してみる。
  - ・限られた時間の中で、優先順位を決め、**やらない仕事**をつくる。
  - ・教職員の本質は、**専門性（授業力等）**にあることを心に刻み、同僚と共に向上に努める。
  - ・常に安全・安心に配慮し、最悪を想定している…○**空振り** ×**見直し**

### 4 本校の諸資源の効果的な活用と危機管理【基準4】

広い学区のため、児童の約7割がスクールバスで登校している。残りの徒歩通学者は、「鳳来寺交通安全推進協会」との連携により、スクールガードが寄り添っての登下校を行っている。また、スクールバスによる「特別登下校」の運行表を作成し、警報の発令時や災害時には、全校児童がスクールバスで安全に登下校できるようにしている。

本校の「ふるさと学習」を推進するためには、地域の人材を確保する必要があった。

そのため、各学年で分担し旧小学校区からの学習を受け継ぎ、続けることで、必要な地域の人材を確保できている。また、必要に応じて、学校独自にボランティアを発掘し、英語活動、書写、音楽、ICT支援、クラブ活動等で活用している。

## 5 本校の家庭・地域社会との協働・連携【基準5】

「鳳来北西部地域協議会」と連携し、低・中学年への外国語教育を充実させている。最初は応募した助成金より予算を確保し、学校が独自に低学年の外国語活動を行った。そこから、地域自治協議会と連携を深め、予算を確保し、小学校の低・中学年に英語講師が派遣されることになった。そして、こども園にも英語講師が派遣されるようになり、地域独自の外国語教育が進められている。

また、開校当初に設立された、地域・家庭が協働して運営する放課後教室「ぶっぼ〜荘」の活動と連携し、放課後教室の充実に努めている。プログラミング、ダンス、バドミントン、お茶、お花、書道等の14教室が、地域の人材によって開かれている。希望する児童は、地域の補助もあり無料で学ぶことができる。市の中心部に30分程移動時間をかけなければできない習い事が、放課後に自分の特性に合わせて選択して活動できるよい機会となっている。

さらに、地域の文化・伝統、自然、歴史を子どもたちが受け継ぐように、老人クラブとの「干し柿づくり」、鞍掛山麓千枚田保存会との「米づくり」、鳳来寺小学校の伝統芸能伝承を見守る会との「鳳来寺田楽」、寒狭川漁協との「アユを楽しむ会」等を地域の団体と協働して行っている。

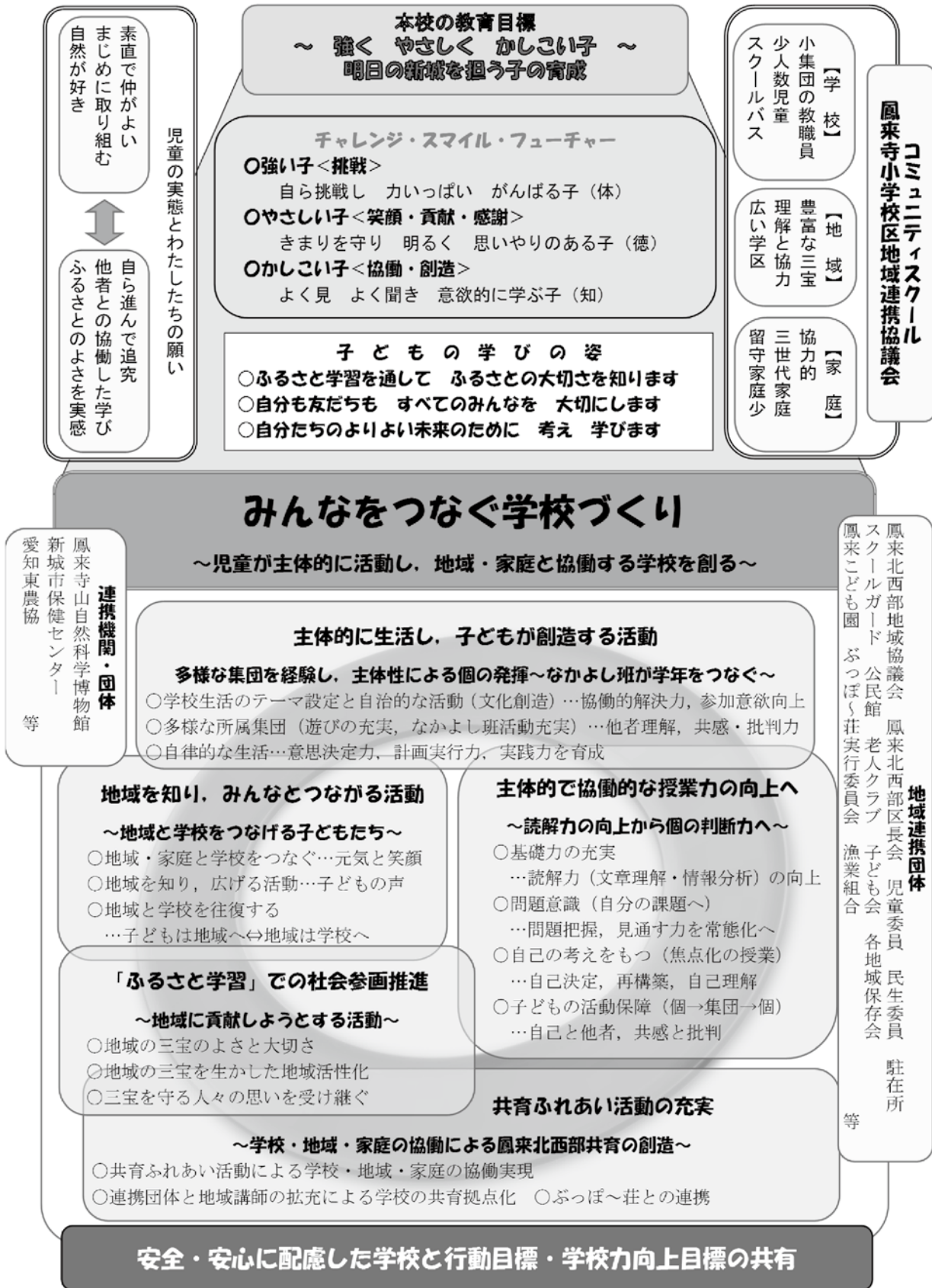


<漁協によるアユつかみ体験>

## 6 おわりに

学校の経営方針や活動の様子を、地域連携通信「山百合」によって、定期的に地域全戸へ発信している。また、地域や家庭へ教職員の行動目標を示すことにより、双方が信頼の関係を築くことができている。そして、これらを基にした学校評価により、次年度への意見を地域、家庭からも集約することができ、年度末に来年度の方針や具体的な取組を示すことにつながっている。地域、家庭、学校との連携が深まることで、学校の経営方針と地域の願いが一体化し、地域とともに歩みを進める学校となり、学校独自の取組に特化した特色ある学校づくりにつながっている。

# 令和2年度鳳来寺小学校経営ランドデザイン



## Ⅲ-12 各都市小学校の学校経営の実際 田原市立衣笠小学校

### 1 はじめに

本校は通常学級12、特別支援学級2の計14学級、児童数約330人規模の学校である。昔からの集落がある一方で市営・県営住宅、アパートもあり、家庭状況は単親家庭や要・準要保護家庭も15%ほどと多様である。学校に協力的な地域の方々も多い一方で対応の難しい家庭や児童もあり、学校のチームとしての力が常に問われる状況にある。校長は、学校内外がつながって教育活動に当たる学校経営を戦略として考えた。そして、その戦略実行の際には、絶えず「R(情報収集・課題把握)→P(計画立案)→D(実践)→C(評価・確認)→A(改善・更新)→R…」サイクルを念頭に、学校内外で情報収集としてのチャンス相談(雑談・対話)を行ってきた。

### 2 本校の共有ビジョンの形成とその具現化【基準1】

#### (1) 情報収集と学校ビジョンの設定

校長が最も大事にしたのは情報収集と分析である。ミドルリーダーや三役の目で情報収集、分析させ、学校としての戦術をつくった。そして、四役会や学年主任者会、職員室チャンス相談等でその確認をし、「メリット」「デメリット」を分析した。

#### 【収集の材料・場面】

<学校OB> ①衣和会(歴代校長・PTA役員) ②古参職員…学校文化経緯理解  
<児童> ①児童理解委員会 ②学校評価アンケート ③週案簿反省 ④学級経営案反省 ⑤教員とのチャンス相談(雑談・対話) ⑥学校巡回  
<教師> ①履歴書・実績書 ②教職員評価制度の自己申告・評価シートとシート面談 ③チャンス相談(雑談・対話) ④学校評価アンケート ⑤学校巡回  
<地域・保護者> ①市民館でのチャンス相談(雑談・対話) ②校区コミュニティ協議会 ③総代会 ④学校評価アンケート ⑤学校評議員会 ⑥PTA役員会・全体委員会 ⑦PTA総会

#### 【児童の実態】

・素直で明るく活動的な子が多い。・進んで行動できる子が増えてきた。・関わりが苦手な子に欠ける子がいる。・基本的な生活習慣の定着のない子がいる。

#### 【学校としての課題】

・新設からの歴史、文化・研究(市教委指定、市PTA連絡協議会)  
・五つの約束、「はきものをそろえる」・気になる子への対応、さまざまな家庭環境

上記の児童の実態や学校としての課題を考慮し、本校の「学校ビジョン」として教育目標「子どもでつなげる楽しい衣笠(がっこう)」を設定した。

#### (2) 学校ビジョンを共有ビジョンへ(学校ビジョンの具現化を図る)

校長は学校ビジョンを共有ビジョンとするため、まず教職員や児童に学校ビジョンの基本理念である合言葉「つながり」を会議、朝会等で伝え続けた。現職研修の折にも合言葉の説明をし、具体的な教育活動を個々に考えさせ対話させた。また、「学校だより」や「ブログ」、「地区回覧版」にも学校ビジョンを掲載した。PTA

全体委員会や総会、学校評議員会、校区コミュニティ協議会、運動会、学芸会、総合的な学習等の教育活動を保護者や地域と連携しながら進めることで「つながり」の大切さを実感してもらい、共有ビジョンとしての学校ビジョンの浸透を図った。

### 3 本校の教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり【基準3】

校長は全教職員の職能成長が共有ビジョンの具現化に不可欠であることを自覚し、次のようにして教職員個々や集団に対して力量向上を図った。

#### 【教職員としての力量向上策】

- ① 同学年や学年部での活動や計画策定・検討を共同で実施（OJTの活性化）  
学年を組むとき、年齢や経験、性別等を考慮しプラスの化学反応を期待できる配当を考えた。学年や学年部で行う活動（行事、校外学習等）を計画的に配置、相談や活動が協働で行われるようにした。
- ② 全体授業研究や部会研究、KTS（ミドルが若手を指導する研修会）の活性化  
研究発表・研修会意図的参加や研究実践論文執筆の工夫  
全体研では外部講師招聘を図り、第3の視点（批判的視点）で意見をいただく。指導案・論文検討会を部会で実施、作成上の悩み等を相談できるようにした。研修参加後の報告会や復命を活性化し、校内で共有・そして報告することで参加した教職員の力量向上を図った。若手に「〇〇先生に教えてもらう会」を企画実施させ、ミドルリーダーの力量向上とともに若手の育成も図った。
- ③ 教職員評価制度の自己申告・評価シート作成と面談の重視  
校長はビジョン提示から職員がそれを踏まえ学校運営計画・学校経営案や学年・学級経営案作成をしていく流れを丁寧に説明した。そして教職員はビジョンとつながった教職員評価制度の自己申告・評価シート作成を実施し、シート面談を個々に実施した。面談は教頭と行い、教頭の意識を高めさせながら職員の自覚も深まるようにした。

#### 【面談内容】

- ① 自己申告・評価シートの目標を立てた経緯と手だて、評価観点とのつながりについての説明を受ける。  
→自分の言葉にすることで自覚を深めていく。
- ② 内容についての引っかかりを質問し、更に考えを深めていく。
- ③ 標達成のための研修希望を聴く。→力量向上の具体的な見通しをもつ。
- ④ 学級・学年の様子、課題を確認する。→なぜ、その担任に指名したのか、意図を伝えることで意欲を高める。

面談することで、教職員個々の目標と学校ビジョンのつながりを明確にした。さらに、一年間の教職員の研修計画を、自己申告・評価シート目標→授業研究⇔自己研修→研究・研修まとめ→自己評価作成という流れにした。また、学校ビジョンの達成過程と並行するイメージで現状と見通しを自覚できるようにするとともに、報告（こちらから確認）・連絡・相談の大切さを随時伝え、外部との渉外や教職員同士、四役へのコミュニケーションを取ることで全員が一枚岩となれるよう共通認識させた。

### 4 本校の諸資源の効果的な活用と危機管理【基準4】

校長は学校の諸資源を把握するため、学校内外で積極的に聴き取りを行った。

#### 【学校資源】

- <人>・シニア(老人会、自然保護団体・風保存会)・ボランティア(読み聞かせ・図書館・クラブ)・見守り隊・コミュニティ協議会・地域の古老・市役所博物館  
<場>・ペア・グループ・学級・学年・委員会・クラブ・部活動・縦割り班・衣わタイム(ESG)

学校とこれらの諸資源をつなぐために研究委嘱を利用した。田原市教育委員会の学校を核とした地域魅力化事業「『創』プロジェクト」も積極的に活用し、広く人材や資金の支援が受けられるようにした。また、教職員が校外の人とつながり、児童の他と関わる力をつけるノウハウを学ぶため、外部専門家（妹尾昌俊先生、曾山和彦先生）を招聘し研修を実施した。コミュニティには、各種ボランティアへの支援を依頼し、教育活動や登下校の見守り等にご助力をいただけるようにした。

## 5 本校の家庭・地域社会との協働・連携【基準5】

校長は家庭・地域社会との協働・連携の必要性を理解し、ふるさと教育を進める中で地域とのかかわりの場に学校をつなげたいと考え、次のような活動を行った。

### 【連携活動】

<校区コミュニティ>・1～4年児童と老人会の合同草取り・校区学校合同観劇会・学芸会敬老招待・1年生昔の遊びを学ぶ会(給食会・肩たたき会)・6年生江崎巡査物語紙芝居披露(保護者・老人会)・見守り隊(発足式・顔合わせ・登校・低学年下校)・クラブボランティア・図書館ボランティア(読み聞かせ・図書館)・3年生シニア活動(自然保護団体・たこ保存会)・6年生戦争中の田原の話聞く会(地域の古老)・焼き芋集会(老人会合同)・地区防災訓練参加(5年生防災学習)・感謝の会(2月感謝の手紙渡し)

<PTA>・5・6年生親子環境整備・運動会参加(チーム参加)・挨拶運動・校内マラソン大会おしるこふるまい・学校保健委員会参加・プール開放監視当番

<市教委>・地域学校「創」プロジェクト・SSW(他機関との連携)

学校は、支援をより効果的にするため、活動前には必ず共有ビジョンの内容を伝えた。また、2月にはお世話になった方々への手紙を児童が作成した。児童にとってはよい振り返りになるとともに、ボランティアとして関わっていただいた方々にも思い出深いものとなっていた。手紙を受け取ったボランティアの方々の中には「またボランティアを続けたい」と言って、自分のお子さんが卒業しても続けてくださる方もいた。家庭内の問題等、教職員が関わりにくい問題にはSSWに家庭・他機関とのパイプをつなげてもらっている。市役所・子育て支援課や地域福祉課、健康課、医療機関（メンタルクリニック等）とも家庭が円滑につながるようになっている。さらに、必要に応じてケース会議も開いている。

## 6 おわりに

本校は現在、地域の方々により積極的に学校運営に関わってもらえるようコミュニティ・スクールを導入する方向で動いている。その中で、学校の共有ビジョンを地域まで広げていくのは不可欠であると考え。そこでは、学校・家庭・地域が互いに「ウィン・ウィン」の関係性でいられるような持続可能な取組をしていかなければならない。今後も、共有ビジョンでつながる連携を築いていきたい。



# 令和2年度 田原市立衣笠小学校

**めざすあいちの人間像** 共に生きる 自分を生かす 学び続ける あいちを創る 世界にはばたく  
 指導の方針1 命を尊び、心や体を鍛え、たくましく生きる力を養う  
 2 真理を求める態度と、自ら学び、深く考え、広い視野をもって主体的に行動する力を養う  
 3 礼節を重んじ、自らを律し、他とともに心豊かな生活を築く態度を養う



## 田原市学校教育振興計画 (平成29-32年度)

### ふるさと田原の学校で きらり 子ども 輝く

- ① ふるさとを愛し、生き生きと学ぶ田原の子
- ② 思いやりの心を持ち、共に支え合う田原の子
- ③ 健やかで、たくましく生きる田原の子
- ④ 夢を持ち、社会の役に立とうとする田原の子

…子どもたちは宝石の原石です。

家庭 地域 学校など大人の営みにかかっています。…

## 教育長キタツフレズ「さと学び きらり輝く 田原の子」

『たのしく』…楽しい学校 クラス 友達 仲間・絆の

発見感動 高まる興味 探究 将来

『やさしく』…わかりやすく もっと やさしく励まし

合う仲間 いじめ虐待不登校減へ

『たくましく』…反復基礎練習を粘り強く 目標の継

続修正へ 生きて働く力 社会貢献

### <重点努力目標>

- 研究(教育課題・AL)の成果を活かす
- R(リネチ)PDCA サイクルを意識し「声」「力」「汗」「知恵」を出し合い教育活動の質を高める ・新学習指導要領への対応  
 ・働き方改革 ・気になる子 ・生徒指導 ・行事
- 成果の確認と次年度へのつながりを組織化する

### <子どもの実態→改善策>

- ・言われたことを素直にやり明るく活動的な子が多い
- ・自分から進んで行動できる子が増えてきた  
 →子ども同士で学び合うための支援と手立ての工夫
- ・人との関わりが苦手な子が多い  
 →衣わタイムの継続と保護者への広報
- ・基本的な生活習慣が十分身につけていない子が多い  
 →当たり前チェックの見直しと共通意識

### <教育目標>

『子どもでつなげる楽しい衣笠(がっこう)』  
 目標のイメージをもち  
 一人一人が自分の力をだし  
 みんなで成長を確認し喜ぶ  
 \*地域・保護者も手ごたえ  
 \*校歌3番

### 教育目標(子ども像)

かいつばい  
 がんばる子  
 自ら学ぶ子  
 思いやる子  
 たくましい子

### <方針>子ども・教職員のめざす姿

- ・感じる心を持ち、疑問を大切に
- ・ふるさとを知り、関わろうとする
- ・なかまと共に過ごす喜びを感じる
- ・自分を表現し、相手を思いやる
- ・目標の「スモールステップ」を意識し努力を続ける
- ・健康を意識して心身を鍛える

健やかな体・行動力・体力	・あたり前ができる ・表現力	・関心意欲態度 ・問題解決力 ・基礎的基本的な知識理解
・主体的に取り組む力 ・自信	・人間性 ・行動力 ・豊かな心	・生活に活かす力 ・表現力 ・判断力 ・思考力

- <実態>前年度の取組や姿 前の単元 昨年の同じ学年・他の学校と比較
- <人>シニア ボランティア クラブ 見守り隊 地域の人 児童(下学年同級生)
- <場>ペア グループ 学級 学年 委員会 クラブ 部活動 縦割り班
- <時>大人 卒業時 1年後 学期末 1か月後 単元終了後 来週 明日 1時間
- <ねらい>大人の姿 卒業時の姿 1年後の姿 スモールステップ 途中の振り返り

### 明確な目標を意識して

実態が○○なので、人とのかかわりを通して、場を意識してこの単元が終わったとき○○できるようにしたい

**評価** 「(今年は)(今日の行事は)(喜んでもらって)(次の目標がわかって)(わかってもらえて)(できることが増えて)(楽しかった 伝わってうれしかった)」と児童、教職員、保護者、地域の方などから聴くことができる

## IV-1 各郡市中学校の学校経営の実際 刈谷市立依佐美中学校

### 1 はじめに

本校は、生徒数714名、教職員数47名の中規模の学校である。刈谷市の南に位置し、田園風景の広がるのどかな場所にある。最近では、工場の誘致も行われ、開発が進んできた。しかし、昔ながらの古い地域ということもあり、おらが学校と地域からも温かく支えられている。

### 2 本校の共有ビジョンの形成とその具現化【基準1】

#### (1) 情報の収集と現状の把握

昨年度の全国学力学習状況調査やQU検査の結果、さらには、学校評価の結果と学校評議員からの助言を参考にして本校生徒の実態を把握した。生徒は、授業や行事で力を発揮する場が設けられていると感じてはいるが、更に多くの生徒に活躍の場を与え自己肯定感を高めたいと感じた。また授業での話し合い活動では充実感を感じてはいるものの、話し合いが深まるにつれて自信をもって発表できる生徒が減少し、一部の生徒に頼ってしまいがちなところが見えてきた。そこで、仲間の考えをよく聴き、粘り強く考え、自分の意見を自分の言葉で表現できる生徒になってほしいと考えた。

#### (2) 校長としての学校のビジョンの形成

本校では、「自分・他者を大切に育てる」「生徒同士の関係づくりをする」という二点を大切に継続して取り組んでいる。今年度も上記の生徒の現状から他者との関わりの中で、自尊感情を高めたり、確かな学力を定着させたりできるように授業や行事を工夫していくこととした。そのために、教員一人一人の力量を高めていけるような研修の場と実践の場を計画した。

### 3 本校の教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり【基準2】

#### (1) 自尊感情を高めるためのよさっぴタイム

よさっぴタイムとは、SSTとSGEのねらいを統合した短時間のグループワークのことである。毎週月曜日の5校時の前に10分間を時間割に位置付け、担当から出される指導案に基づいて、全教員が共通理解した上で実践している。よさっぴタ

イムは、相手の目を見て、うなずきながら聴き、全てを受け入れるというルールがあるだけで、誰でも同じように簡単に行うことができるものである。年度当初に、よさっぴタイムの意義や指導方法などの確認をすることで、全教員が一枚岩となり、この時間を大切にしていけるように意思疎通を図っている。現在では、依佐美中学校区の3小学校でもSSTが取り入れられ、小・中の連携もとられている。

## (2) 対話活動の充実を図った授業づくり

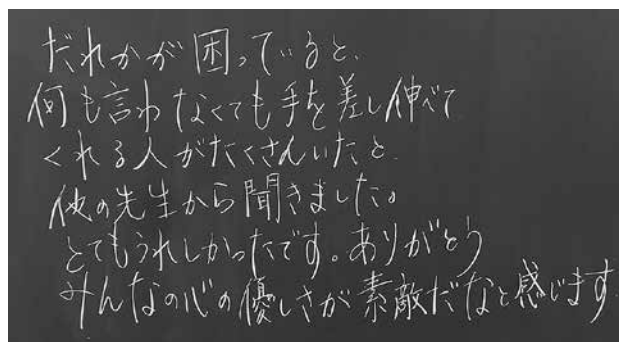
よさっぴタイムで、安心して他者と関わりをもつことができた生徒が、授業でも積極的に対話活動に取り組めるように工夫している。よさっぴトークと称して、授業の中に自由な意見交流の場を取り入れるようにしてきた。更に生きた授業づくりを



するためには、生徒自らが充実感や達成感を味わえるような環境を整えなければならない。そのために、生徒会を中心として依中5本柱という授業に臨む約束事をつくり上げてきた。どんな授業をつくりたいのかを学級ごとで話し合い、それを級長会でまとめ、最終的に生徒議会でつき合わせて話し合った。生徒が主体的に考えてまとめたものは、全校に受け入れられやすくなった。現在は、更に簡潔に分かりやすいものになるように改良を加えている。

## (3) 朝の黒板I (アイ) メッセージ

生徒の自己肯定感、自己有用感を育む言葉かけを全教員で行うようにしている。その一つの方法として、担任は毎朝、教室の黒板にメッセージを記入している。特にIメッセージとして、「私は嬉しい」「私は助かる」という言葉かけをすることで教員と生徒の関係性がよくなるだけでなく、生徒のことをよく観て理解していなければならず、教員



<担任からの黒板Iメッセージ>

の力量も高まってきている。

## 4 本校の教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり【基準3】

### (1) 教員一人一人の力量を高めるための研修計画

よさっぴタイムを全校で充実させるために4月に名城大学の曾山先生のご指導をいただき研修会を開いた。それ以外にも県内外から多くの学校の視察を受け入れ、多くの方からご意見をいただきながら改善点や新たな視点に気付く研修となった。

また、新学習指導要領を正しく理解し、主体的・対話的で深い学びを追究するために、西三河教育事務所指導主事にご講義いただいた。どのような授業をすればよいのか、どのような生徒の姿を求めていくのかなど、具体的に学ぶ機会となった。生徒発信の依中5本柱や新学習指導要領を受けて、教員の側も授業づくりの約束事(新教員8箇条)を作成し、全員で共通理解した。

#### 【新教員8箇条】

- ① 本時のめあて(ねらい)を明確にしよう。 ② 1時間の授業の様子が見えるような板書を心がけよう。
- ③ 生徒同士の関わり方を工夫しよう。 ④ ベルタイマーで時間管理をしっかりしよう。
- ⑤ 毎時間、授業の山場を設定しよう。⇒そのために、山場へ向かうしかけ(順序変え、選択肢肢、置き換え、隠す、加える、限定、分類、図解、配置、仮定など)をつくろう。
- ⑥ 発問・指示・説明を精選しよう。⑦ 受容と称賛を心がけ、生徒の考え、言葉を具体的に価値付けよう。
- ⑧ 生徒の考え、言葉で授業を振り返ろう。

### (2) 相互交流と省察を促す教職員集団

教員が力量を高めるためには、OJTが最も有効であり、まずは実践である。本校では、「互いに授業を見合い、意見交流をする」ことを重要視している。そのため、全教員が学期に一度は授業公開をし、意見交流をしている。本年度は、教科は問わず、自分の授業を観てもらいたいメンターを指定し、発問・板書・机間指導や表情や説明の仕方等まで授業診断基準を設けて、細かくアドバイスをもらう形にした。メンター・メンティ研修と称し、メンターに指定された教員も、緊張感の中で授業を見る目が育ち効果が上がった。

## 5 おわりに

授業力、生徒理解力を高めるために、生きた授業を観る、具体的な事例で学ぶ、体験しながら研修するなどの直接的な研修が効果的であった。特にメンター・メンティ研修は、教科指導だけでなく、生徒の見取り方や話し方・表情など、教員の個性まで話題に出される有意義なものとなった。普段から教員同士が声を掛け合い、授業を見合う雰囲気をつくるのが今後の課題である。

令和2年度 刈谷市立依佐美中学校  
学校経営グランドデザイン

(1) 本校の教育目標

校訓 「自由を尊重する」  
「真理を愛好する」  
「平和を希求する」  
自尊感情を高め、

確かな学力を身につけ、  
心身共に健康な生徒の育成



(2) 経営方針

○ チーム依佐美（教員、生徒、保護者、地域）で

(1) 切磋琢磨しながら 協力して 当たり前前に磨きをかける

依中当たり前

あいさつ・返事・時間を守る・整理整頓・気配り心配り

(2) 温かい人間関係の中で 三つの喜びを追求する

人間の根源的な喜び

感動の喜び・創造の喜び・貢献の喜び

(3) 本年度の重点目標

自尊感情の向上

- 生徒主体の活動の推進
- よさっぴタイムの深化
- 愛の詰まった黒板Iメッセージの励行

確かな学力の定着

- 新・教員8か条の実行
- 依中5本柱を意識した授業実践
- 対話活動の充実

心身の健康

- 給食を通して豊かな心と健康な体を育てる
- 心を磨く依中式無言清掃の充実
- 科学的・効率的な部活動練習方法の確立

多忙化解消に  
かける業務改善

- 報・連・相を軸とした協働体制の確立による多忙化及び多忙感の解消
- 部活動休養2ポイント制の遵守

## IV-2 各郡市中学校の学校経営の実際 みよし市立三好中学校

### 1 はじめに

本校は平成26年度から「魅力ある学校づくり調査研究事業」に取り組み、「地域と築く笑顔あふれる夢の学校」をテーマに小・中交流や異学年交流を通し、自己有用感を高める研究を進めてきた。私が赴任した平成30年度は、市教育委員会から2年間の研究委嘱を受けて新たにスタートする年であった。翌年の研究発表会を控え、今までの取組を生かした研究実践を学校経営の要として、本校の教育目標「自主、創造に富み、個性豊かで、たくましく、誠実な人間の育成」を目指すこととした。

### 2 本校の共有ビジョンの形成と具現化【基準1】

#### (1) 研究実践の積み重ねで成長する学校の現状把握

過去の研究実践では、生徒指導やキャリア教育など、さまざまな取組を進めながらも、常に人との関わりの中で主体的に未来を切り拓こうとする生徒の育成を目指してきた。また、平成26年度から4年間の研究実践の積み重ねで、学校全体で主体的に授業や行事などに取り組む生徒の姿が見られ、生徒や教職員にとって魅力的な学校に成長してきたことが分かった。

#### (2) 生徒と教職員が一緒になって取り組むための基盤づくり

研究実践を進めるに当たり、以下の4点を全教職員で確認した。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>① 生徒のよさを伸ばす</li><li>② 変化の激しい時代を生き抜くために必要な力を伸ばす</li><li>③ 4年間の魅力ある学校づくりの研究で築いた取組を生かす</li><li>④ 生徒と教職員が一緒になってつくり上げる</li></ul> |
|---|

①では、強みを生かすことを第一に考えて生徒と教職員に自信をもたせ、②・③では、4年間の研究の積み重ねを生かしながら、更によりよい取組を目指すことを願った。また、研究活動の意味や価値を生徒が理解し、意識的に取り組んでこそ生きて働く力となると考え④を示した。その上で、目指す生徒像を「人との関わりを大切にし、チャレンジできる生徒」とした。④を具現化するために、6月の全校集会で研究主任が研究構想図を示しながら自分たちが行っている活動の意味や価値付け、目指す姿を説明し、生徒と教職員が一緒になって取組を進めていく基盤ができた。

### 3 本校の教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり【基準2】

#### (1) ミドルリーダーを育成するための組織づくり

研究実践を進めるために「学び合い学習部」「学級活動部」「交流活動部」を組織し、研究主任と各部の部長を全員30代の教職員とした。3人の学年主任を各部に配置するとともに、主幹教諭、教務主任、校務主任をアドバイザー的な立場で配置した。責任ある立場を任せられた各部長は、学年主任や役職者と相談しながら意欲的に研究推進に取り組み、部会での提案や意見集約、意見調整といったファシリテーター的役割を果たしながら視野を広げ、力量向上を図ることができた。研究発表をやりきった研究主任、各部長は大きな達成感を味わい、ミドルリーダーとしての自覚を高めることができたと感じている。

#### (2) 振り返り活動を通して促す学びの往還

目指す生徒像を実現するために、「学び合い学習」「学級活動」「交流活動」という三つのフィールドで、「関わり合い」「チャレンジ」「振り返り」をキーワードにした手だてを講じて、「自分を見つめる力」「学びを深める力」「目標を追求する力」を高める取組を進めた。

三つのフィールドの活動は、日常的に行われている活動だが、そのつながりを生徒が意識する機会は少ない。そこで、定期テスト計画表や係活動、学校行事、実行委員会活動等の各種振り返り用紙を蓄積したキャリアパスポート「じぶん未来パスポート」を作成した。定期的に振り返り活動を行いながら、あるフィールドで高めた力を自覚させ、他のフィールドでの「次のチャレンジ」を促した。その結果、生徒は自分の成長や課題を踏まえて、次はどんな場面でどんなことにチャレンジするかを考えるようになり、フィールド間で学びの往還する姿が見られるようになった。

### 4 本校の家庭・地域社会との協働・連携【基準5】

#### (1) 校区をつなぐ「子どもと大人の学校会議」

平成26年度から「子どもと大人の学校会議」という異年齢交流活動を行っている。参加者は、校区の小学生、中学生、本校を卒業した高校生、保護者、地域の方々である。令和元年度は70名を超す参加者があった。この会議は、子どもや大人の枠にとらわれず、自分たちの生活をよりよくしていくために互いの意見を交流し、「つながり」をつくる場と位置付けている。会議後には、「いつもは話さないような話

し合いができてよかった。来年、中学校に入るのが楽しみになった」(小学生)、「どの活動にも多くの人から意見をもらい、自分たちが気付けなかったことがいろいろあって、すごく考え方が広がった」(中学生)、「こういう機会がないと地域の声が聞けないし、とてもよい活動だと思った」(卒業生)という感想が寄せられた。

今年度、新型コロナウイルス感染防止のため開催を延期したが、「形を変えてでもやり続けるべきこと」として秋に、インターネットを活用したりリモート会議で行うよう計画を進めている。

## (2) 伝統をつなぐ「卒業生に学ぶ会」

3年生の進路学習で、本校を卒業した高校生から直接話を聞く「卒業生に学ぶ会」を毎年、夏休みに行っている。高校の教科書や授業で制作した作品、トレーニング器具などを持参してくれ、中学生にとって具体的に、そして楽しく高校の様子を聞くことができる会である。しかし、今年度は話を聞くのではなくビデオによる説明会とし、撮影のために卒業生に夏休み中の来校を依頼した。来校した卒業生は、21校23学科、66名で、誰もが後輩のために喜んで参加し、楽しんで帰っていった。後輩のために喜んで活動する卒業生の姿に「来年は自分たちが」と考える3年生は多い。



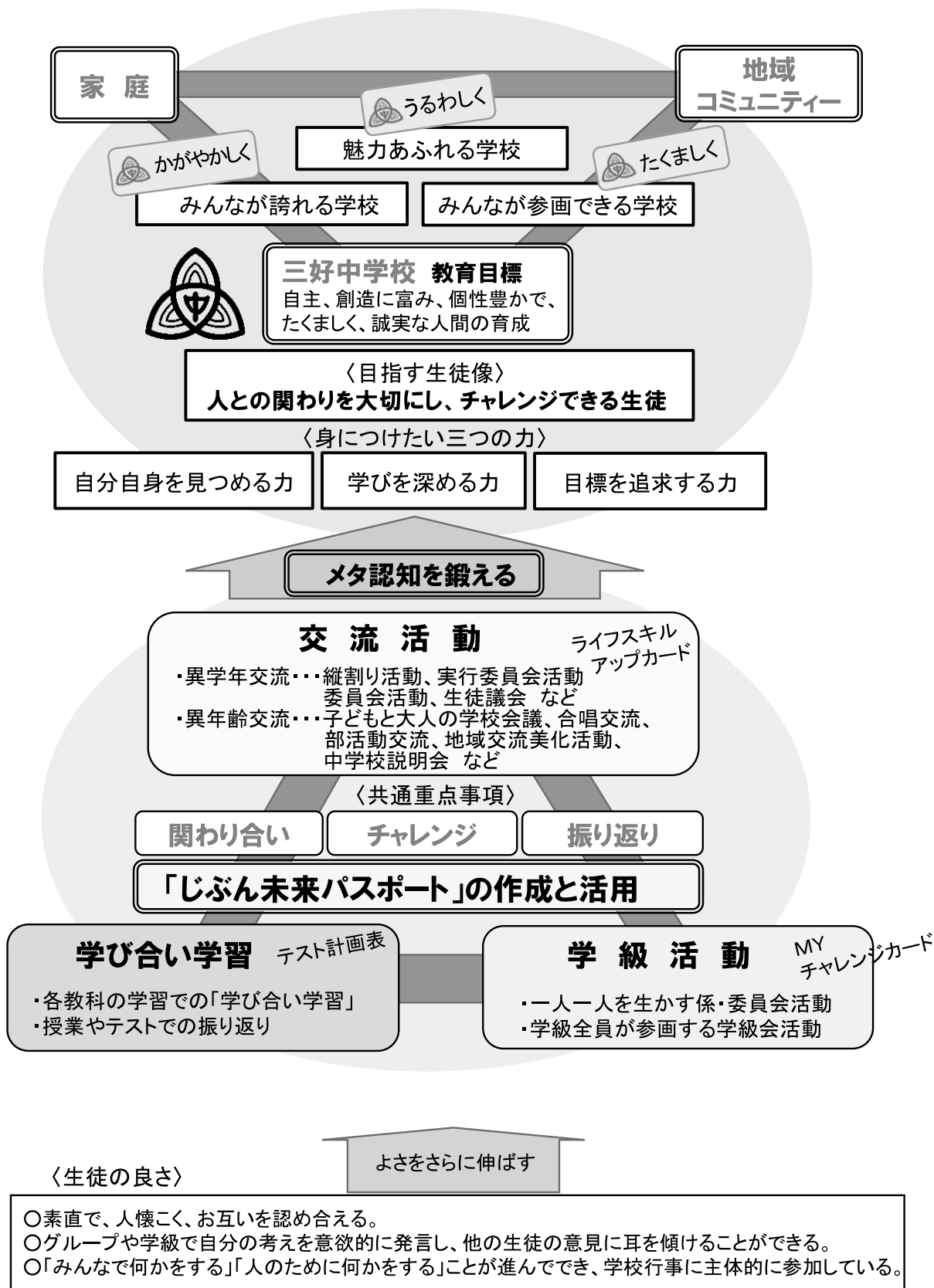
<令和元年度「卒業生に学ぶ会」に参加した卒業生>

## 5 おわりに

2年間の研究で、授業や学級活動、生徒会活動で高めた力を他の場面で生かそうとする生徒の姿が見られるようになってきた。その成果を継続・発展させるために、現在2年間の継続研究に取り組んでいる。今年度初めには、「持続可能な実践」をテーマに多忙化解消と教職員の指導力向上、更には主体的に活動している生徒の成長を保障する実践を目指すことを伝えた。しかし、新型コロナウイルス感染防止のため、多くの教育活動を制限せざるを得なくなった。特に交流活動の実施は難しくなっている。本校の存在意義を考え、生徒と教職員の力を伸ばすために「形を変えてでも実施すべきこと」は何かを考えながら、日々の学校経営に努めている。



## 目指す三好中学校像



## IV-3 各郡市中学校の学校経営の実際 豊橋市立吉田方中学校

### 1 はじめに

現在、新型コロナウイルス感染のニュースが毎日のように伝えられ、私たちは生活や健康への影響に戸惑い、対応に苦慮する日々が続いている。健康問題がますます重要視されるときを迎えたと言える。特に私たち教職員は、生徒の生涯にわたる健康や体力の向上に関わっている以上、常に生徒の健康に対する意識の向上を図る必要がある。しかしながら、生徒の健康維持のためには教職員だけの指導力では不十分である。家庭（保護者）の協力無くしては到底対応することができない。さらに、医療機関をはじめとした外部との連携、そして地域の協力も無くてはならないものである。いわゆる学校を中心にした協力体制を取ることが何よりも重要である。

### 2 本校の共有ビジョンの形成とその具現化【基準1】

平成29年、30年、令和元年度の3年間にわたって、市の研究委嘱を受け、小・中9年間を見通した「健康教育」に取り組み、生涯にわたって健康で安全な生活を送ることができる「生きる力」を育成する学校づくりを目指してきた。本校では「心身の健康に向けて主体的に運動に取り組み、スポーツに親しむ生徒の育成」が研究テーマであり、共有ビジョンとなっている。

この研究を進めるに当たって、まず教職員がテーマを十分に理解し、一丸となって取り組む必要性を感じた。また、生徒自身が健康やスポーツに対する意識を向上させることも大切であると考えた。さらに、家庭・地域の連携なくしては達成できないテーマであることが分かった。そこで三者の共通理解の下、協力して取組を進めることが、本校の共有ビジョンの具現化を図ることにつながると考えた。

### 3 本校の教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり【基準2】

#### (1) 校内研修会の充実

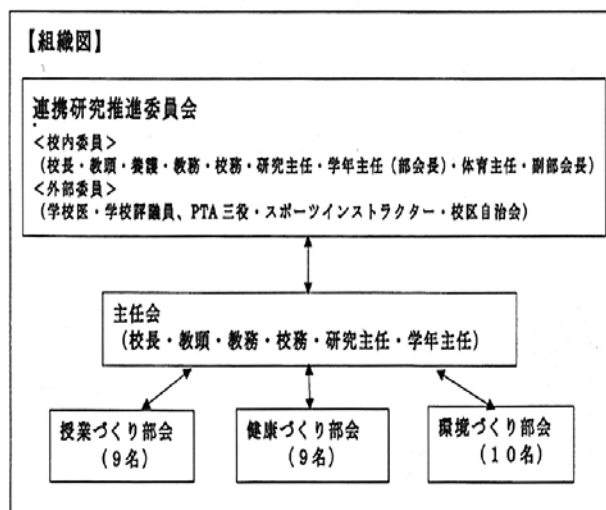
先に述べたように教職員が研究テーマを十分に理解し、研究を推進するために校内研修会において話し合いを進めた。健康教育がテーマであるため、養護教諭を中心にした組織づくりを進めることにした。具体的には次ページの図のようである。

研究推進委員会の委員として、家庭・地域との連携を踏まえ、校内委員・外部委

員をメンバーとして配置した。校内委員は四役、養護教諭、研究主任、学年主任、体育主任、副部長とした。学年主任には授業づくり部会、健康づくり部会、環境づくり部会の部会長を任せた。また、働き方改革の視点から授業後の会議をできるだけ最小限に押さえるため、各週授業時間中に開催している主任会を軸として研究を進めた。

## (2) 定期的な小・中代表者会

本校は1小1中の校区である。定期的に小・中代表者会を開催し、9年間を見通した教科カリキュラムの編成やさまざまな小・中連携活動についての検討会を行った。健康・安全の意識を高めるため、健康・安全カリキュラムの一環として、小学生から中学生まで、応急処置などについて学ぶ時間を設定することができた。



**9年間を見通した「健康・安全カリキュラム」の活用(例)**

健康・安全カリキュラムの一環として、小学生から中学生まで、応急処置などについて学ぶ時間をとっています。

- 小3 簡単な止血
- 小4 救急要請の仕方
- 小5 けがの応急処置(基礎編)
- 小6 けがの応急処置(応用編)
- 中1 胸骨圧迫 心臓マッサージの習得 水難事故防止講習会
- 中2 人工呼吸・AEDの習得
- 中3 応急手当(心肺蘇生法)の習得 ※認定講習の実施

小学校での救急要請の授業

中学校での救急救命の授業

※本校では、小・中連携による健康・安全カリキュラムの活用により、児童・生徒の健康・安全意識の向上を図っています。

## 4 諸資源の効果的な活用と危機管理【基準4】

### (1) 「心と体の健康チャレンジカード」の活用

自己の生活を振り返り、見つめ直すために学校と家庭の両方で、子どもの生活習慣の改善を目指している。小学校の「げんきっこカード」を基に、中学校では「心」の健康にも関心をもつカードを考え活用している。

**心と体の健康チャレンジカードの活用**

小学校の「げんきっこカード」をもとに、中学校では「心」の健康にも関心をもつようなカードを考え活用しました。

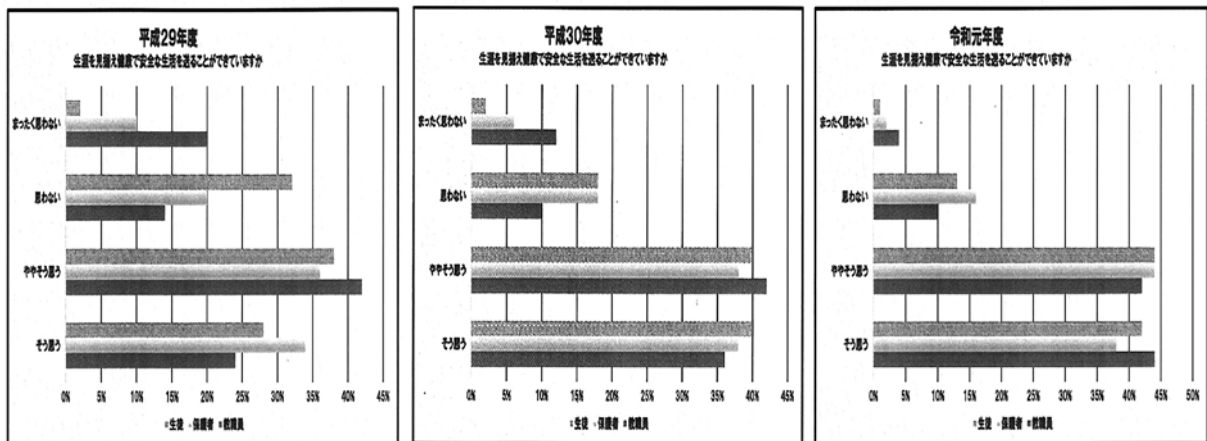
※長期休業中は心のみを行うようにしました。

**A 全員の取り組み**  
 知らない  
 自己コントロールの習慣化  
 具体的な活動  
 瞑想、呼吸法、ミニショートストレッチ等

**B 個人の取り組み**  
 知らない  
 心と体の状態の向上  
 具体的な活動  
 1分程度の活動内容で、目的をはっきりさせ、目標設定を各層で行う

**C 振り返り**  
 知らない  
 心と体の両方の健康について振り返りをする

## (2) 健康・安全に対するアンケート結果（学校評価アンケート・評議員会）



学校評価アンケートの健康・安全に関する項目「生涯を見据え健康で安全な生活を送ることができていますか」の質問に対して「そう思う」「ややそう思う」の肯定的な生徒・保護者の意識は、29年度（68%）、30年度（78%）、令和元年度（84%）と、ここ数年で明らかに高まっていることが分かる。また、「思わない」「まったく思わない」の否定的な意識は、29年度は32%であったが、令和元年度には16%となり全体的に健康・安全に対する意識が高まったと言える。

また、年に数回学校評議員会を開催し、学校参観や懇談会において、健康教育への学校としての取組を理解してもらうようにした。評議員の方々より年々、生徒一人一人の言動や表情に変容が見られ、生徒の成長する姿に対して、高評価をいただいた。

## 5 おわりに

三者が協力することによって、体力を高め、生涯にわたって健康的な生活を送るための方法を考えたり開発したりすることができる生徒が育っている。また、健康的な生活には、運動、食事、睡眠と併せて心の状態が関わっていることを学び、よりよい生活をしようと心がけ、運動に親しむ生徒も増えてきたと感じる。しかし、将来を見据え、帰宅後や休日にも体を動かそうという意識にまでは至っていない。生徒が体を動かしたいと思っても、環境が十分整っていない現状もある。こうした生徒の置かれている状況をしっかり把握し、健康維持と体力向上に向け、今後も学校教育の中で何が重要で効果的な学習になるのかを明確にし、教育課程に位置付けていきたい。

# 令和2年度 豊橋市立吉田方中学校グラウンドデザイン

## 校訓

《自主・勤労・礼儀》を生活規範の基として、知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな生徒を育成する。



## 学校教育目標

- ・つよく … たくましく生き抜く生徒
- ・やさしく … 思いやりのある生徒
- ・かしこく … 自ら考え学ぶ生徒

## 学校経営方針

- 1 学ぶ意欲ならびに活用できる確かな学力を育成する。
- 2 相手の気持ちをくみとり、他者を大切にすることを育てる。
- 3 すすんで取り組み、その活動・行動に自信と誇りがもてる教育活動（日常・行事）の構築を目指す。
- 4 状況に応じて、危機・危険を事前に回避しようとするなどの、安心・安全への意識を高める。
- 5 専門性が高く、組織的に機能する教職員集団の形成を目指す。

## 本年度の重点努力目標

- 1 確かな学力育成に向けて日々の学習活動の充実を図る。  
 ・授業において「わかるうれしさ」「学ぶ楽しさ」を表現するため、特に「評価活動（目標達成度確認、確認、補充、発展）にかかわる授業指示」を重視し、補強・発展をつくり出す。  
 ・日々の授業において本時目標（達成）にかかわる課題から内容定着の進捗を計画的に実施する。その際、その習熟度から内容定着のために精選した家庭学習を計画することとする。  
 ・説明する力の育成を計画し、学年（発達段階）に応じた表現活動の年間計画を立て実践を推進する。
- 2 豊かな心を育てるための恒常的な教育活動の整備に努める。  
 ・仲間とともに「ボランティア活動への積極的参加」を推進したり、関係する。・当事者活動を通して自己有用感を高める等の啓発活動をしたりする。  
 ・「あいさつ」「日常会話」「歌声」を核に、行事・生徒会などの特別活動等を通して、心に響く感動体験を味わわせることで、自己有用感や共同意識を高め、協働的に助け合える生徒の育成を図る。
- 3 授業や行事において、目標の意味理解や達成への過程（手段）を重視した展開を推進する。常に明確な目標と先への見通しをもち、行事などにおいて、常に明確な目標と先への見通しをもち、指導や活動の場を把握し、可能な限り全体への適切な指導と個別の適切な支援を行う。  
 ・取組の成果や達成状況を発表・確認できる場の設定や、成果を要因と関連させて発表する機会に留意する。
- 4 安心・安全への意識を高めるための学年・学校全体での組織的な取り組みを推進する。  
 ・道徳授業と体罰問題関係等について、道徳的技術力の高め、不安や心配等を未然に防止するために、主任や生徒支援部会等と連携し、生活や活動の場を把握し、可能な限り全体への適切な指導と個別の適切な支援を行う。  
 ・学年・学校全体での組織的な取り組みを推進する。  
 ・道徳授業と体罰問題関係等について、道徳的技術力の高め、不安や心配等を未然に防止するために、主任や生徒支援部会等と連携し、生活や活動の場を把握し、可能な限り全体への適切な指導と個別の適切な支援を行う。  
 ・取組の成果や達成状況を発表・確認できる場の設定や、成果を要因と関連させて発表する機会に留意する。
- 5 専門的で組織的な教職員集団の形成を目標として会議等の再編や研修委員会・主任等による研修や立寄り関係の確立・連携の強化、連携が密な学校組織の構築を目指す。  
 ・心身・健康・生活活動等）全般的な教育活動（学習・行事・研修等）を計画的に実施する。

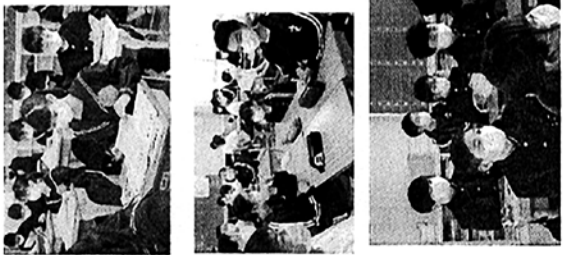
## より強い集団へ ～チーム吉田方の挑戦～

教育スローガンのもと、教育活動全般を通して生徒一人一人に確かな自信と誇りを育てる



## 《日常で鍛え、イベントで伸ばす》

- ・さわやかなあいさつ
- ・時間の厳守
- ・豊橋一の校歌
- ・無言清掃



## 各学年の目ざす姿

1 年学年目標  
**Have a Dream**  
 ～つよく、やさしく、かしこく～  
 社会集団の一員として、心ざわしい環境で生活し、夢をもって努力する生徒

2 年学年目標  
**挑戦!!!**  
 ～仲間を信じて！己を信じて！～  
 自分を大切にし、仲間への思いやりにあふれる生徒

特別支援学級目標  
**Let's be happy, be let's be Kind!**  
 ～みんなできれい、親切でいよう～  
 仲間を思いやり、相手の気持ちを考えよう行動できる生徒

3 年学年目標  
**スタート!**  
 ～自分だけの一歩～  
 ・具体的な目標をもち、その達成に向けて努力できる生徒  
 ・自他の向上のために、もてる力を発揮できる生徒  
 ・社会の一員であることを自覚し、互いの立場を尊重できる生徒

## 地域との連携推進

- （地域・保護者との連携）
- ・情報の発信 二校たより、ホームページ、学年通信、学校通信
  - ・学校ボランティア（図書、カヌー体験活動）
  - ・PTA、学校評議員（青雲の会）、同窓会
  - ・校区自治会、健全育成会、各種団体

- （校区との絆を深める活動）
- ・吉田方クリン活動（豊川クリン）
  - ・地域ボランティア（介護施設訪問）
  - ・校区防災訓練への参加
  - ・PTAハザーへのボランティア活動
  - ・市民館まつりへの参加（吹奏楽部）

- （小学校・保育園との連携）
- ・情報交換
  - ・小中合同事業の推進
  - ・保育園訪問
  - ・合同避難訓練の試行

## ～地域の未来を担う吉中生～

## IV-4 各郡市中学校の学校経営の実際 設楽町立設楽中学校

### 1 はじめに

設楽町内の3中学校が統合して、本校が開校して20年目となる。開校当時の生徒数は156名であったが、現在、通常学級3、特別支援学級3の6学級、全校生徒61名の小規模学校である。学区内には4小学校があり、バス通学生徒が3分の2を占める。本校勤務3年目、校長像五つの基準のうち、基準1、3、5について、学校経営の実際をまとめた。



<本校校舎>

### 2 本校の共有ビジョンの形成とその具現化【基準1】

令和元年度の学校経営を具体項目①「情報の収集と現状の把握」に基づいて見直した。保護者、学校評議員、教職員による学校評価を分析し、同時に教職員評価に関する面談を通して、教職員一人一人の意見も参考にして、令和2年3月に「令和2年度学校経営に関わる改善点」（右表参照）として、職員に提示した。これは、具体項目②「校長としての学校のビジョンの形成」に示されているとおり、教職員と共有されてこそ、教育活動の質の向上につながるものである。

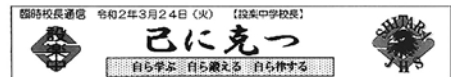
#### 【学校経営に関わる改善点の概略】

- ①朝の体力づくりの時間を夕刻に移し、朝の読書タイムを設定
- ②部活動複数顧問配置により指導回数を削減
- ③朝の交通立ち番廃止 ⇒ 生徒玄関にて指導
- ④PTA新聞発行回数削減と学校ブログ記事充実
- ⑤学年部で担任以外が担う仕事を明文化
- ⑥職員の緊急事態時に連絡する家族の連絡先把握

新年度を迎える準備段階に入ったところで、新型コロナウイルス感染症予防の臨時休業に入り、生徒、保護者への事前通知と協力依頼がしづらくなった。具体項目③「関係者を巻き込んだ共有ビジョンの形成」にあるとおり、これまでの現状と課題、そして今後、取り組もうとする事項や方法を説明することが大切である。本来ならば、全校朝礼や保護者会において説明すべきところであるが、やむを得ず、次ページの資料のとおり、臨時の校長通信を配付し、グランドデザインについても、令和2年度は配付のみで協力を依頼することにした。

具体項目③「関係者を巻き込んだ共有ビジョンの形成」については、令和元年度に大きな失敗をしている。学校祭において、これまで恒例の演目であった「全校

ソーラン演舞」を実施しないことを決定した。この演舞は、3年生が主導し、全校生徒で演技してきたものである。学校行事の内容精選と練習時間の確保、3年生の負担軽減を考えて、実施するかどうかを3年生の話し合いに委ねた。熱心な討論の末、全校では行わず有志による演舞とするという結論を出した。この件について、2年生と保護者から、伝統的な活動を学校の一方的な判断で変更したと不満があがったのである。PTA会長から「きちんと説明をした方がよいですね」と意見をいただき、変更の経緯を校長が説明することとなった。主導する3年生が出した結論を全校生徒に伝える場と合意形成、保護者に対する経過説明の不足を丁寧にお詫びした。全校生徒、保護者、学校関係者と強い関わりをもちながら、共有ビジョンを形成することの大切さを改めて痛感した。



読楽中学校1・2年生の皆さん、元気です。臨時休業から春休みに入りましたが、引き続き、新型コロナウイルス感染症予防のため、十分に気を付けて過ごしてください。私たち大人を含めて、これまで経験したことのない出来事に適応できる力を伸ばすことが求められます。退屈な日々ととらえるか、自らの生活を生きる力を伸ばすチャンスととらえるかは、君たちの考え方、行動の仕方が大きく変わります。3月23日現在、春休み中の部活動、出校日は行わない方向です。朝礼で皆さんに話さないで、この通信でお知らせします。保護者の方とともに内容を確認してください。

1 現段階で決定している行事等について

(1) 入学式・始業式  
4月7日(火)予定どおり実施。新2・3年生は、16時下校。少ない時間ですが、6時開校を部活動とする予定なので、準備をお願いします。新入生は、12時下校。

(2) 読楽町内外遠征事業関係  
5月13日からの実施は延期。11月4日からの実施に延期できるか調査中、未定。

6月13日からのアーランドンハイムからの訪問は、中止決定。

(3) 校内研修  
6月13日からの実施は延期決定。11月4日からの実施を計画していきます。

2 新学期からの日課表の変更について  
新学期より、朝の自主活動で行ってきた体力づくりを授業後に行えるよう日課を変更します。「朝活」という名称で、遠征の時間を設定することにしました。今まで以上に求められる競争力を伸ばしたいという思いです。朝のランニングで体力を伸ばそうとしていた人のために、「夕活」という名称で、短学活と部活動の間に位置付けました。これにより着替え、運動後の汗の管理等が解消され、朝の動きにゆとりができます。詳しい変更点は新学期にお話ししますので、心の準備をよろしくお願いします。

【これまでの日課表】		【新しい日課表】	
自主	8:00 ~ 8:15	朝活	8:00 ~ 8:10
短学活	8:20 ~ 8:30	短学活	8:15 ~ 8:25
1限	8:35 ~ 9:25	1限	8:30 ~ 9:20
2限	9:35 ~ 10:25	2限	9:30 ~ 10:20
3限	10:35 ~ 11:25	3限	10:30 ~ 11:20
4限	11:35 ~ 12:25	4限	11:30 ~ 12:20
給食準備	12:25 ~ 12:35	給食準備	12:20 ~ 12:30
給食	12:35 ~ 13:00	給食	12:30 ~ 12:55
給食後	13:00 ~ 13:20	片付け放課	12:55 ~ 13:15
5限	13:20 ~ 14:10	5限	13:15 ~ 14:05
6限	14:20 ~ 15:10	6限	14:15 ~ 15:05
清掃	15:15 ~ 16:30	清掃等	15:10 ~ 15:25
短学活	15:35 ~ 15:50	短学活	15:30 ~ 15:40
部活	16:00 ~ 17:40	夕活	15:45 ~ 15:55
下校	17:50	部活動	16:00 ~ 17:40
		下校	17:50

<臨時校長通信>

### 3 本校の教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり【基準3】

平成31年4月からの2年間、北設楽地方教育事務協議会の研究委嘱をいただいた。基準3の教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくりを推進する上で、格好の機会を得ることになった。ここでは、具体項目③「共有ビジョン実現のための教職員のリード」具体項目④「相互交流と省察を促す教職員集団の形成」を重視してきた。各教科を担当する一人一人の教職員の授業力向上が、生徒の学力、生きる力を伸ばすことにつながるということと、研究を前向きに捉え、背伸びせずにできることを確実に進めていくことを確認した。研究主題を「仲間と共に課題に向き合い、自ら学ぶ生徒の育成 ～課題設定・個人思考・話し合いを重視した協同学習を通して～」とし、実践を積み重ねてきた。管理職を除く定数16名の教職員のうち35歳以下が10名を占める本校において、長期的な人材育成を視野に入れて現職研修を充実させる必要がある。教務主任が、本校の生徒の実態を捉え、日々の授業の課題について校長と面談を繰り返して、研究の方向性を提示した。指導助言をいただく講師を一人に絞り、「協同学習」の理念を取り込んだ授業づくりを推進し、各教科に共通する本校の授業スタイルをつくってきた。この研究推進に当たり、組織の編成を

工夫した。指導案検討と授業研究を進める学年部と、研究理論の整理と実践を検証する研究3部会を組織した。研究3部会とは、研究のサブタイトル「課題設定」「個人思考」「話し合い」を示しており、研究の仮説もこの3項目に合わせて設定した。その3部会に3名のミドルリーダーを配置した。また、研究主任だけでなく各部会のリーダーを協同学習の研究会に派遣し、本校の研究に反映させた。このことにより、研究がやらされているものではなく自分たちでつくっていくものという気風が更に高まった。研究授業の検討会は、グループ協議を基本とした。所属する研究3部会それぞれの立場から意見を出せるので、若手教員も遠慮なく発言できた。その後のグループ協議の報告を1年目から3年目の教員が理路整然と語る姿も見られた。



<授業検討会の様子>

#### 4 本校の家庭・地域社会との協働・連携【基準5】

「コロナ禍」により、地域社会との協働関係を深めることが難しい状況ではあるが、7月には学校評議員会を開催した。前年度の地区運動会において器具係やヒーローショー「クマタカレンジャー」での活躍、登校時の挨拶が良好であること、地区祭典での貢献度等、4名の学校評議員からそれぞれの地区での中学生の様子を教えていただいた。引き続き、学校評議員との関係を深めていきたい。

本校の総合的な学習は、地域と結び付いている。第1学年「名人に学ぶ」第2学年「職場体験学習」第3学年「設楽町活性化案づくり」を通して、地域の文化、歴史、自然、産業、経済の学びから郷土愛を育てている。例年、夏季休業中に実施していたが、11月に延期して実施を予定している。特に職場体験学習については、設楽町商工会を通して延期のお知らせと協力依頼をした。12月の学校祭において、これらの学習成果を発表する。また、教科においても地域と結び付いた学びを取り入れるよう奨励している。美術科パッケージデザインの学習では、町内の「道の駅」で完成したデザインのプレゼンテーションを計画している。

#### 5 おわりに

山間部、小規模学校とは言え、コロナウイルス対策を怠ることなく、できることを着実に推進し、生徒、保護者、地域社会の期待に応える学校経営を目指したい。





# 令和2年度 設楽中学校グラウンドデザイン

校訓

己に克つ  
自ら学ぶ  
自ら鍛える  
自ら律する

教育目標

ア 自他の生命を尊重し、愛と正義を貫く  
イ 自ら学び、自ら心や体を鍛え、たくましく生きる  
ウ 勤労を尊び、奉仕と思いやりの心をもって社会に貢献する  
エ 郷土に誇りをもちつつ、世界に目を向け広い視野で物事を考える

経営方針とその具体的方策

- 1 「学ぶ楽しさ」「活動をつくる喜び」を生徒と共感する学校  
・生徒とともに有意義教育活動をつくり楽しむ、期待感のあふれる企画に挑む。  
・できることのように感じる活動で、できなくなってもそこに向けて努力した姿を評価し合い、よりよき生きようとしていく  
クマタカレンジャー
- 2 「社会で役に立つ力を伸ばす」を旨とする学校  
・「見える学力」「見えない学力」をバランスよく育成する教育活動を設定する。  
・生徒理解の原則を貫き、自他共に認められる一人一人の長所を伸ばす。
- 3 保護者、地域とともに生徒の成長を喜び合う信頼される学校  
・生徒、保護者と真摯に向き合う姿勢を示し、チームで対峙できる教職員集団を目指す。  
・学校行事、保護者会、キャリア教育等を通して、地域に学び、地域を愛する心を育てる。

## 生徒の自治活動を促進するために継承している理念

生徒憲章 平成13年7月

真の自由の意味を己の心に問え

- 1 親しさと厳しさが生む信頼
- 2 マイバスターで感じる満足感・一体感
- 3 学年としての立場と責任の自覚  
1年生 先輩から学び、自分も成長する。  
2年生 先輩を支え、後輩に伝える。  
3年生 最上級生として、自ら動く。



設楽中人権宣言 平成27年11月

私たちは、相手のことを知り、常に思いやりの精神で行動します。  
私たちは、常に人権問題に関心をもち、人権感覚を磨きます。  
私たちは、常に人権問題を正しく理解するよう努めます。  
私たちは、どんな人の体も心も傷つけない生き方をします。

生活の三原則

場を清める  
時を守る  
礼を正す

三つの心得

人より先にあいさつを  
はきものをそろえよう  
「はいり」という元氣な返事

## 「自ら学ぶ」チーム

- 学びⅠ 学びの基盤となる集団づくり  
○「協同学習」の理念を踏まえた学級づくり  
○「振り返り」に積み重ねによる自己調整力の伸長  
○評価内容を伝える教科オリエンテーションの実施
- 学びⅡ 生徒とともに味わう達成感のある研究発表  
○研究3部会「課題設定」「個人思考」「話し合い」の提案  
・学ぶ意欲を高める課題をつくる  
・自分の考えをまとめるまでの支援方法を探る  
・話し合いの着眼点を明示して思考を深める  
○学年部を中心とした授業実践と仮説の検証
- 学びⅢ 基礎基本の定着と読解力の強化  
○「朝活」を使った読書タイムの充実  
○自学ノート、学習計画表を活用した家庭学習と補習  
○進路に生かす検定受験の勧め「漢字・数学・英語・理科」

## 「自ら鍛える」チーム

- 鍛えⅠ 未来につながるためによりよい心と体を育む  
○目標づくりと反省を重視したミーティングの場の設定  
・「タ活；体力づくり」による基礎体力の向上  
・部活動によるチームワーク精神の育成
- 鍛えⅡ 心を磨く取組による人格形成  
○部活動単位の地域奉仕活動  
○心を映す環境づくりと環境整備  
○外掃除、除草作業を定期的に行実施  
○全校朝礼でのスピーチと意見交換の強化
- 鍛えⅢ キャリア教育の充実  
○「名人に学ぶ」「職場体験」「進路学習会」「適性検査」「お仕事フェア」を生かして進路カルテの作成につなげる  
○中高一貫連携校田口高校から学び、連携型入試に備える

## 「自ら律する」チーム

- 律すⅠ 「生徒憲章」を中心とした生徒会活動、学級活動の推進  
○生徒憲章の深い解釈と各学年の目標設定と報告  
○生徒会組織を前期、後期の2期制とし、後期執行部を早期に組織して、活動の活性化を図る。
- 律すⅡ 「生活の三原則」「三つの心得」「設楽中人権宣言」  
○発言ウィーク、挨拶運動、座談会等の企画運営を支援  
○設楽中人権宣言を生かした道徳の時間、人権週間の取組  
○スクールガード、バス運転手への感謝の気持ちを高める
- 律すⅢ 生徒の悩みに寄り添う生徒指導  
○教育相談を生かした個別の支援を強化  
○生活記録、生活向上アンケートを通して対話の機会を増やす  
○登下校の見守りの時間等を生かした日常会話からの情報収集  
○情報を共有して全職員で対応する意識を高める

① 限られた時間の中で達成感を味わうための諸活動の見直し ② 複数顧問制度、生徒の自主運営を生かした部活動 ③ 授業担当以外の業務計画を週案に記入  
 <「働き方改革」に向けた業務改善の意識>

## V 令和元年度本特別委員会報告書を活用した研修

### ◇ 郡市における取組

#### 【岡崎市】

6月岡崎市自主校長会議で研修を実施した。はじめに、本特別委員会が研究している4年計画の研究概要を説明した。次に、報告書にある「教育活動の組織化のリーダー」としての校長像七つの基準と三河8郡市による「諸資源の効果的な活用と危機管理」に係る実際的な取組の一部と課題及び考察を紹介した。最後に、名城大学教授曾山和彦先生を招いての研修記録「校長のリーダーシップで変わる特別支援教育」から学ばせていただいた。学校経営の在り方について考えるよい機会になった。

#### 【碧南市】

3月の自主校長会の中で報告書による研修会を実施した。事前に各自が報告書を読み込み、「参考になったこと」「活用してみたいこと」「感想」を出し合う形で研修を行った。日々実践している内容について、理論立てて述べることでビジョンや組織の構築の全体像がより明確になった。他地区の取組を参考にし、今後の学校運営の方向性を考えるきっかけになり、とても有意義な研修会を行うことができた。

#### 【刈谷市】

3月の校長研修会において、本報告書を紹介した。その後、各自で報告書を読み込み、「参考になったこと」「取り入れてみたい実践例やその理由」等をレポートにして提出してもらった。その内容をまとめたものを校長研修会で紹介し、意見交流を行う機会を設けた。基準4と基準5について、他郡市の具体的な活動を学びながら、すぐにでも実践できそうな可能性を感じたり、これまでの取組の改善点が浮き彫りになったりと、今後の可能性を探るよい機会となった。

#### 【豊田市】

当初の計画では校長会研修の折に報告書を活用した研修を行う予定であったが、新型コロナウイルスの感染防止のため集合研修を取り止め、リモートによる研修へと切り替えた。

報告書を分かりやすく解説したパワーポイントを作成し、それを使って各自研修を行った。ポイントを明確にした分かりやすい内容で、基準1から基準5までを理解し、各校の学校経営に役立てることができた。

## 【安城市】

安城市校長連絡会で研修を実施した。「学校組織マネジメント」の手法を「つながり」という観点から再整理し、具体的に実践した桜井小学校の事例を紹介した。その紹介を基に、各校グラウンドデザインの達成に向けて取り組んだ様子について、意見交換を行い、学校の組織力の向上を図る仕組みづくりについて考えるよい機会となった。

## 【西尾市】

まず、7月の新任校長自主研修会議において、1・2年次の報告書を活用し、基準1から基準3について研修を行った。特に、「学校の共有ビジョンの形成と具現化」について理解を深めることができた。次に、自主校長会議において、3年次の報告書を活用し、基準4と基準5について研修を行った。各校長からは、地域にある「人・もの・こと」をどう児童生徒の教育に生かし、それをどう家庭や地域に返していくかの意見が聞かれ、家庭や地域との連携が学校経営を支える大きな柱であることの共通理解が図られた。

## 【知立市】

知立市は、市内の小・中学校合わせて10校である。よって、8月を除いて毎月、市内全小・中学校の校長が、順に各学校に集まり、校長研修会を開催している。ここでは、毎月のテーマを決め、各校の現状など情報交換をしている。報告書に目を通して気になった各郡市の取組の事例を取りまとめて毎月のテーマとして協議をしている。コミュニティ・スクールがテーマのときは、更に深めようと、取組をしている他市の学校の校長を招聘して研修を行った。

## 【高浜市】

9月の自主校長会後に時間を設定して学校力向上研修会を行った。本委員会の昨年度の報告書の主に基準4「諸資源の効果的な活用と危機管理」を資料とし、危機管理に絞った研修会を行った。今まで想定されていない「新型コロナウイルスの感染拡大」という危機に対しても、日頃から危機管理の力量を向上させる研修を行っていくことが危機管理意識を高め、危機に迅速に対応するリーダーシップを磨くことにつながることを学ばせていただいた。各郡市の取組から「学校の危機対応力」を考える有意義な研修の時間となった。

## 【 みよし市 】

本年度、みよし版地域支援本部実現に向け調査研究が始まった。三河各地の実践に学び、今後の取組の参考とするために5月の自主校長会で研修を行った。事前に全員が報告書を読み、最も興味・関心をもった取組についてコメントを提出した。コメントが多く集まった「コミュニティ・スクールの活用」と「何のために発信するのか－目的－」について、それぞれ2名の発表から参加者が意見をつなぎながら研修を深めた。同じような思いや悩みをもっていることを知るよい機会となった。

## 【 幸田町 】

6月校長研修会において「今年度の学校経営」について各校の方針を示す機会に合わせ、報告書を活用した研修を行った。本年度、喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症の対策を検討するに当たり、本報告書の「危機管理体制のための諸活動のリード」にある「より実効性の高いマニュアルの作成」や「保護者・地域との連携における課題」は大変参考になることが多かった。具体的な対応事例も交流することで、各校の実態も考慮した危機管理体制の構築につなげることができた。

## 【 豊橋市 】

9月の校長会に時間を設定し、3年次の報告書を基に、学校力向上の研修会を行った。豊橋市の小・中学校は、これから全て、コミュニティ・スクールに移行することになっている。そこで、基準5「家庭・地域社会との協働・連携」に重きを置き、校長は、家庭や地域社会が抱く多様な関心やニーズを理解し、それに応えるよう学校経営を進めることが肝要であることを確認した。他郡市のコミュニティ・スクールの先行事例も併せて学び、大変有意義な研修会となった。

## 【 豊川市 】

3月の自主校長会の中で本報告書を基にした研修を実施した。事前に各自が報告書を読み込んで、基準4・基準5に関して自校で取り入れたり参考にしたりしたい取組、疑問点などを挙げた。それを集約した資料を基に研修を行った。他地区の具体的な事例に触れることで、各校長が自校の現状と照らし合わせながら学校経営を見直す機会となった。また、各校長の学校運営の視点や改善の方向性、抱えている問題について共有することができ、有意義な研修となった。

## 【蒲郡市】

7、8月蒲郡市自主校長会議で、学校力向上特別委員会の研究趣旨に沿い「家庭・地域社会と協働・連携」をどう進めていくべきか、先進地区で事業に携わった方を講師に招いて研修した。校長として、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動について、更に多面的に研究していくとともに、教職員や保護者・地域の人にもその価値を説き、地域で子どもを育てるシステムを早急に構築していく必要性を感じた。他地区の具体的な事例から本市に合った進め方を深く考えることができ、大変有意義な研修となった。

## 【新城市】

6月の校長研修会において、報告書による研修を実施した。最初に、学校力向上特別委員会が研究している4年計画の概要や「教育活動の組織化のリーダー」としての校長像七つの基準についての理解を進めた。そして、グランドデザインや報告書の「諸資源の効果的な活用と危機管理」や「家庭・地域社会との協働・連携」の郡市の実際的な取組について学んだ。各郡市の取組等から、今後の学校経営の在り方について考えるよい機会となった。

## 【田原市】

7月の校長研修会において、3年次の報告書を基にして「学校力向上について」の学習会を実施した。はじめに、講師の前年度委員の校長が、学校力向上特別委員会のあゆみと研究している4年計画の研究の概要について説明し、共通理解を図った。次に、報告書にある「教育活動の組織化のリーダー」の七つの基準の理解を深めた。最後に、研究3年次で示された基準4・基準5に関する三河16郡市の取組の中から、特色ある取組を紹介した。他郡市の取組に触れる機会となり、大変有意義な学習会となった。

## 【北設楽郡】

10月郡校長会全員協議会の折、令和元年度「学校力を高める学校経営の在り方」を基に、校長像七つの基準のうち、基準4を中心に研修、情報交換をした。「コロナ禍」において、具体項目④「危機管理体制のための諸活動のリード」は、喫緊の課題であり、秋の文化的行事をどのように実施していくか、修学旅行実施までの具体的な手続き、保護者説明等の意見交換を行った。その他、最適なICT環境整備、コミュニティ・スクール化の進捗状況、学校応援団の活用状況も話題にした。

## 【参考資料】

三河小中学校長会 研修会① 令和2年8月25日(火) 西三河総合庁舎

# SDGs（持続可能な開発目標）を達成するための 地域特性を生かしたESD（持続可能な開発のための教育）

中部大学 国際ESD・SDGsセンター  
准教授 古澤 礼太 氏

## 1 ESD：Education for SD（Sustainable Development）

### 持続可能な開発（発展）のための教育

Sustainable（サステナブル）

- ①「持続」できる
- ②「持ちこたえる」ことができる

Development（デベロップメント）

- ①「開発」：経済開発、地域開発
- ②「発展」：社会発展、人類の発展

## 2 ESDとSDGsの歴史的背景

1970年代：「環境と開発の問題」への国際的関心の高まり

1980年代：「持続可能な開発（SD）」概念の登場

1990年代：国連「地球サミット（リオサミット）の開催」

2000年代：国連「ミレニアム開発目標（MDGs）」（2000-2015年）開始

「ESDの10年（2005-2014年）」の開始

2010年代：国連「持続可能な開発目標（SDGs）」の開始（2016年）

2020年代：コロナ時代のSDGs

※サステナビリティ（持続可能性）に関する主たる国際会議（1972～2015年）

1970's 人間環境会議（1972年）

1990's 地球サミット（1992年）

2000's ヨハネス・サミット（2002年） ESD

2010's 持続可能な開発サミット（2015年） SDGs

## 3 SDGsの三つのポイント

- (1) ゴールが17あること（対象地域内の目標設定）  
全17ゴールを達成して「誰ひとり取り残さない」社会を

- (2) 17ゴールの相互関連に着目すること
- (3) さまざまな立場の人々（マルチ・ステークホルダー）の協力・協働で進めること
  - ① 市民活動 地域課題の解決・過度の経済至上主義の抑制
  - ② 企業活動 社会への貢献・サステナブルな「投資」と「投資撤退」
  - ③ 教育活動 持続可能な社会の担い手づくり
  - ④ 行政活動 持続可能な地域づくりと国際貢献

## 4 ESD/SDGsの実践

- (1) 「中部SDGsデザイン会議」の取組
  - ① ゴールが17あること（対象地域内の目標設定）
    - 伊勢・三河湾流域圏の17課題の総合的理解  
（17ゴール×100人委員会の設置）
  - ② 17ゴールの相互関連に着目すること
    - 分野横断型のプロジェクト立案・実施
  - ③ マルチ・ステークホルダーの協働で進めること
    - 若者リーダー育成（中部サステナ政策塾）と地域の多様な主体の参加による活動
- (2) 学校におけるSDGs教育の視座
  - ① ゴールが17あること（対象地域内の目標設定）
    - 学区・地区・市町の課題発見（複数年も）
  - ② 17ゴールの相互関連に着目すること
    - 教科横断型学習（ESDカレンダー）
  - ③ マルチ・ステークホルダーの協働で進めること
    - 学区・地域内の企業、行政、NPO等との連携
- (3) 学校におけるSDGs教育の姿勢
  - ① 生徒・児童と教員の共学（先生は答えをもたない）
  - ② 学習者の自主的な課題発見（相互関連も）
  - ③ 地域課題発見学習は積み重ねを

## 5 まとめ

- (1) SDGsは持続可能社会の実現方法
- (2) ESDはそのための価値教育
- (3) SDGsを達成するESDのポイントは
  - ① 17ゴールに目配りをできるか
  - ② 課題の相互関連に気付き学べるか
  - ③ 地域の多様な主体と連携できるか



## 【参考資料】

三河小中学校長会 研修会②

令和2年10月13日(火) 蒲郡荘

# 働き方改革時代の管理職に求められるタイムマネジメントスキル ー タイム・マネジメントの視点から ー

日本大学 文理学部

教授 佐藤晴雄 氏

## 1 教員職員の勤務の特徴

- (1) 児童生徒の視線を浴びて常に緊張を強いられる
- (2) 心身の未発達な子どもを対象にしている
- (3) 一日の間で多様な仕事をこなす
- (4) 勤務時間と休憩時間のメリハリがつきにくい
- (5) 仕事のやり貯め／先取り／先送りがしにくい
- (6) 自己都合や病気で休暇をとりにくい
- (7) 職務規範が私生活にも及びやすい
- (8) 職場の人間関係が同質的で狭く、授業など個業的職務が大半を占める

## 2 教員に特有な仕事観の問題

- (1) 仕事観の伝染・遺伝
- (2) 個業（授業・教室中心）性の存在
- (3) 労力が必ず成果につながるという短絡的思考
- (4) 前例踏襲的・慣例重視的文化
- (5) 突発的問題の発生
- (6) 過度の「子ども中心主義」

## 3 タイム・マネジメントの発想

- (1) 作業・業務の終始時間の計画化
- (2) 優先順位
- (3) タスク化
- (4) 自己の能力・立場とタスク負担のバランス
- (5) 作業の「きりのよさ」にこだわらない
- (6) 時間配分は鳥瞰的視点で
- (7) 一つの作業中に「あれこれ」とやらない



## 4 意識改革を進める

- (1) 「時間をかければよい仕事」という発想からの脱却
- (2) 勤務時間を客観的に認識
- (3) 仕事のハレとケの明確化（多忙期と非多忙期のバランス）
- (4) 「午後8時過ぎまで学校で仕事」の恒常化は「おかしい」という感覚をもつ



- (5) 「完璧」意識に縛られない（8割くらいで良いのでは）
- (6) 「私生活は大事だ」という感覚をもつ
- (7) よい意味での「割り切り」感覚をもつ
- (8) 他人の知恵と支援を遠慮なく借りる（自己解決にこだわらない）
- (9) 「スクラップ・アンド・ビルド」の発想をもつ
- (10) 若手・初任の意識改革をどう進めるか

## 5 管理職に求められる課題 ―精神疾患の予防―

- (1) ラインケア
  - ・校長－教頭－主任－教諭ライン上のケア
- (2) 早期発見
  - ・気を付けるサイン（机が散らかっている・ミスが多くなる 等）
- (3) マネジメントのポイント
  - ・個人主義よりチームワーク重視
  - ・職員間のつながりを深める
  - ・職員が見通しをもって取り組める指示や目標の提示
  - ・職員の個性や力量に見合った「公平」な分掌
  - ・職員の裁量を増やし、意見を採り入れる
  - ・共感をもって接する
- (4) やりがいの反転
  - ・仕事が楽しい・やりがいがある・子どもたちともうまくいっている
  - 反転 ストレスの蓄積に
- (5) 健康経営
  - ・教職員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践
  - 学校の理念に基づき、教職員等への健康的配慮を行うことは、教職員の活力向上や教育力の向上等の組織の活性化をもたらし、結果的に教育の向上につながることを期待できる。

## 6 働き方改革のポイント ―事例を基に―

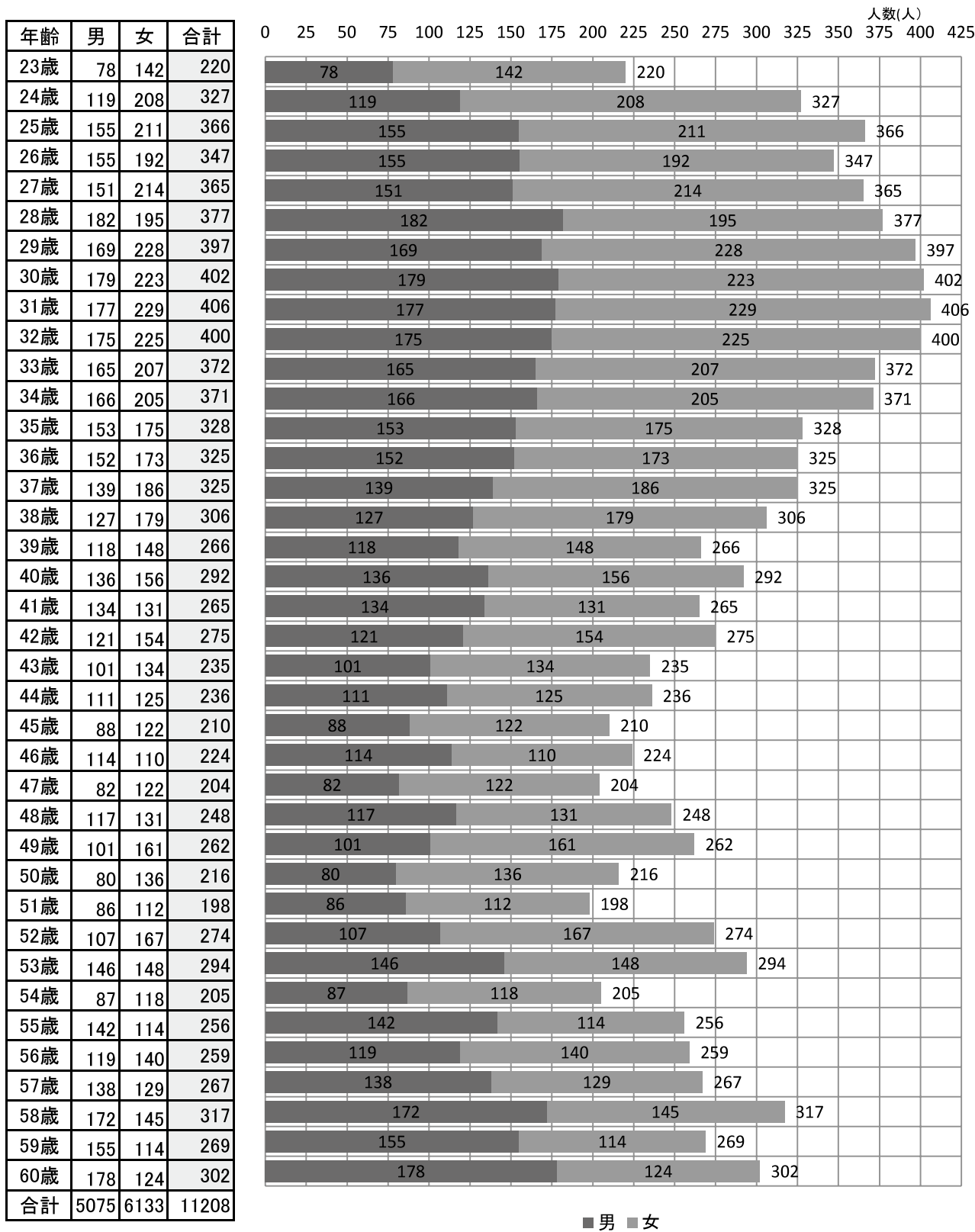
- (1) 意識を変える
  - ①振り返る ②客観的に見る ③視野を広げる
- (2) 業務を見直す
  - ①何をただし ②何を埋め ③何をつくるか という三つの視点で
- (3) 上記の結果を踏まえて学校業務の効率を考える
  - ①減らす ②やめる ③変える ④つくる
- (4) 業務分担を再検討する
  - ①偏りを見直す ②不公平感を是正する ▶ 負担感の軽減
- (5) 校内で働き方アイデアの共有化を図る
  - ①当番制で教職員に働き方のアイデアを練るように促す
  - ②事後、その成果を校内研で発表
- (6) 改革が新たな負担にならないようにする

# 男女別年齢構成表（全三河小中学校）

対象人員：正規教員（校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭）

人員は令和2年5月1日現在

年齢は令和3年3月31日現在



## 三河小中学校長会特別委員会のあゆみ

### ○昭和57年4月「行事割愛検討特別委員会」設立

- ・児童生徒に「ゆとりある生活」を保障する手だての一つとして、行事の割愛・精選の在り方について調査研究を行う。

#### <昭和57年度～昭和62年度>

毎年抽出校を選び、出張・行事割愛・削減状況の実態調査を行い、毎年紙面で本会へ報告した。

#### <昭和63年度～平成8年度>

前年度の研究を基に検討課題を明らかにし、19郡市で実施している行事や、各学校で実施している行事の精選や割愛の実態をまとめ、行事割愛検討特別委員会報告書を作成し、本会へ提出した。

#### <平成9年度>研究主題「学校関係行事の割愛と精選に関する研究」

副主題：行事と土曜休業日の活動と関わり

#### <平成10年度>研究主題「学校関係行事の割愛と精選に関する研究」

副主題：地域との連携を中核とした行事運営の在り方

### ○平成11年4月「学校経営特別委員会」と名称変更

**研究主題**  
**生きる力を育むための主体的な学校経営の在り方**

- ・校長としての主体的な学校経営の理念を明確にする調査研究を行う。

年 度	副 主 題
11	学校教育目標策定と具体的な取組
12	重点努力目標と具体的な取組
13	具体的な教育課程の編成
14	新学習指導要領完全実施1年目の成果と課題
15	新しい教育課程の編成と実施上の課題
16	主体的な学校経営とその評価
17	学校経営評価と実施上の課題
18	学校力と教師力を高める取組と課題
19	学校組織マネジメントの現状と課題
20	授業力の向上を目指す取組と課題
21	新学習指導要領への移行措置の取組と課題
22	教員の多忙化解消への取組と課題

○平成23年4月「学校力向上特別委員会」と名称変更

<b>研究主題</b> <b>学校力を高める学校経営の在り方</b>
---------------------------------------

・学校力を高める学校経営の方法を明確にする調査研究を行う。

年 度	副 主 題
23	三河 16 郡市における校長研修の実態と課題
24	校長研修充実のための各郡市の方途
25	教師力向上のための各郡市の取組と課題
26	ミドルリーダー育成のための各郡市の取組と課題及び提言
27	管理職等の力量向上と組織マネジメントに視点を当てた各郡市の取組と課題
28	学校組織マネジメントと教職員の力量向上 Q & A 集
29	「つながり」で創る学校経営を目指す各郡市の取組と課題 ① 学校の共有ビジョンの形成と具現化
30	「つながり」で創る学校経営を目指す各郡市の取組と課題 ② 協力体制と風土づくり
元	「つながり」で創る学校経営を目指す各郡市の取組と課題 ③ チーム・ネットワークづくり

## おわりに

学校内外がチームとなり「つながり」をもった教育活動をしていこう、そして三河の子どもたちを例外なく成長させようと、研究副主題を「『つながり』で創る学校経営の在り方」とし、4年計画の研究を推進してきました。1年次の調査研究から「つながり」で創る学校経営の鍵は「学校の共有ビジョン」であると確信しました。2年次・3年次の調査研究では、「学校の共有ビジョン」を実現するためには教職員間の「協力体制と風土づくり」が大切であること、学校内外の「諸資源の効果的な活用」を心がけ、「家庭・地域社会との協働・連携」することも大切であることが分かりました。あわせて、各郡市では校区の環境や地域のニーズに合わせた特色あるさまざまな取組がなされていることが分かりました。

本報告書は4年間にわたる研究の集大成として、これまで調査研究で取り上げてきた基準1から基準5の実践による学校経営の実際を各郡市の事例としてまとめました。具体的には、「教育活動の組織化のリーダー」としての校長像五つの基準から「学校の共有ビジョンの形成と具現化（基準1）」、それを実現するための「協力体制と風土づくり（基準2・基準3）」について綴り、郡市によっては「諸資源の効果的な活用と危機管理（基準4）」、「家庭・地域社会との協働・連携（基準5）」にも言及しています。また、いずれの事例においても学校経営を図にまとめたグラウンドデザインを載せております。1校あたり4ページの原稿には、働き方改革、コロナ禍の対応に迫られながらも「学校の共有ビジョン」を掲げ、「つながり」を意識した学校経営に邁進する校長の姿が見て取れます。ここに綴られた12小学校・4中学校の学校経営から、これからの教育活動の手がかりを得ていただければ幸いです。

おわりになりましたが、本調査研究に携わってくださった委員の方々やお力添えをいただいた皆様に、心よりお礼を申し上げ、結びのことばとさせていただきます。

令和3年2月

学校力向上特別委員会事務局

## 令和2年度 学校力向上特別委員会委員一覧

委員長	野田 紀世子	みよし・北部小	三河小中学校長会副会長
副委員長	柵木 智幸	岡崎・甲山中	〃 副会長
委員	松平 貴圭	豊川・南部中	三河教育研究会副会長
〃	平井 敦	田原・童浦小	三河小中学校長会庶務
〃	彦坂 登一朗	田原・赤羽根小	〃 庶務
〃	原田 憲一	豊橋・南部中	〃 庶務補佐
〃	柴田 昌一	岡崎・広幡小	岡崎市学校力向上特別委員会委員長
〃	立花 明德	碧南・西端小	碧南市 〃
〃	服部 孝司	刈谷・依佐美中	刈谷市 〃
〃	佐藤 正一	豊田・浄水小	豊田市 〃
〃	都築 智	安城・二本木小	安城市 〃
〃	齋藤 英二	西尾・一色西部小	西尾市 〃
〃	福井 信也	知立・知立南小	知立市 〃
〃	池田 互隆	高浜・高取小	高浜市 〃
〃	吉澤 通記	みよし・三好中	みよし市 〃
〃	岡本 智	幸田・荻谷小	幸田町 〃
〃	吉見 央	豊橋・牟呂中	豊橋市 〃
〃	上松 眞一郎	豊川・一宮南部小	豊川市 〃
〃	遠山 祐幸	蒲郡・竹島小	蒲郡市 〃
〃	原田 耕三	新城・鳳来寺小	新城市 〃
〃	立花 英夫	田原・衣笠小	田原市 〃
〃	村松 忠男	北設楽・設楽中	北設楽郡 〃
庶務	伊奈 希依子	豊橋・前芝中	三河小中学校長会庶務
会計	立川 恵理	豊川・御津中	〃 会計補佐